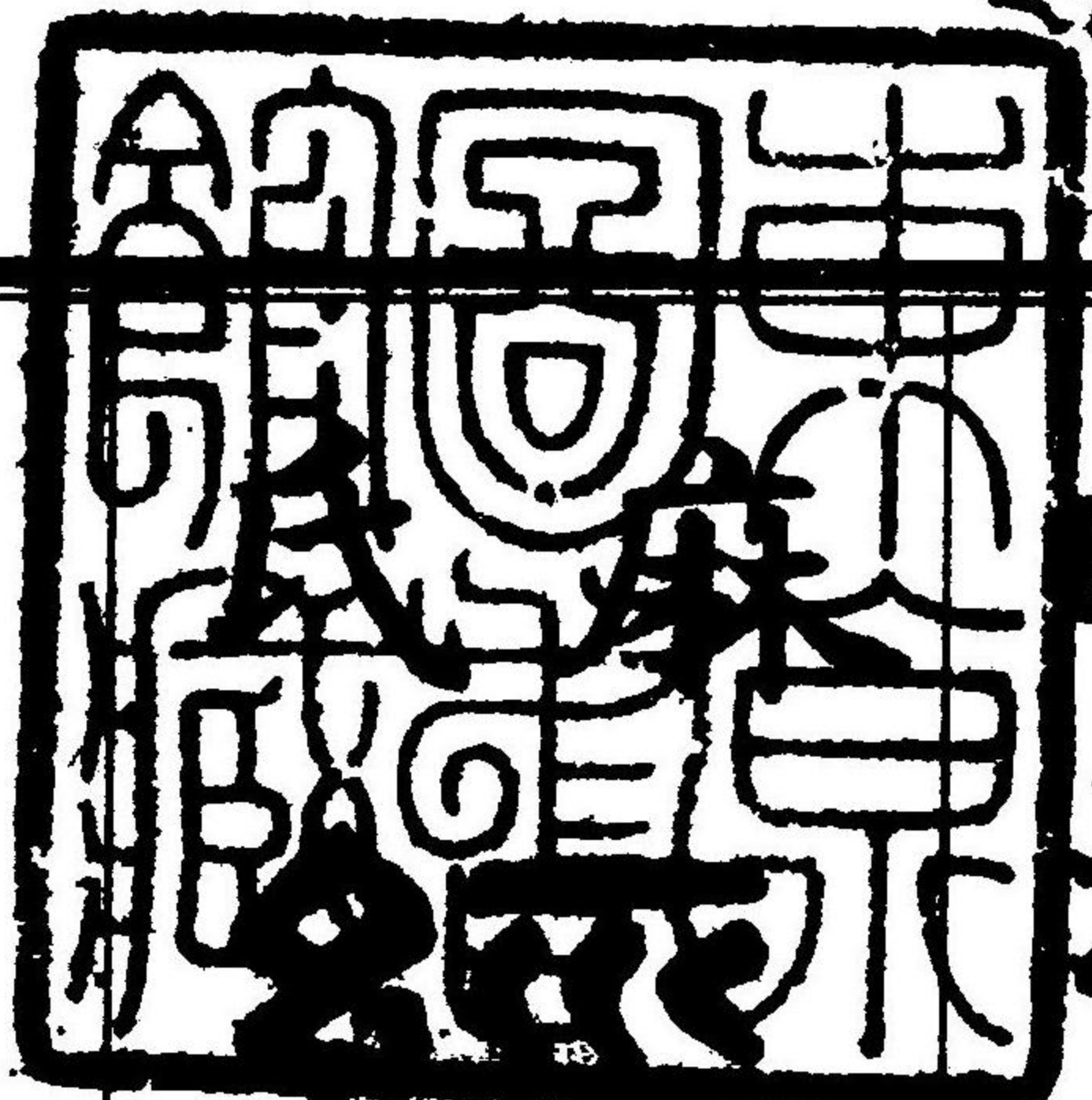


明治二十年五月二十四日内務省交納

明治二十年三月刊行



經濟哲學

卷中

元老院藏

經濟哲學中卷目錄

第五章 價格の理論

緒言

第一項

價格の釋義 ○内附價格なる言辭の誤謬  
○價格の虧退及び減少 ○價格の標準の  
不應有

頁數

一

節一

「價格ノ釋義」

「價格」ノ異ナル場合

「貨幣」ト「信約」トノ併比

「價銀」ハ一般ニ騰貴シ或ハ下落スル事アレド「價格」ハ一般ニ騰  
貴シ或ハ下落スル事無シ

「内附價格」ナル言辭ノ誤謬

此ノ誤妄ナル言辭ノ根原

「貨幣」ハ内附價格無ク一般且ツ永久ノ價格有リ

「貨幣」ト「銀行株券」トハ同ジ道理ニ依テ價格有リ

「價格」ノ「虧退」及ヒ「減少」

一

六

十四

十七

二十二

二十三

二十八

三十

三十一

三十四

經濟哲學

(一)

節三

(二)

節四

價格本位ノ不慮有ナル事  
此ノ事項ニ關スルミスノ混亂  
此ノ事項ニ關スルリカルドノ混亂  
ペイレインノ價格本位論

第二項 價格の根本源泉即ち原因

目録

節五  
節六  
節七  
節八  
節九  
節十  
節十一  
節十二

「價格」ノ「單一普關」ノ原因無カルベカラザル事  
「價格」ノ「本實」即チ原因ノ討究  
「價格」ノ場合ノ變遷  
「勞力」ハ「價格」ノ原因ナリト云フ「教理」ノ審查  
ロ、クノ「教理」  
リカルド、マクロ、チ及ビケレインノ「教理」  
ペーコンノ「歸納論法」ノ「原理」ヲ「勞力」ハ「價格」ノ原因ナリト云フ  
「教理」ニ適用ス  
「勞力」ハ「價格」ノ「本實」即チ「原因」ニ非ザル事  
「勞力」ニシテ「價格」ノ原因ナルトキハ「勞力」ノ「價格」ノ「原因」ハ何ゾ  
ヤ  
「巨額」ノ「無體所有」ハ「勞力」ノ「結果」ニ非ザル事  
「勞力」ハ「價格」ノ「偶發性」ナリ  
「勞力」ハ「價格」ノ「原因」ナリト云フ「教理」ノ全ク謬妄ナル事

(三)

經 濟 哲 學

節十三  
節十四  
節十五  
節十六  
節十七  
節十八  
節十九  
節二十  
節二十一  
節二十二

「ペーコン」ノ「格言」  
「形體」ハ「價格」ノ「偶發性」ナルノミ其必須ニ非ズ  
「永存」若クハ「繼續」ハ「價格」ノ「偶發性」ナルノミ其必須ニ非ズ  
「功用」ハ「價格」ノ「本實」即チ「原因」ナリト云フゼ、ビ、セイノ「教理」  
此ノ「教理」ノ「誤謬」  
「需要」ハ「價格」ノ「唯一」ノ「本實」即チ「原因」ナル事  
「ガイゼエベルト、ビユーム、ゼノヴェエシー、ベツカリヤ、メルリ」  
「理物學派」コンダヤークハ「需要」ヲ以テ「價格」ノ「原因」ナリトス  
「ミス」ノ「自家檢査」  
「ホウエートリ」ノ「價格論」  
ゼ、ビ、セイノ「價格論」  
「バスチヤ」ノ「價格論」  
「勞力」ハ「價格」ノ「原因」ナルニ非ズシテ却テ「價格」ハ「勞力」ノ「原因」即チ「誘引」ナリ  
「價格」ハ「物體」ノ「實質」ニ非ズシテ「人心」ノ「情動」ナリ  
「投機」ハ「生産」ノ「母」ニシテ「需要」ハ「價格」ノ「根本」ナリ  
「獨り」成果ノミ「價格」ヲ有スル事  
ゼ、ビ、セイノ「人ヲシテ迷ハシムル」誤謬  
「シドニー」ミスノ「寶石論」

節一	「歸納經濟」ノ結局	二百九
節二	「演繹經濟」ノ開端	二百十四
節三	「元貨」ノ意味	二百十五
節四	英國ニ於ケル金及ヒ銀ノ「元貨」	二百十六
節五	鑄貨ノ意味	二百十七
節六	ホーメルノ詩ノ時代ニ於テハ貨幣無カリシ事	二百十九
節七	希臘ニ於ケル流通物ノ第一種 鑄貨ノ發明	二百二十三
節三十一	格段ナル諸種ノ場合ニ於テハ「普關理法」ヲ變改スル事情モ有ル可キ事	二百二十五
節三十七	「リカルド、ミル」兩氏ノ經濟統系ノ「根本ノ難點」	百七十九
節三十八	「需要供給」ノ比率ナル言ニ對スル「ミル」氏ノ駁論	百八十
節三十九	「ミル」氏ノ統系ハ理學ニ稱ハザル事	百八十六
節四十	「ミル」氏ノ「列國價格」ノ理論ハ「連續律」ニ背ク事	百九十三
節四十一	「リカルド、ミル」ノ經濟統系ハ自然哲學ノ本然ノ原理ニ相反スル事	百九十八
節三十六	「サージョン、ヘルズシエル」ハリカルドノ「經濟統系」ヲ非難シタル事	二百五

第六章 鑄貨ノ理論

節二十三	較少キ努力ヲ以テ得タル成果ハ較多キ努力ヲ以テ得タル者ヨリモ大ナル價格ヲ有スル事アリ	百四十五
節二十四	交易ニ於テ雙方共ニ利益アリトスル敎理ノ解釋	百四十六
節二十五	「經濟」ハ「需要」ノ原因ニ關係セザル事	百五十一
節二十六	社會ノ各級ハ互ニ他級ノ爲ニ必要ナル事	百五十二
節二十七	「ロック」ノ敎理ハ謬妄ナル事	百五十三
節二十八	「テームス河」ノ小舟	百五十七
節二十九	「ロレット」ノ「サンタカサ」	百五十七
節三十	「ラサレ」ツトノ「嬰跡」	百五十八
節三十一	「價格」ノ「單一普關」ノ理法ニシテ「交易」ノ「六種」ニ適用スベキ者無カルベカラザル事	百六十
節三十二	此ノ「理法」ノ「願合」スベキ「普關原理」	百六十三
節三十三	「價格」ノ「種種」ノ「現象」ヲシテ相異ナル「價格」ノ「理論」ニ「根基」セシムルハ「經濟理學」ノ「普關」ナル所以ヲ「破却」スルモノナル事	百六十六
節三十四	「經濟」ノ「普關理法」	百六十九
節三十五	此ノ「理法」ノ「體裁」ヨリ起ル結果	百七十二
第三項	價格の普關理法即ち經濟の普關理法の 討究	百七十八

(七) 學 哲 濟 經

節十九	節二十	節二十一	節二十二	節二十三	節二十四	節二十五	節二十六	節二十七	節二十八	節二十九	節三十	節三十一	節三十二	節三十三	節三十四	節三十五	節三十六	節三十七	節三十八	節三十九	節四十	節四十一	節四十二	節四十三	節四十四	節四十五	節四十六	節四十七	節四十八	節四十九	節五十	節五十一	節五十二	節五十三	節五十四	節五十五
-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------

「十進貨幣」  
 ロンドリパープルの鑄税ヲ不可トスル論  
 鑄貨制度ノ三ノ異種  
 第一ノ制度ニ於テハ「十進鑄貨」ヲ宜シトス  
 佛國ノ制度ハ第二種ノ例ナリ  
 英國ノ制度ハ第三種ノ例ナリ  
 「鑄貨」ヲ十進ニ改メントスル事ニ對スル熱心  
 此ノ計畫至當ナルニ似タル事  
 其實ハ謬妄ナル事  
 其謬妄ナル所以ノ理  
 十進全數ト十進小數トハ相對比ス可カラザル者ナル事  
 現在ノ制度ノ勝レル所以  
 「十進鑄貨」ニ關スル原理  
 十進計算ノ勝レル所以  
 合衆國鑄貨ノ十進制度  
 商業上ノ天性ハ十進除法ヲ拒絕ス  
 佛蘭西ノ十進鑄貨

三百四十四	三百五十二	三百五十三	三百五十四	三百五十五	三百五十六	三百五十六	三百五十七	三百五十七	三百五十七	三百五十八	三百六十三	三百六十五	三百六十九	三百七十	三百七十二	三百七十八	三百八十八
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------

(六) 錄 目

節十八	節十七	節十六	節十五	節十四	節十三	節十二	節十一	節十	節九	節八
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----

「リヂイヤ人ノ鑄貨」  
 鑄貨ト元貨トノ關係  
 「金」ノ「官價」及ヒ「市價」ノ意味  
 「虧退鑄貨」ノ結果  
 眞惡ニ種ノ鑄貨共ニ流通スル事無ク兩惡ナル鑄貨ハ必ズ善  
 眞ナル者ヲ驅除スル事  
 「金」ノ「官價」ヲ確定スル事  
 「鑄貨」ノ「虧退」ヲ檢討スルノ方法  
 「本位」ノ變改  
 「磅」トハ何ゾヤ  
 英國及ヒ蘇國ノ金銀鑄貨ノ「虧退」ノ編年表  
 「兩本位」論  
 千六百九十五年ノ鑄貨ノ兩狀  
 ラウンテスノ立案  
 ロックノ鑄貨論  
 ニウートンノ鑄貨論  
 千八百十六年ノ改鑄  
 「鑄税」  
 スミス及ビマクロウチノ鑄税ヲ可トスル論

二百二十九	二百三十三	二百三十七	二百四十二	二百四十八	二百五十一	二百五十三	二百五十七	二百六十一	二百六十八	二百七十三	二百八十三	二百九十一	二百九十九	三百二十三	三百三十七	三百四十	三百四十四
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------

節五十六	伊太利ノ十進鑄貨	三百九十九
節五十七	伯耳義ノ十進鑄貨	三百九十二
節五十八	瑞士ノ十進鑄貨	三百九十四
節五十九	兩西西里ノ十進鑄貨	三百九十五
節六十	子セルランドノ十進鑄貨	三百九十六
節六十一	葡萄牙ノ十進鑄貨	三百九十七
節六十二	露士亞ノ十進鑄貨	三百九十八
節六十三	希臘ノ鑄貨	三百九十九
節六十四	此等ノ例証ニ關スル評論	四百
節六十五	英國鑄貨ヲ十進ニスルノ議案	四百二
節六十六	英國鑄貨ヲ十進ニスルノ難キ事	四百九
節六十七	英國普通貨幣ヲ設クルノ難キ事	四百十一
節六十八	萬國普通貨幣ヲ設クルノ難キ事	四百十三
節六十九	第七節 信約の理論	四百十四
節七十	緒言	四百二十四
節七十一	第一項 信約の性質の討究	四百二十四
節七十二	「信約」ノ釋義	四百二十六
節七十三	「保管」ト「負債」トノ區別	四百二十七
節七十四	「船荷送狀」「船渠預託書」等ト「銀行儲券」爲替手形」トノ區別	四百三十七
節七十五	「貸與」ナル語ノ泛意	四百三十七

節四	英語ニ於テハ「貸與」ナル語ヲ二種ノ相異ナル作用ニ適用ス 「ムチユム」及「ビコム」モ「チユム」ノ差別 「信約」ノ性質ニ關スル謬妄ナル「觀念」 ヘンリー・ソルトン氏及ビセルヌスキ―氏ノ誤認 數學家ハ「負債」ヲ「負債」ト稱スル事 ソルトン氏ノ定説ノ法ハ人類ノ知識ノ五科ノ相異ナル者 ニ反スル事	四百四十二
節五	代數ノ符號ノ理論及ヒ「反對」ノ符號ト運算ノ符號トノ分別ノ 理論ヲ經濟ニ適用スル事	四百四十六
節六	自然理學ニ於ケル(+)及ヒ(-)ナル符號ノ意味 右ノ例	四百五十一
節七	他ノ例	四百五十五
節八	符號ヲ「時順」ニ應用ス	四百五十九
節九	符號ハ「反對」ノ意ヲ示ス事	四百六十二
節十	符號ノ連合ノ規則ハ「經濟」ニ適用シ得ベキ事	四百六十六
節十一	符號ヲ「經濟」ニ適用スルノ次第	四百六十七
節十二	「請求」ノ權利「ニシテ」正量ナルハ「仕拂」ノ義務ハ「負債」ナル事	四百六十八
節十三	「有體」ノ所有「ニシテ」正量ナルハ「無體」ノ所有ハ「負債」ナル事	四百七十
節十四	無體所有ノ他ノ種類	四百七十二
節十五		四百七十三
		四百七十四
		四百七十五

第十六	「貨幣」ト「債約」トハ相背馳シ相反スル「可量物」ナル事	四百七十五
第十七	「債約」ハ「貨幣」ノ餘ニ更ニ加入ス可キ「所有」タル事	四百八十一
第十八	「讓移」スベキ「所有」ノ種類	四百八十三
第十九	「負債」ニ關スル「規則」ノ「定説法」ノ「不完全」ナル事	四百八十五
第二十	「負債」ノ「除免」ハ「資本」ノ「増加」ナル事	四百八十九
第二十一	「ビーコック」氏ノ「誤謬」ナル「定説法」	四百九十一
第二十二	「ビーコック」氏ノ「他」ノ「誤謬」	四百九十四
第二十三	「ビーコック」氏ノ「誤謬」ノ「解釋」	四百九十六
	「債約」ハ「一個人」ノ「請求」ノ「權利」ニシテ「負債」ハ「一個人」ノ「仕拂」ノ「義務」ナル事	四百九十八
第二十四	「債約」ノ「贈與」ニ依テ「負債」ヲ「消滅」スル所以	五百二
第二十五	「商業」ニ於ケル「債約」ノ「用法」	五百三
第二十六	「貨幣」ハ「權利」ニシテ「負債」ハ「義務」ナル事	五百五
第二十七	「商業」ニ於ケル「債約」ト「貨幣」トノ「分量」ノ「比較」	五百九
第二十八	「債約」ハ「無體」所有「ナル事」	五百十三
	「羅馬法」ニ於テ「債約」ヲ「富資」ノ「部類」ニ「置ク」事	五百十七
	「英吉利」ノ「法律」ニ於テ「モ」亦然スル事	五百十九
第二十九	「債約」ニ關スル「最後」ノ「誤謬」	五百二十一

第三十

「富資」ハ「可交易權利」ナル事  
「債約」ノ「經濟」ニ於ケルハ「尙ホ」引カ「重學」ニ於ケルガ如クナル事

五百二十三

第二項 債約即ち負債の讓移

「所有」ノ「種類」

「船渠」ニ「係ル」所有「契約」ニ「因ル」所有「重複契約」單「契約」

「羅馬法」ニ於ケル「負債讓移」ノ「原因」並ニ「進歩」

「羅馬」上世ノ「法律」ニ於テハ「委任者」即チ「代辦者」無キ事

「衡平法」上ノ「權利」ノ「起源」

「プロキユラトル」ヲ「認可」シタル事

「債主」ガ「讓渡人」ノ「プロキユラトル」トシテ「出庭」スルヲ「許シタル事」

「アレキサンデル」セ「ゾエル」スノ「憲法」ニ於テ「純然タル」「負債」ノ「賣買」ヲ「許シタル事」

「バシリカ」ニ於テ「此等」ノ「法律」ヲ「確メタル事」

「此等」ノ「法律」ハ「英國」ヲ「除ク」外「全歐洲」ノ「商法」ト「爲リタル事」

「羅馬人」手形「ヲ使用」ス

「負債」ニ關スル「英吉利法律」並ニ「衡平法」上ノ「原理」

五百四十一

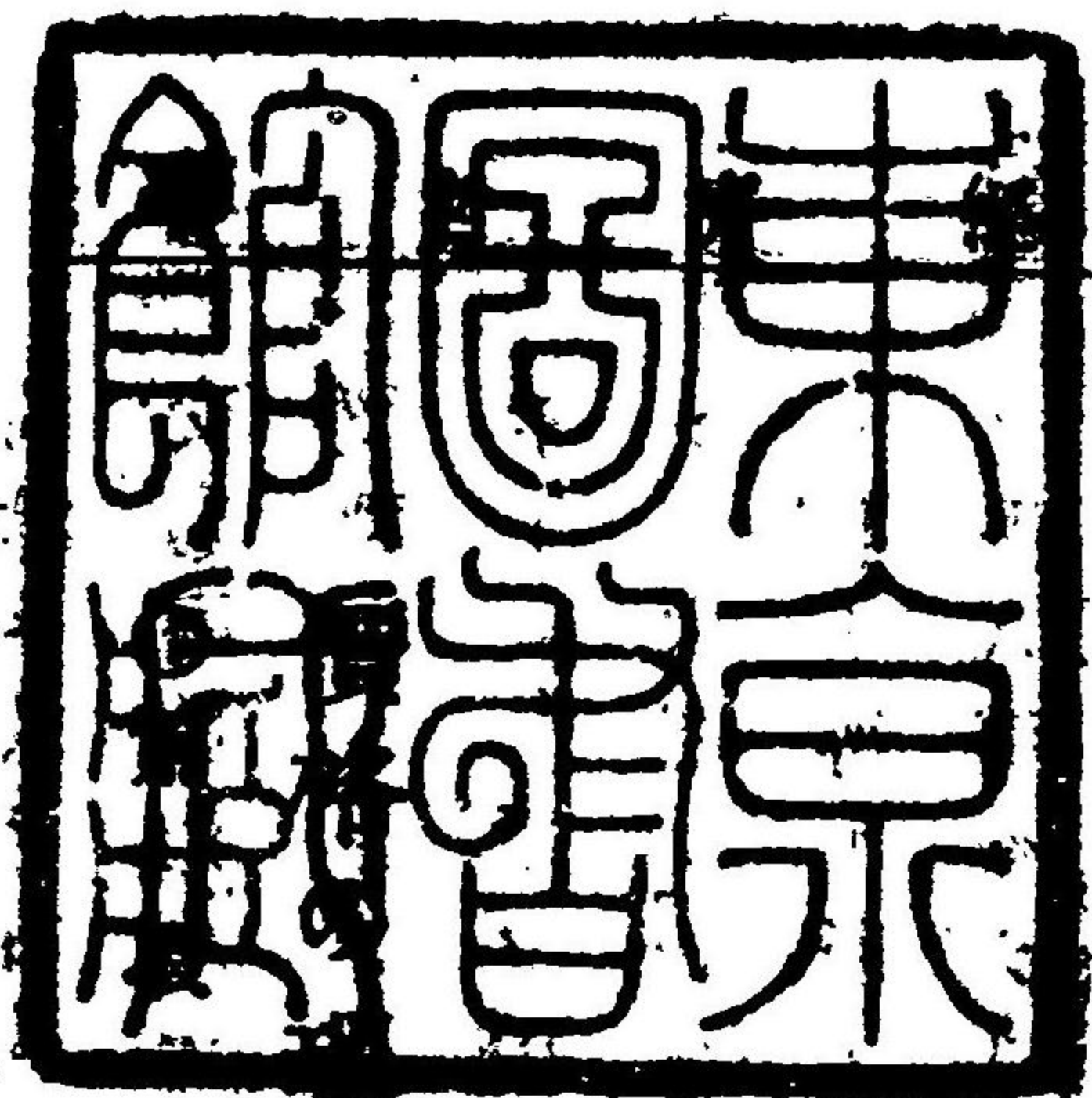
第三十一	「所有」ノ「種類」	五百二十三
第三十二	「船渠」ニ「係ル」所有「契約」ニ「因ル」所有「重複契約」單「契約」	五百二十四
第三十三	「羅馬法」ニ於ケル「負債讓移」ノ「原因」並ニ「進歩」	五百二十五
第三十四	「羅馬」上世ノ「法律」ニ於テハ「委任者」即チ「代辦者」無キ事	五百二十八
第三十五	「衡平法」上ノ「權利」ノ「起源」	五百二十九
	「プロキユラトル」ヲ「認可」シタル事	五百三十三
	「債主」ガ「讓渡人」ノ「プロキユラトル」トシテ「出庭」スルヲ「許シタル事」	五百三十七
第三十六	「アレキサンデル」セ「ゾエル」スノ「憲法」ニ於テ「純然タル」「負債」ノ「賣買」ヲ「許シタル事」	五百三十八
第三十七	「バシリカ」ニ於テ「此等」ノ「法律」ヲ「確メタル事」	五百四十
第三十八	「此等」ノ「法律」ハ「英國」ヲ「除ク」外「全歐洲」ノ「商法」ト「爲リタル事」	五百四十一
第三十九	「羅馬人」手形「ヲ使用」ス	五百四十三
第四十	「負債」ニ關スル「英吉利法律」並ニ「衡平法」上ノ「原理」	五百四十五

節四十一	此事項ニ關スル普通ノ教理	五百五十二
節四十二	羅馬政略ト封建政略トノ差異	五百五十三
節四十三	契約ニ依ル所有ノ例	五百五十四
節四十四	封建ノ所有	五百五十六
節四十五	轉事式ヲ不用トシタル法律	五百五十八
節四十六	訴訟物件ノ讓移ニ關スル普通法	五百六十
節四十七	訴訟物件ハ負債者ノ承諾ヲ經テ讓移ス可キ者トシテ想像シタルトハ法律ニ於テ讓移ス可キ者ナル事	五百六十二
節四十八	普通法ニ於テハ讓受人カ讓渡人ノ姓名ヲ以テ訴訟スルヲ許ス事	五百六十四
節四十九	衡平法ハ負債ヲ自由ニ讓移スルヲ許ス事	五百六十八
節五十	「負債」ノ讓移ニ關スル普通法ノ規則	五百六十九
	「債約証書」	五百七十三
	現時ノ爲替手形ノ制ノ起源	五百七十四
	爲替手形及ビ持參人ニ仕拂フ可キ約束楮券ハエドワルド第四世ノ時已ニ倫敦ニ於テ普通ニ使用シタル事	五百七十六
	千四百八十二年ノ爲替手形ト千四百八十八年ノ約束楮券トノ例	五百八十一

節五十一	千五百八十九年ノ爲替手形ノ例	五百八十四
節五十二	英國ニ於テ讓移ス可キ証書ノ爾後ノ歴史	五百八十六
節五十三	「手形」ヲ仕拂ノ命令トシ楮券ヲ仕拂ノ約束トスルノ區別ハ千七百〇四年以後ニ係ル事	五百九十一
節五十四	「英倫銀行」ノ銀行郵便手形ノ書式	五百九十四
節五十五	「爲替手形」及ビ「約束楮券」	五百九十五
節五十六	「爲替手形」ノ書式	五百九十五
節五十七	「約束楮券」ノ書式	六百一
	「王室」ノ法律類纂委員ニ「信約法」ノ類纂ヲ委托セラレタル事	六百三
	「信約法」ノ類纂ノ緒言	六百七
	第三項 信約の制限及び消滅	六百七
	「信約」ノ「際限」	六百十
	「信約」ノ「消滅」	六百十
	(一)「仕拂」ニ因ル者	六百十七
	(二)「棄捐」ニ因ル即チ除免者	六百十七
	(三)「信約」即チ「改正」ニ因ル者	六百十九
	(四)「相殺」即チ「差引」ニ因ル者	六百二十一
	「信約」ノ組織ハ「商業上」ノ「信約」及ビ「銀行上」ノ「信約」ニ科ヨリ成リ立ツ事	六百二十三
		六百二十六



經濟哲學中卷



第五章  
論

價格の釋義○内附價格なる言辭の誤譯○價格の虧退  
及び減少の區別○價格本位の不應有なる事

◎第二項 價格の根本源泉即ち原因

◎第三項 價格の普關理法即ち經濟の普關理係の討究

英國 マクラウド 原著

日本 田口卯吉 翻譯

有賀長雄 校閱

(四十)

第四項 商業上の信約

節五十八	「貨物」ノ同時ノ讓移ニ基ク「信約」	六百二十九
	「商業」ニ於ケル「爲替手形」ノ用法ノ解釋	六百三十二
	比等ノ「負債」ヲ購買スル「銀行商」ノ事務	六百三十七
	「爲替手形」ト「船荷送狀」トノ區別ノ例	六百四十六
	「銀行商」ノ發行ヲ減縮スル事	六百五十二
節五十九	「新生産」ノ「作造」ニ供用スルノ目的ヲ以テ創造スル「信約」	六百六十二
	「假便手形」ノ意味	六百七十四
	眞正手形ニ歸スル所ノ安全ノ過大ナル事	六百七十九
		六百八十六
		六百八十六
		六百九十三
		六百九十八
		七百一
		七百四
		七百十
		七百十一
		七百十三

第五項 銀行の理論

節六十	羅馬人「銀行」ヲ發明ス	六百八十六
節六十一	羅馬ノ「銀行事務」ニ關スル文獻	六百九十三
節六十二	「銀行」ク「バンク」ト云フ語ノ意義	六百九十八
	「バンク」銀行ハ伊太利語ノ「モンテ」ト同義ナル事	七百一
	英語ニ於テ「バンク」ナル語ノ意味	七百四
節六十三	「銀行商」カ「バンク」ト云フ語ノ釋義	七百十
節六十四	「銀行事務」ノ性質ニ係ル謬妄ナル觀念	七百十一
節六十五	「銀行事務」ノ眞正ノ性質	七百十三
	「銀行商」ハ負債ヲ創造シテ以テ「貨幣」又ハ「貨幣」ト「負債」トヲ購買	

○緒言

前篇ニ於テ古代ノ著述家及ヒアダム・スミス以來屈指ノ「經濟學士」ハ「可  
 交易可量物」ニ「土地」「人心」「人意」ノ三大異源ヨリ發出スル所ノ三種アヤヲ  
 悉識セシメテ述ヘタリ、此ノ三種ノ外ニ復タ一物ノ存スル無キハ確  
 乎トシテ爭フ可ラズ、故ニベールコンノ設定セシ「歸納論法」ノ原則ヲ適用  
 シテ本然ノ「概念」ヲ概括シ、以テ此ノ三種ノ可量物ヲ悉ク包含セシメタ  
 ル上ハ、得ル所ノ「概念」タルヤ、鉄鑄モ廢棄變改ヲ要スルニ至ルコト無キ  
 ヲ保ス可キナリ、何トナレバ三種ノ外ニ出テ、貨幣又ハ「勞力」又ハ「信約」  
 是レ三種ノ可量ノ形狀ヲ有セザル「經濟上可量物」ノ世ニ存センコト決  
 シテ應有ナラザレバナリ

「理物學派」ハ「土地」ヨリ產出スル有形ノ物品ノミヲ以テ富資ナリトシ、凡

ソ「產物」ハ必ス終ニ「產物」ト交易セラル、者ナリト説キタリ、是レセ、ビセ  
 イガ深ク思慮セズシテ用ヒシ所ノ言辭ノミ夫ノベツカリヤハ若シ其  
 千七百六十九年ニ於テ講述セシ所ヲシテ千八百四年ニ至ルマテ禁抑  
 ノ難ニ會フコト無カラレメ、フランニハ夙ニ「經濟學士」トシテ尊崇ヲ受  
 クベカリシ人ナルガ、其言ニ曰、何レノ時代ニ於テモ一方ニ無用ニシテ  
 一方ニ有用ナル「產物」ト「產物」トノ交易、產物ト用役トノ交易、及ヒ用役ト  
 用役トノ交易アリタリト、サレバベツカリヤハ唯タ二種ノ「可交易可量  
物」ト三種ノ「交易」トノミヲ舉ケテ論辨シタルモノナリ、然レモ、其實ハ三  
 種ノ「可交易可量物」ト六個ノ「交易」ノ異種ト有リテ、最モ近出ノ意義ニ於  
 テ謂フ所ノ「經濟」即チ「政治經濟學」ノ境域ヲ組成スルモノナルコト余輩  
 ノ既ニ証明セシ所ナリ、且ツ余輩ハ「經濟上可量物」ノ「價格」ナル者ニ下ダ  
 スニ之ト「交易」ス可キ他ノ「經濟上可量物」ノ謂ヒナリトノ釋義ヲ以テレ

(四)

タリ、故ニ「價格ノ理論」ノ討究ハ畢竟此等ノ「可交易可量物」即チ「經濟上可量物」ノ關係ヲ主宰スル理法ノ討究ニ外ナラザルナリ

今ヤ「價格ノ理論」ヲ十分ニセント欲セバ、左ノ諸件ヲ論述セザルヲ得ズ

第一 「價格」ノ「釋義」

第二 「價格」ノ「根本」「源泉」即チ「原因」

第三 「價格」ノ「普關理法」則チ「經濟」ノ「普關關係」

此ノ諸項ハ孰レモ皆著述家ノ間ニ於テ最モ太ダンク異論ノ行ハレシ  
所ナリ、故ニ余輩ハ前ニ此ノ學ノ普關概念ニ關シテ旋用セシ方法ニ倣  
ヒテ先ツ此ノ諸項ヲ殊別ニ討究セントス、即チ自餘一切ノ形而下理學  
ニ於テ專ラ勢ヲ占メタルベ—コンノ「歸納論法」ノ理法ニ準シ先ツ各項  
ヲ概括レテ偶發不用ノ觀念ヲ悉ク削除シナガラ三種ノ可量物ヲ包含  
セシメ、次ニ六種ノ交易ニ一様平等ニ適用ス可キ「價格」ノ「普關理法」即チ

「經濟」ノ「普關理法」ヲ討究セントス、

○第一項 價格の釋義○内附價格なる言辭の誤謬○價格の虧退及び減少○價格本位の不應有なる事

一節 ホエートリ―日附録 學「政治經濟學」ニ於テ論ス可キ所ノ關係ハ價格ノ外ニ一モ無キナレバ世ノ經濟學士ハ皆其意味ニ關シテ見解ヲ一ニスルヲ豫期スルハ自然ノ勢ナルニ實際ニ於テハ諸學士ノ意見ヲ異ニスル此ノ語ニ於ケルガ如ク甚シキ者ハ復タ有ラザルナリト蓋シ此ノ言ノ果シテ當ヲ得タルハ諸ノ「經濟學士」ノ著述ヲ通讀セシ者ハ其レ善ク之ヲ知ラン故ニ今先ツ「價格」ナル語ノ真正原本ノ意義ヲ確定シ次ニ此ノ問題ニ關シテ斯ク紛雜ヲ生セシメタル所以ノ者ヲ叙述

價格下ハ何ツ元來尊重ノ義ナリ例ハ我カ尊重スル朋友ヲ稱シテ貴價ナル朋友ト善クニ於ケルガ如ク然レモ是ノ如キ價格ハ「經濟」上ノ現象ト爲ス者ニ非ズ「經濟」上ノ現象ト爲サンニハ必ス一定ノ接觸ス可キ形狀ヲ具ヘザルヲ得ズ

前章第十九節ニ於テアリスト―トルガ價格「アッシャ」トハ他ノ貨物ニ對スル關係ヲリト言ヒレ事ヲ述ベタリ抑此ノ「アッシャ」トハ「アノ」ヨリ轉訛セル語ニシテ「重リス」又ハ「重量」ヲ具フノ義ヲ有スル者ナリサレバデモステニスモ金盃ノ事ニ關シテ「ア」ニウサヒカステ「ムナント」言ヘリ即チ各個「ミナ」ヲ「重リス」ノ義ナリ又「マル」ニヤスノ銀ヲ形容レテ「ホス」イキツリヤ「コシユス」ダライ「ロス」即チ「三百」ダリツク「重量」ノ重量ヲ有スルト「言ヘリ」故ニ「アッシャ」ハ「重量」上ノ重量トノ比例即チ均一ノ義ナリ





人類ニ倫教ハ遠隔ス。其言ヲコトヲ異域、之ト同様ニ單ニ可量物ヲ價格  
 アトト買テコトヲ得ザルナリ。然レテ何レノ地モ自給ノ各地ニ對  
 レテ種々各距離ヲ有スルト同様ニ、何レノ可量物モ之ト交易ス可キ他  
 ノ可量物ノ多キト共ニ多キ種類ノ價格ヲ有スルナリ  
 譬ヘバ土產ヲ示ス所ニ「乙」ナル者ヲ以テ「ギ」ニ「ナ」ト假定セバ「甲」ハ  
 左ノ如キ三種ノ可交易可量物ノ一ナルベレ、即チ時計ノ如キ有形ノ產  
 物ナリトスルモ可ナリ、理學、文辭ノ若干、教授ノ如キ、及ハ歌舞、演劇以  
 下ノ遊技ヨリ生ズル若干ノ快樂ノ如キ無形ノ產物ナリトスルモ可ナ  
 リ、「銀行株券」爲替手形」ノ如キ負債又ハ若干ノ「公債証券」ノ如キ無形ノ產  
 物ナリトスルモ可ナリ、此ノ諸種ノ所有ハ何レモ「ギ」ニ「ナ」ト價格アリ、  
 故ニ互ニ他ト同一ノ價格ヲ有セザルヲ得ザルヤ明白ナリ、何トナレバ  
 國物色均ニスル諸物ハ相互ニ均一スルベナリ。

然ルニ「乙」ハ必シモ貨幣ナリトスルヲ要セズ、是レ亦「甲」ノ如ク三種ノ「可  
 交易可量物」ヲ何レナリトスルモ可ナル者ナリ、由是觀之各樣ノ「經濟上  
 可量物」ハ自餘各種ノ可量物ノ名目ヲ以テ表示シタルノ「價格」ヲ有スベ  
 キナリ  
 蓋シ「富資」「價格」「生産的勢力」等ノ字義及ヒ廣ク「經濟」一般ノ事ニ關シテ  
 斯ク多クノ紛論ヲ生シタル所以ノ者ハ、職トシテ「經濟上可量物」ノ「價格」  
 ヲ爲ス者ハ之ト交易スルコトヲ得ベキ他ノ可量物コレナリトスル本  
 然ノ觀念ヲ明瞭ニ了解セザルニ由ルアリスト「ト」ハ曰「富資」トハ貨幣  
 ヲ以テ價格ヲ計算スルコトヲ得ベキ各物ノ謂セナリト、而シテ「イ」リキレ  
 ヤスノ著者ハ此ノ廣濶ナル釋義ヲ擴充シ若シ人アリ學問ヲ教授シテ  
 生計ヲ立テルコトヲ得バ、此ノ教授ハ金銀ノ富資タル所以、金銀ハ生活ニ  
 必用ナル貨物  
 必キ故ニ「ト」同一ノ道理ニ由テ富資ナリト斷論シタリ、之ト同シク羅馬

法律學士が富資の原義由以テ之ニ可交易性ニ存ス下爲以權利以  
 不富資の部ヲ列シテ其故ハ單純無象ナル權利モ他ノ各物ノ如ク賣  
 買スルヨリ得ベキ者ナレバナリ  
 商賈ノ富藏ニ存在スル貨物ノ價格ハ顧主ノ囊中ノ貨幣ナリ、衆庶ノ囊  
 中ニ存在スル貨幣ノ價格ハ其能ク買フ所ノ種種ノ產物用役ナリ、博士  
 ノ講義ノ價格ハ學生ガ之ニ仕拂フ所ノ謝金ナリ、代言人、内科醫、外科醫  
 ノ伎倆ノ價格ハ其收ムル所ノ入金ナリ、故ニ夫ノマルサスノ無形ノ產  
 物ハ價格ヲ量定シテ目錄ヲ編成シ難キ所ナルヲ以テ「經濟」ヨリ排除ス  
 ベシトスル論ハ、全ク「經濟」ノ主意ニ背戻スルノミナラズ、瞬間モ立ツコ  
 ト能ハザル者ナリ、蓋シ代言人、内科醫、外科醫、工學士、建築家及ヒ其他專  
 門ノ職業ヲ以テ生計ヲ立ツル一切諸人ノ入息、即チ勞力ノ價格ハ各様  
 ノ有形產物ノ價格ニ均レク容易ニ量定シテ列記スルコトヲ得難キ所

ハレバナリ

無體ノ權利即チ「契約」ノ「價格」ハ、之ニ依テ要求シ或ハ約束スルコトヲ得  
 ベキ所ノ物件是レナリ

五磅楮券ノ「價格」ハ五ツフェレイン「貨」ナリ、「郵便切手」ノ「價格」ハ書簡ノ遞送  
 ナリ、「頭髮ヲ修剪セント」ノ「契約」ノ「價格」ハ「頭髮ノ修剪ナリ」、「鐵道切符」ノ「價  
 格」ハ旅行ナリ、「動物園」ヲ縱覽スヘキ令狀ノ「價格」ハ縱覽ノ許可ナリ、「演戲  
 ノ入場切手」ノ「價格」ハ演劇ノ參觀ナリ

今若シ「頭髮ヲ修剪スル」ノ價銀ハ「一志」ナリトセバ、我レ囊中ニ「一志」ヲ有  
 スル也、又「理髮師」ノ之ヲ修剪セントノ「契約」ヲ有スルモ、何ノ異ナル事有  
 ランヤ、此ノ如キ場合ニ於テハ「一志」モ「剪髮」ノ「契約」モ我レニ取リテハ全  
 ク同一ノ「價格」ヲ有スルコト明白ナリ

我レ「一志」ヲ有スル麵包ノ一塊ヲ要求ストキバ、我カ囊中ニ「一志」ヲ有シ



又、債權者、債權人ノ債權ヲ保持スルモノ、債權ノ異ナル事有ラシヤ、一「債權」契約モ我レニ取リテハ全ク同一ノ「價格」ヲ有スルコト明白ナリ

「我レ」債權者トシテ觀セント欲ストセバ、我カ囊中ニ一「志」ヲ有スルモ、亦從覽スベキ存狀ヲ有スルモ、何ノ異ナル事有ラシヤ、此ノ場合ニ於テハ一「志」モ令狀モ我レニ取リテハ全ク同一ノ「價格」ヲ有スルコト明白ナリ之ヲ要スルニ何如ナル產物用役ニテモ我レノ之ヲ要求スルニ當リテハ、之ヲ獲得スル所以ノ貨幣ヲ囊中ニ有スルモ、又之ヲ我レニ與ヘントノ「契約」ヲ保持スルモ、其間ニ更ニ異ナル事有ルヲ見ザルナリ、然レバ則貨幣ト「契約」トハ何レノ場合ニ於テモ我レニ取リテ全ク同一ノ「價格」ヲ有スルモノト明白ナリ

抑、各商人ハ固ヨリ特ニ一種ノ貨幣ノミヲ與ヘント契約スル者ニシテ、

此ノ貨幣ハ其約束ヲ爲シタル商人ノ外他人ニ就テ之ヲ要求ス可キニ非ザレバ、此ノ「契約」ハ特別ノ「價格」ヲ有スル者ナルコト言ヲ疎クズ、貨幣ニ至リテハ則然ラズ、是レ我ガ欲望スル所ノ產物用役ノ何種ナリトモ何時ヲ期セズレテ要求スルコトヲ得セシムル一「般」ノ「權利」即チ「能力」ヲ有スル者ナリ、故ニ上ニ謂フ所ノ如キ「契約」ハ必ス特別ノ「權利」ナルニ反レテ、貨幣ハ一「般」ノ「權利」ナルコト明白ナリ

ナレバ此等特別ノ「權利」ハ是レ度量ニ於テコソ差異アレ性質ニ於テハ全ク貨幣ト同一ノ者ナルコト明白ナラズヤ、且ツ貨幣ト同一ノ理ニ由テ、共ニ「經濟」上可量物「即チ」富資ナルコト亦明白ナラズヤ、貨幣ハ畢竟各種ノ產物用役ヲ需要スル一「般」ノ「能力」即チ「權利」ヲ積聚シ、蓄藏シタル者ニ非メシテ何ゾ、故ニ若シ身代確實ナル諸人ニ於テ百種ノ產物用役ノ要求ニ應ゼントスル「契約」ヲ發スルハ、此ノ「契約」ヲ所持スル人ハ恰モ

國債ノ貨幣ヲ所持スルト同様に富裕ナラザルヲ得ンヤ故ニ知ル羅馬  
 法ニ於テ「富資」即チ「貨幣」ノ部ニ「權利」ヲ含蓋セシメタルノ正當ナルヲ然  
 レバ則此ノ如キ「特別」ノ「權利」ハ是レ有形産物ノ如ク「價格」ヲ有シテ富資  
 ナルコト明白ナルガ故ニ從テ有形産物ノ如ク賣買シ交易スルコトヲ  
 得一塊ノ麵包ヲ需要スルノ「權利」ハ以テ頭髮ヲ修剪セシムルノ「權利」ト  
 交易スルコトヲ得ベク前ニ記載セシアイヲニヤ油ノ手形ノ如キモ以  
 テ某類ノ茶若クハ其他ノ物産ヲ與ヘントノ契約ト交易スルコトヲ得  
 ベキナリ  
 之ト同様に三月ノ後ニ仕拂フベキ若干ノ貨幣ヲ要求スルノ「權利」ハ以  
 テ而坐シ「貨幣」ヲ要求スルノ「權利」ト交易スルコトヲ得ベレ而レテ此等  
 ノ「權利」ハ皆他ノ有形産物ニ均シク「經濟上可量物」即チ「富資」ナリ此ノ種  
 別物價ノ當國ニ於テ實ニ互換ノ所有ヲ爲ス者ニシテ最モ廣大ナル

商業ノ主物ナリ即チ第七章ニ於テ之ガ編制ヲ十分ニ説述セントス  
 夫レ「價格」ハ「甲」「乙」二箇ノ「經濟上可量物」ヲ交易スルノ「比率」ナルガ故ニ「乙」  
 ヲ以テ量リタル「甲」ノ「價格」ハ其以テ「乙」ヲ買フコトヲ得ルノ多少ニ從テ  
 増減レ又「甲」ヲ以テ量リタル「乙」ノ「價格」ハ其以テ「甲」ヲ買フコトヲ得ルノ  
 多少ニ從テ増減スルコト明白ナリサレバ或ル原因ニ由テ此等ノ可量  
 物ノ「價格」即チ「比率」變動スルコト有ルトキハ兩者ノ「價格」ハ共ニ變動セ  
 ザルヲ得ズ一方ノ「價格」變動レナガラ他方ノ「價格」ハ依然タリト言フノ  
 愚ナルハ恰モ汽車ハ既ニ遠ク停車場ヲ去リナガラ停車場ハ依然汽車  
 ト距離ヲ同クスト言フノ愚ナルガ如シサレバ又其相對スル所ニシテ  
 之ガ價格ヲ畫定スル者ノ貨物ヲ指示セズシテ此ノ可量物ノ價格變動  
 以テ若クハ依然タリト言フノ愚ナルハ恰モ何ヲ距離シ何ニ對シテ依然  
 タリト言ハズシテ物其距離即チ其比率ヲ増加シタリ又ハ舊位ヲ保存

由是觀之、他ノ一切諸物ノ價格コレヲ一定不變ナルニ非ラザルハ、  
 一、可量物ノ價格ハ一定不變ナルコト能ハザルヤ明白ナリ、何トナレバ  
 他ノ諸物ニ對シテ變動スルトキハ、則此ノ可量物ノ價格ハ變動シタル  
 者ト謂ハザルヲ得ザレバナリ  
 凡ソ物ノ價格ハ只此之ト交易スルコトヲ得ベキ他ノ各物ヨリ成リ立  
 ツ者ナレバ、若シ何物トモ交易スルコトヲ得ズンバ、其物ハ價格ヲ有セ  
 ズルコト明瞭ナリ、假令其物ニ何如ナル性質アリトモ、人ノ之ヲ要求セ  
 ズ之ヲ何物トモ交易スルコトヲ得ズンバ、之ヲ所有スル人ニ對シテハ  
 恰モ其天ニ在リテ砂漠ノ中央ニ在ル場合ニ於ケルガ如ク更ニ價格アル  
 コト無ク、世ニ貨幣スルモ價格ヲ有セザルコト有ルヲ信ズル能ハザ

ル人多ク、然レモ、若シ一「ギユ」貨ニレテ一物ヲモ買フニ足ラザルト  
 兼ハ、積産者ニ宛テタル手形ノ如ク、毫モ價格アルコト無シト、セイモ亦  
 日物ハ唯々交易ニ因テ價格アルコトヲ得ルナリト、此ノ語ハ實ニ善ク  
 古代ノ衆著述家及ヒ物理學派ノ説ト符合セリ  
 以上説ク所ハ寔ニ簡明ナルノミ、是レ價格ヲ以テ比率ニシテ二箇ノ物  
 體ノ存センコトヲ要スル者ナリト爲ス上ハ、必ズ生セザルヲ得ザルノ系  
 論ナリ、然ルニ、經濟學士ハ物ノ價格ハ其外ニ存スル物タル事ヲ認識シ  
 ナガラ、此ノ所見ト之ヲ以テ推シテ知ル可キ所トヲ固守セズシテ、常ニ  
 價格ハ恰モ物ニ内附セル無對ノ性質ナルガ如ク論辨シ、嘗テ此ノ二ノ  
 所見ヲ全ク相異ナルコトニ注意セズ、價格ヲ以テ或ハ性質ナリトシ、或  
 ハ比較ナリトシタルガ爲ニ、全論ノ上ニ意外ノ紛亂ヲ來シタルナリ  
 爾來論スベキ一事アリ、抑價格トハ一ノ經濟上可量物ヲ他ノ可量物ト

貨物ノ比率ニシテ、貨幣又ハ「信約」ヲ以テ表示シ、  
 然レモ、貨幣又ハ「信約」ニシテ、異常ニ増加スルトキ  
 ハ、自體各物ノ「實價」ハ騰貴スベシト雖モ、諸物相互ノ價格ニ至リテハ依  
 然トシテ變動セザルヘレ、例ヘバ一塊ノ麵包モ一斤ノ肉モ各六片ノ賣  
 價ナルモ、貨幣又ハ「信約」ノ増加セシガ爲ニ孰レモ一「志」ニ騰貴シタリト  
 キバ、一斤ノ肉ハ尙ホ一塊ノ麵包ノ價格ヲ有スベキナリ、故モ「實價」ニ於  
 テノ騰貴ノ騰貴又ハ一般ノ下落ト云フ事アリ  
 然レト雖モ「價格」ニ至リテハ一般ノ騰貴又ハ一般ノ下落ト云フ事無シ、  
 且ル氏曰、何如ナル物ニテモ自體各物ニ對シテ騰貴シ或ハ下落スルコ  
 トヲ得ザルハ猶ホ十二人ノ競走者悉ク皆他ニ先ンザルコトヲ得ズ、百  
 乘ノ水邊者皆他ヨリ高キコトヲ得ズ、競馬ニ於テ衆馬最後タルコトヲ  
 得ズ、乃チ衆物同様に相對ノ價格ニ於テ騰貴スル事有リト

妄想談話ニシテ、各派論人ノ同様に善悪ニシテ而モ更ニ隣人ヲ勝  
 ヲシテ社會アリト想像シタルト同一ナルノミ

○兩期價格なる言辭の誤謬

二節 今ヤ讀者ノ注意ヲ喚起シテ「經濟」ノ上ニ莫大ノ紛雜ヲ來タシメ  
 ル一リ言辭ニ致ラザト欲ス、セイ曰此ノ事ニ於テハ俗言ノ浸染ヲ排除  
 スルコト特ニ難シト、此ノ言辭ニ然リ、此ニ論辨セント欲スル所ノ言辭  
 ノ感染ノ如ク有害ナリシ者ハ復タ有ラザルガ故ニ、之ヲ撲滅スルハ此  
 ノ理學ヲ改良スルノ第一歩ヲラン、就中「信約」ノ事ヲ正當ニ領會センガ  
 爲ニ、此ノ事甚タ緊要ナリトス

活代ノ著述家ハ悉ク皆物ノ價格ノ以テ之ト交易スルコトヲ得ベキ他  
 ノ物件ニ在ルコトヲ確認シタリ、故ニ彼等ノ著述ニハ「內附價格」ト云フ

如神錯亂セル觀念ノ痕跡ヲ見ザルナリ、然ルニ後世ノ論者ハ此等ノ著述ノ弊スルコトヲ全ク忘レタル者ノ如ク、富貴ノ事ヲ考究スルニ及テハ獨リ金銀ノミ富貴ナリト想量シタルコト久シ、蓋シ他ノ諸物ハ必ズ消耗滅却スルニ反シテ、獨リ金銀ノミ長ク存在スルヲ以テナリ、然リ而シテ世人正貨ヲ以テ唯一ノ富貴ナリトスルノ愚見タルコトヲ思ヒ知ルニ及テハ、更ニ進テ物ノ固有スル性質ノ中ニ富貴ヲ成ス所以ノ性質アリト爲シ、終ニ「内附價格」ナル語ヲ用フルニ至リタリ、此ノ香醇ハ何レノ時ニ發セシ者ナリヤ詳ナラズ、然レモ千六百九十六年ノ比既ニ銳敏ナル著述家ハ「ボン」ハ物ノ固有不動ノ性質ト、之ヲ以テ交易スルコトヲ得ベキ所ノ者トヲ混同スルニ因テ紛雜ヲ生シタルコトヲ論辨セシ、其言ハ「名貴ノ新貨格ヲ經濟ニ關シテハ、價ニ答フハ、論ト云フ凡ソ此等紛雜ヲ釀成スルハ、價格ト功能トノ區別ヲ明瞭ニセザルニ由リ甚キ

キ者有ラズ」

「價格ナル者ハ物ノ賣價ニ外ナラズレテ、決シテ常定ナルコトヲ得ズ、何トナレバ、若シ然ルニ非ザリセバ、何レノ時、何レノ處ニ於テモ同一ナルヘキ理ナレバナリ、故ニ何如ナル物トイヘモ「内附價格」ヲ有スルコトヲ得ズ」

「然レモ物ハ其自體ニ於テ内附功能ヲ有セリ、是レ何レノ處ニ於テモ同一ナル者ナリ、例ヘバ磁石ノ鐵ヲ引キ、草根木皮ノ清涼利尿ノ性アルガ如シ、然ルニ此等ノ物ハ大ニ功能ヲ有スルニモ拘ラズ、價格ニ至リテハ其地ニ於テ之ヲ産出スルノ多少ニ依テ或ハ少ナク、或ハ全ク無キコトアリ、例ヘバ赤蘇麻ノ出血ヲ止ムルニ大功アルモ、此ノ地ニ於テハ多量ナク、蘇麻ニ至モ價格ナキガ如シ、香料藥草ノ產地ニ在リテハ殆ド雜草ト價格ヲ同スルモ、此ノ地ニ於テハ大價ヲ有スルガ如シ、斯ク價格ニ

差違甚き困難也、功用に至る迄の未ダ曾テ異ナラザルナリト  
 又曰「品物」ハ自體ニ於テ價格ヲ固有スルコト無シ、之ヲ用ニ供シ以テ價  
 格アリタル者ハ人ノ意見ト流行トニ在リト  
 ナレバ「バルボ」ンハ往時ニ在リテ既ニ内住ノ性質ト外對ノ關係トヲ混  
 同シテ今日ニ至ルマデ「經濟」ニ大害ヲ加ヘタル「内附價格」ナル稱號ノ不  
 當ナルコトヲ摘發シタル者ナリ、此ノ稱號ハ是レ即チ近世ニ於テ「信約  
 ノ理論」ヲ太ダシク紛亂シテ曖昧ナラシメタル所以ノ者ナリ  
 「理物學派」ノ前ニ出デ、「商賈制度」ニ抵抗ヲ試ミタル著述家ハ、近世ノ「經  
 濟理學」ヲ明星トモ稱スベキ「ホイギエベル」ト氏は是レナリ、氏ハ千六百  
 九十七年ノ刊行ニ係ルル「ル、デ、テイル、ド、ラ、フランス」千七百七年ノ刊行ニ  
 係ルル「ハクタム、ド、ラ、フ、ラ、ン、ス」等ノ著書ニ於テ七十五年ノ後ニ至リ「ソ  
 コ」ノ漸ク實行スルコトヲ得タル學理ヲ預メ主張シタリ、曰「富資ハ世

界ノ初ヨリ自然ノ定道、造物主ノ命令ニ因テ生計必須ノ需要ヲ十分ニ  
 補充スル所以ノ者ニ外ナラズ、其生計必須ノ需要ハ衣服ト飲食トニ止  
 マルヲ以テ、殆ド一切ノ富資ハ耕ト牧トノ二業ヨリ出ツルモノトスト、  
 而シテ又金銀ヲ以テ富資ナリト思考スルノ誤謬ヲ明示シテ曰、若シ金  
 銀ニシテ衣食ト交易スルニ由シ無キトキハ、何ノ用カアル、獨リ衣食ノ  
 富資ト稱スルニ足ル物體ナリト  
 此ノ時ヨリ以後、商賈制度ヲ駁撃シタル著述家ハ富資ノ字義ヲ土地ト  
 勞力ト、年々ノ産出ト解釋スルヲ常例トシタリ、サレバ「カナン」チロンハ  
 且土地ハ一切ノ富資ヲ産出スルノ本源ナリ、性命ノ保全、便利、安樂ニ供  
 スル者ハ富資ナリ、而シテ勞力ハ之ヲ得ルノ第一ノ手段ニシテ工業ハ第  
 二ノ重要ナリト「ツルゴ」ブ「ヘル」ベツ「カ」リヤ及ビ同時代ノ「經濟學  
 者」ハ皆富資ヲ以テ勞力ニ依テ大地ヨリ採取シタル有用必須ニシテ餘

快ナリ物品ナリトシタリ、此ノ釋義ハ品物ヲ以テ有要ナル性質アルガ  
 爲キ實ニタルコトヲ得ルナリトナス者ニシテ、自然ニ著述者ヲシテ内  
 附價格ナル語ヲ用ヒルニ至ラシメタル所以ノ者ナリ、此等ノ著述家ハ  
 敢テ可交易性ヲ富資タルニ必須ノ性質中ヨリ排除シタルニ非ズト雖  
 昔古人ノ如ク之ヲ以テ唯一ノ性質ナリトセズ、第二段即チ倍貳ノ必須  
 ナリトシタルモノナリ  
 爾後經濟學士ハ特ニ勞力ノ產物タル有價物ノミニ注目シテ、敢テ他ヲ  
 棄ルハズ、則チ勞力ノ結果ニ非ズシテ而モ價格ヲ有スル物甚ク多ク又知ラ  
 ザルナリ、是ニ於テ彼等ハ又思ヘラク、物ト物トヲ交易スルノ割合ハ之  
 ヲ產出ズルニ費シタル勞力ノ比例ニ準セザルヲ得ズ、故ニ物ノ價格ハ  
 之ヲ產出スルニ費シタル勞力ノ分量ニ依テ定マル者ナリトシ、終ニハ物  
 ニ施シテ其内附價格セシメタル勞力ノ分量ヲ以テ其物ノ價格ナリト

爲スニ至レリ、蓋シ内附價格ノ字此ニ權輿ス、而シテ最モ有名ナル經濟  
 學士ト雖モ多クハ價格ヲ以テ勞力ニ因テ賦附シタル所ノ一種特別ノ  
 性質ナルガ如ク思考スルコト、成レリ、爾來此ノ内附價格ナル妄語ハ  
 「經濟」ニ於テ行ク所トシテ之ヲ見ザル無キニ至レリ、然レモ若シ少シク  
 考察ヲ下ササバ、物ノ價格ヲ以テ之ト交易スル他ノ物ニ在リト釋義シ  
 ナガラ、尙ホ内附價格ナル語ヲ用ヒルハ全ク矛盾シテ兩立シ難キノ觀  
 念ニ屬スル事ヲ悟ルベキナリ  
 此ヲ之レ悟ラザルガ故ニ數多ノ「經濟」ノ書ニ於テ貨幣ハ内附價格ヲ有  
 スレド銀行積券爲替手形ノ類ハ價格ノ代表ニ過キズトノ論頗リニ見  
 エタリ  
 夫レ貨幣ハ勞力ノ結果タルコト論ヲ俟タズ、然レモスミスモ言ヘルガ  
 如ク、若レ之ヲ以テ何物トモ交易スルコトヲ得ズンバ、更ニ價格ヲ有セ

非之ヲ、故ニ其實ハスミテ到底可交易性ヲ以テ價格ノ本義ヲ  
 爲ス者、外ナラザルナリセ—モ、亦曰「貨幣ノ價格ハ其買ツ所ノ物ニ存  
 ス」ト、其レ然リ、貨幣ノ價格ハ何ヲ以テカ「内附」ナルコトヲ得ンヤ、一物ニ  
 シテ當ニ「内附價格」ト稱スベキ者ヲ有センガ爲ニハ、其物ノ内部ニ於テ  
 之ト交易スベキ物品ヲ有セザルヲ得ズ、今貨幣ハ「内附價格」ヲ有ストセ  
 ンカ、則一片ノ貨幣ハ自體ノ内部ニ於テ之ト交易ス可キ貨物以下ノ百  
 物ヲ有ストセザルヲ得ズ、蓋シ貨幣ハ以テ米穀ト交易ス可ク、以テ家屋  
 馬匹、車駕、書籍以下ノ各物ト交易ス可シ、而レテ此等ノ各物ハ即チ貨幣  
 ノ之ニ對スル「價格」ナリ、然レバ則此等ノ各物ノ孰レヲ以テ貨幣ノ「内附  
 價格」ナリトセンヤ  
 貨幣ハ「内附價格」ヲ有セズレテ、「一般價格」ヲ有スル者ナルコト明瞭ナリ、  
 何トナシバ國中「一般」之ヲ以テ交易ヲ爲スコトヲ得ベケレバナリ、サ

レド、今若シ之ヲ以テ野蠻ノ社會ニ置カバ、其價格ハ那處ニカ在ル  
 蓋シ全國ノ人民ハ何時ニ限ラズ、其國ノ貨幣ト交易シテ貨物ヲ與ヘン  
 コトヲ許諾セリ、故ニ貨幣ハ「一般」ニレテ且ツ「永久」ナル價格アル者ナリ  
 ト雖モ、其決シテ「内附價格」ノアル無キヤ明白ナリ  
 一切ノ「經濟學士」ハ即坐ニ仕拂フベキ銀行債券ヲ以テ貨幣ニ等シキ價  
 格アルコトヲ是認セリ、其故何ゾヤ、貨幣ト交易スルコトヲ得ベケレバ  
 ナリ、確實ナル商人ノ爲替手形ハ價格アリ、其故何ゾヤ、定期ニ至レバ貨  
 幣ト交易スルコトヲ得ベケレバナリ、然レバ則銀行債券及ヒ爲替手形  
 ノ價格アルハ貨幣ノ價格アルト同一ノ理ニ由ルモノナリ、即チ或ル他  
 ハ物ト交易ス可キヲ以テナリ、貨幣ハ之ヲ以テ交易スルコトヲ得バ價  
 格有リ、若シ交易スルコトヲ得ザレバ價格無シ、債券及ヒ手形モ之ヲ以  
 テ交易スルコトヲ得バ價格有リ、若シ交易スルコトヲ得ザレバ價格無



由是觀之、貨幣及各種ノ「價格」ハ只、其價ヲ異ニスルコト有ル  
 ノミニシテ性質ニ於テハ一様ナリ、一片ノ信約モ目ヲ貨物ノ一種ニシ  
 テ貨幣若クハ其他ノ貨物ノ如ク以テ交易ヲ爲ス可キ者タルナリ  
 「内附價格」ナル語ハ極メテ普通ナルヲ以テ現今ノ人ハ往往其義ノ立  
 ザルニ注意セズト雖モ、今試ニ之ト義ヲ同クシナガラ此ノ語ノ如ク甚  
 シク世ノ妄用スル所ト爲ラザル言辭ヲ舉ゲテ示サバ、人忽チ其誤マレ  
 ルヲ知ラン、例ヘバ人若シ「内附距離」若クハ「内附割合」ナド云フ語ヲ用フ  
 ルヲ見バ、果シテ何如ナル感覺ヲ起スベキヤ、其妄ナルコト一目シテ明  
 瞭ナラン、然レモ其妄ナルコト未ダ「内附價格」ナル語ノ妄ナルニ越ヘザ  
 ルナリ、貨幣ハ實質ノ「價格」ニ土地ト勞力ノ結果ナルガ故ニ「内附價格」  
 ナリ、手形若クハ株券ハ唯々「價格」ノ「代表」ニ過キズト云フノ愚ナルハ猶

ホ一尺ノ尺度ハ内附距離ナリ、相離ルコト一尺ノ二點ノ間ノ空處ハ距  
 離ノ代表ナリト云フノ愚ナルガ如シ  
 スミス及ヒリカルドガ異常ノ誤謬ニ陥リシ事ハ第七章ニ至リ、價格ハ  
 本位ニ關シテ論辨スル所之ヲ詳示スベシト雖モ、茲ニ屈指ノ著述家ノ  
 避クルコト能ハザリシ思想ノ混亂ノ一例ヲ示サンセニ、余曰「前ニ余輩  
 ガ價格ナル語ヲ用フルニ於テハ世俗ガ之ニ歸スル所ノ意味ヲ取ル者  
 ナル事ヲ述ベタリ、即チ物ヲシテ交易ニ於テ授受スルニ適當ナラシム  
 ルノ性質ト云フ義是レナリ、之ヲ再言セバ、貸借、買賣スルニ適當ナラシ  
 ムルノ性質ト云フ義ナリト」  
 又曰「斯ク解釋スル所ハ價格ナル語ハ二物ノ間ニ存立スル關係ヲ指示  
 スル者ナリト」  
 夫レ然リ例ヘバ瓜ヲレテ賣ルニ適當ナラシムルノ性質ハ好味ナリ、故

ニセエオムニ依レバ瓜ノ好味ハ即チ是レ其價格ナリ且ツ曰斯ク解釋  
スル所ハ瓜ノ價格トハ其五志ノ直段ヲ博スルノ謂ヒナリト即チ氏ハ  
物ノ性質ヲ奉ケテ之ガ實價ナリト做スモノナリ

凡ソ「經濟」ハ更ニ品物ヲレテ有要若クハ愉快ナラシムルノ性質ニ關係  
セズ唯チ一物ト他物トノ相對ノ關係ノミニ就テ論ズル者ナリ眞正ナ  
ル「經濟學士」ガ「經濟學士」トシテ討究スベキ所ノ品物ノ性質ハ全ク可交  
易性ノ一ヲ出アズ「經濟」ハ純然タル「比準」ノ理學タル事ヲ常ニ記憶スベ  
キナリ

○價格の「虧退」及び「減少」

三節 次ニ價格ノ「減少」ト「虧退」トノ二語ノ差ヲ陳述スベシ此ノ二語ハ  
往往在入ノ混同シテ用フル所ト爲レシ其實ハ本來別異ナル者ナリ蓋

レ貨物價格ノ變動トハ之ト比較スル所ノ他ノ貨物ノ若干ト同一ナリ  
ト思考セシ分量ノ變動スル事ヲ關フ「虧退」トハ貨物ガ公然之ニ屬スト  
スル所ノ價格ヲ實ハ有セザル事ヲ謂フ故ニ貨物ノ價格ノ變動トイハ  
バ必ス常ニ之ト比較スル所ノ他ノ貨物ニ對スルナリ之ニ反シテ「虧退」  
トイハバ其自体ニ對スルノ語ナリ故ニ若レ「一」ヲ「五」ノ金ヲ以テ十五  
「ヲ」ニ「銀」ト交易スル時ニ際レテ銀ノ分量不意ニ著ルク増大セシニ  
因リ「一」ヲ「五」ノ金ヲ以テ二十「ヲ」ニ「銀」ヲ買フ可キニ至レリトセバ  
之ヲ金ニ對シテ銀ノ價格減少シタルモノト謂フ若シ又銀ハ依然トレ  
テ變セザルモ金ノ分量異常ニ減少セシガ爲ニ「一」ヲ「五」ノ金ヲ以テ二  
十「ヲ」ニ「銀」ヲ買フ可キニ至レリトセバ之ヲ銀ニ對シテ金ノ價格騰  
貴シタルモノト謂フ然レニ若シ五「ヲ」ニ「銀」ヲ買フ可キニ至レリトスル所ノ  
銀行儲蓄ニシテ僅ニ四「ヲ」ニ「銀」ヲ買フ可キニ至レリトスル所ノ

之、其、通、ト、謂、又、若、干、純、金、ヲ、含、有、ス、ト、ス、ル、所、ノ、一、ギ、ニ、ト、貨、ニ、  
 及、テ、此、ノ、量、ノ、純、金、ヲ、含、有、セ、ル、ト、キ、ハ、亦、之、ヲ、廢、退、ト、謂、フ、ナ、リ、蓋、シ、價、  
 格、減、少、ト、ナル、際、ハ、貨、物、并、ニ、貨、幣、ニ、通、用、ス、可、キ、者、ナ、ル、廢、退、ト、大、ク、語、ハ、事、口、  
 流、通、物、ノ、ミ、ニ、限、ル、ヲ、正、當、ナ、リ、ト、ス、若、シ、同、様、ノ、變、動、ヲ、貨、物、ニ、發、ス、レ、ト、  
 キ、ハ、通、例、之、ヲ、稱、シ、テ、敗、壞、ト、曰、フ、  
 此、ノ、區、別、ハ、數、百、年、間、同、一、ノ、名、稱、ヲ、存、ス、ル、貨、幣、ノ、價、格、ヲ、論、辨、ス、ル、ニ、當、  
 テ、甚、ダ、緊、要、ナ、リ、ウ、イ、ル、レ、ム、セ、コ、シ、ケ、ロ、ル、ノ、時、ニ、於、テ、一、磅、ノ、貨、幣、ト、言、  
 ハ、バ、其、ニ、量、目、一、磅、ノ、銀、塊、ヲ、指、シ、タル、コ、ト、ニ、シ、テ、銀、ノ、外、ニ、貨、幣、ハ、有、ラ、  
 ザ、リ、シ、ナ、リ、爾、後、銀、ノ、產、出、大、ニ、增、加、シ、且、ツ、他、物、ヲ、貨、幣、ト、シ、テ、用、フ、ル、ニ、  
 至、レ、ル、ガ、故、也、其、價、格、大、ニ、減、少、シ、タ、リ、凡、ソ、斯、ノ、如、キ、事、ニ、關、ス、ル、世、說、傳、  
 話、ハ、真、偽、ヲ、確、定、シ、難、キ、者、ナ、リ、ト、雖、モ、姑、ク、世、人、ノ、言、フ、所、ニ、依、レ、バ、銀、ハ、  
 昔、初、メ、價、格、ノ、二、分、ノ、一、ニ、下、落、シ、タ、リ、豈、ニ、唯、タ、銀、ノ、價、格、ト、減、少、シ、タル、

ノ、ミ、ナ、ヲ、シ、ヤ、貨、幣、ノ、質、モ、大、ニ、敗、壞、セ、リ、乃、チ、累、代、ノ、帝、王、ニ、於、テ、貨、幣、ノ、  
 重、目、ヲ、減、少、セ、シ、テ、以、テ、當、今、ノ、一、志、ハ、一、磅、量、目、ノ、六、十、六、分、ノ、一、ト、成、レ、  
 是、レ、舊、時、ニ、在、リ、テ、ハ、二、十、分、ノ、一、ト、シ、タ、リ、故、ニ、人、或、ハ、言、フ、當、今、ノ、  
 一、志、ハ、僅、ニ、舊、時、ノ、價、格、ノ、三、十、六、分、ノ、一、ノ、用、ヲ、作、ス、ノ、ミ、ナ、リ、ト、蓋、シ、他、  
 ノ、事、物、ニ、於、テ、モ、大、ニ、變、化、ア、リ、シ、ガ、故、ニ、此、ノ、語、ノ、信、ナ、ル、ヲ、確、認、ス、ル、ノ、  
 難、キ、ハ、論、ヲ、咲、タ、ズ、  
 數、世、ノ、間、同、シ、名、稱、ヲ、保、テ、ル、正、貨、ノ、價、格、ニ、變、動、ヲ、生、ズ、ル、所、以、ノ、原、因、ハ、  
 或、ハ、同、一、ノ、結、果、ヲ、生、ジ、或、ハ、反、對、ノ、結、果、ヲ、生、ズ、蓋、シ、正、貨、ノ、性、質、ハ、敗、壞、  
 シ、量、目、ヲ、減、少、シ、タル、ニ、際、シ、テ、モ、原、質、ノ、價、格、增、加、ス、ル、ト、キ、ハ、以、前、ト、同、  
 價、ノ、他、物、ヲ、買、フ、ニ、足、ル、事、有、リ、ト、想、像、セ、ン、コ、ト、難、カ、ラ、ズ、昔、者、羅、馬、ニ、於、  
 テ、嘗、テ、斯、ノ、如、キ、事、起、リ、タ、リ、羅、馬、ノ、最、初、ノ、貨、幣、ハ、銅、ニ、シ、テ、建、國、ノ、後、銅、  
 ヲ、得、ル、コ、ト、大、ク、増、加、シ、タ、リ、其、初、ニ、用、ヒ、タル、價、格、ノ、名、稱、ハ、ア、ス、ト、云、ヒ、

價 格 の 變 更

分ノ一ニ減少シタルガ或ル著述家ハ曰大ニ銅ノ分量ニ缺乏ヲ來スレ  
 マルガ爲ニ其價格ヲ騰貴セシメタルヲ以テ敗壞セル貨幣ハ十全ニ一  
 磅ノ量目ヲ保チタル時ト同一ノ購買力ヲ有セリト果シテ此ノ言ノ如  
 クナリシヤ否ヤハ知ルニ由シ無ケレド孰レニシテモ目下ノ論點ニ關  
 係スル所無シ只此ノ如キ事ノ起リ難キニ非ザルヲ知ルベキノミ。  
 此等ノ事情ハ公債ノ事ニ關シテ大ニ公衆ニ關係スル所有リ例ヘバ政  
 府ヨリ公債ノ債主ニ約スルニ永久若クハ多年ニ涉リテ若干ノ金塊ヲ  
 仕拂ハン事ヲ以テストセバ此ノ期限内ニ於テ假令他物ノ上ニハ變動  
 ヲ來タサズトスルモ金ノ缺乏シ或ハ過多ナルガ爲ニ太ダシキ變動ヲ  
 呈スルコト有ルベシ然ルモハ政府又ハ債主ニ於テ最モ憂フ可キノ損  
 失ヲ蒙ルヲザルヲ得ザルナリ

經 濟 哲 學

於テ金貨ノ發見アリタルニ因リ大ニ金ノ價格ニ影響セン事ヲ豫想シ  
 たり或ル國ハ大ニ此ノ虞アラシクコトヲ恐レテ金ヲ法貨トスルノ制ヲ  
 廢止スルニ至リ又或ル著述家ハ「フエイン貨ノ重量ヲ増加スベシト  
 豫想シタリ此ノ豫想ハ甚メ信シ難キ者アリ且ツ萬一豫想ニ違ハザル  
 ノ結果ヲ生ズルニ至ルトスルモ此ノ如キ舉措ハ決シテ其當ヲ得タル  
 者ニ非ザルナリサレド今ハ此ノ如キ重大ナル事項ヲ論ズルノ所ニア  
 ラズ

○價格本位の不應有なる事

四節 可量物ノ價格ハ其物ト交易ス可キ他ノ可量物ニ在リトスル事  
 ト其可量物ヲ得ンガ爲ニ之ニ施シタル勞力ノ分量ニ在リトスル事ト



右ニ據テ、價格計算ノ三法ハ同一ナルコトヲ得ザルヤ論ヲ俟タズト雖モ、要スルニスミスハ物ノ價格ヲ以テ之ト交易ス可キ他ノ物ニ在リト釋義シタル者ナルコトヲ見ルベシ、故ニ甲ノ價格ハ勞産若クハ貨ノ變動ト直比例ヲ以テ變動スベキヤ明白ナリ、之ヲ以テ勞産若クハ貨ヲ多ク得ベクンバ、甲ノ價格ハ多ク、少ナク得ベクンバ、甲ノ價格ハ少シ、故ニ甲ト此等ノ可量物トノ交易ノ割合ニ變動ヲ生ズルトキハ、甲ノ價格ニモ變動ヲ生スベキコト十分ニ明白ナリ

サレバスミスハ價格ハ猶ホ距離ノ如ク二箇ノ物體ヲ要スルコトヲ認承スルモノナリ、此ノ二物ノ何レニ於テナリトモ位地ノ變動アルハ、距離ハ必ズ變動スベシ、之ト同シク、二箇ノ可量物ノ交易上ノ關係變動スルトキハ、此ノ變動ノ何レニ生ジタルヲ問ハズ、兩者ノ價格ハ變動セザルヲ得ズ、然ラバ一定不變ノ價格ナル者世ニ在ルベキ理無キヤ、明

白ナリ、荷モ他ノ各物トノ交易ノ關係一定不變ナルニ非ザルヨリ、何如ナル物ニレテモ一定不變ノ價格アラント難シ、故ニ余輩ハ物ノ實理ニ於テ他物ノ價格ノ變動ヲ計量スル所以ノ一定不變ノ價格本位ナル者有ルベカラザルヲ知ル、何トナレバ一物ノ價格不變ナルハ是レ即チ他ノ諸物ノ價格モ不變ナル時ニ於テノミ見ル可キノ現象ナルヲ以テ、一定不變ノ本位アルハ即チ變動ノ計量スベキ者世ニ有ラザルノ時ナレバナリ。

然レモ數多ク經濟學士ハ此ノ實理ニ於テ有リ難キ一定不變ノ本位ナル者ヲ搜索シテ、欲シテ精神ヲ徒費スルコト久シ、即チ右ニ引証シタル言句ノ後ニ於テスミスハ直ニ斯ク單一ニシテ不變ノ標準タルベキ物ノ探究ヲ初メタリ、彼レ曰、金ト銀トハ價格變動シ、時トシテハ多量ノ勞力貨物ヲ買ス可ク、時トシテハ少量ノ勞力貨物ヲ買フ可キガ故ニ本

此等ノ物ヲ得ズト、曰各人自然ノ一步ト去ヒ、一胸間ト云ヒ、一胸下云  
 フガ如ク、其分量常ニ異ナル者ハ決シテ他物ノ精密ナル尺度タルコト  
 タ得ザルト同様ニ、貨物ニシテ其自體ノ價格常ニ變化スル者ハ決シテ  
 他ノ貨物ノ價格ノ精密ナル標準タルコトヲ得ズ、サレド勞力ノ一様ナ  
 ル分量ハ何レノ時何ノ所ニ於テモ勞力者ニ對シ、一様ナル價格アリト  
 云フコトヲ得ベシ、其身ノ健康、體力及ヒ精神平生ノ如クニシテ、熟練巧  
 技モ一様ナランニハ、彼レ必ズ同量ノ休業、自由、及ヒ幸福ヲ得ザルベカ  
 ラズ、彼レ報酬トシテ受クル所ノ貨物ノ分量ノ何如ニ拘ラズ、其拂フ所  
 ノ賣價ハ同一ナラザルヲ得ズ、時トシテハ多量ヲ買フ可ク、時トシテハ  
 少量ヲ買フ可キコトアラシ、而シテ斯ク變化ヲ呈スル者ハ貨物ノ價格  
 ニ在リテ之ヲ買フ所以ハ勞力ニ在ルニ非ズ、一切ノ時、一切ノ所ニ於テ  
 モ、之ヲ得ルコト難ク、之ヲ取ムルニ勞多キ者ハ其價格貴ク、之ヲ得ルコ

ト易ク、之ヲ取ムルニ勞少キ者ハ其價格低シ、故ニ獨リ勞力ノミ決シ  
 テ價格變動スルコト無クシテ、一切ノ貨物ノ價格ヲ一切ノ時、一切ノ所  
 ニ於テ計算シ比較スル所以ハ至極真正ハ本位ト爲ス可キ者ナリ、是レ  
 即チ品物ノ實然ノ賣價ナリ、貨幣ハ唯タ名目上ノ賣價ナルノミ。  
 蓋シ勞力ハ同一ハ分量ハ常ニ勞力者ニ對シテハ同一ハ價格ナリト雖  
 モ、之ヲ使役スル人々ニ對シテハ或ハ多ク、或ハ少ナキコト有ルニ似タ  
 リ、  
 故ニ勞力ハ唯一ハ一般ニシテ精密ナル價格ノ標準ナリ、即チ一切ノ時  
 一切ノ所ニ於テ種種ノ貨物ノ價格ヲ比較スル所以ハ唯一ハ本位タル  
 可キ者ナリト

此等ノ句節ニ見エタル思想ハ太タシク混亂セル事蔽フベカラザル所  
 ナリ、一步若クハ一胸間ト云フガ如キハ無對自立ノ分量ナレバ、獨立シ

テ伸縮ニキ者ナル事言ヲ設クト雖モ價格ニ至リテハ分量ニ非ラズレテ比準ナル事スミスモ自カラ明音スル所ナリ、サレバ常ニ長短ヲ變ズルノ一歩ハ他物ノ長短ノ精密ナル標準タルコトヲ得ズト言フベクンバ、之ト同様ニ常ニ其比率ヲ變ズルノ分量ハ他物ノ比率ノ精密ナル標準タルコトヲ得ズト言フベキナリ、故ニ曰ク此ノ事ノ全體ニ係ル思想ノ微頭微尾混亂セルヤ明白ナリト、蓋レ尺度ハ以テ一樹ノ長短ヲ量ルベレ、何トナレバ孰レモ單獨ノ分量ナレバナリ、然レモ單獨ノ分量ハ以テ比率ヲ量ルニ足ラザルナリ、茲ニ左ノ方程式ヲ設クル者アリト假定セシカ

田ニニ

此ノ如キ方程式ヲ以テ真ニ存ズベシト爲スノ不可ナルヤ明白ナリ、或ハ四ノ五ニ於ケルハ猶ホ八ノ如シト云フノ誤謬ナルモ亦明白ナリ、必

ズ八ノ某數ニ於ケルガ如シト云ハザルヲ得ズ、是レ恰モ馬アリ能ク二十里ノ割合歩以テ走ルト云ヒテ時間ヲ示ザルノ誤謬ナルガ如シ、サレドスミスハ曰「努力ノ同一ノ分量ハ常ニ努力者ニ對シテ同一ノ價格アリト、是レ何ノ言ゾヤ、人アリ同一ノ勞動ヲ爲シテ或ルトハ一千磅ヲ得、或ルトハ僅ニ五志ヲ得トセバ、是レ同一ノ價格ナリト言フベキカ」スミスノ觀念ノ不整合ナルコト蓋シ視易キノミ、彼レ最初ニ甲物ノ價格ハ其以テ買フ可キ所ノ他物ノ分量ナリト解釋セリ、此ノ解釋ニ依ルルハ分量ノ多少ニ從テ變セザルヲ得ザル者ナリ、然ルニ後ニ至リ本然改メテ曰「價格ハ甲物ヲ生産センガ爲ニ費シタル努力ノ分量ナリ、曰甲物ニシテ同一ノ努力ニ依テ生産シタル間ハ其價格ハ一定不變ナリ、其以テ買フ可キ所ノ他物ノ分量ニ多少ノ差アリトモ價格ハ常ニ同一ナリト



「價格ナル語ハ諸ノ著述家ノ種種ニ差異シ或ハ擅着セル義ニ於テ使用  
 不ル所トス今不モスノ全論ニ貫徹スル混亂ヲ摘發センガ爲ニ其語ヲ  
 重學ノ言辭ニ反譯セバ明瞭ナルベシ即チ左ノ如シ  
 例ヘバ一步ト云フガ如ク度量ニシテ常ニ長短ノ變アル者ハ他物ノ  
 長短ヲ精密ニ秤量スル所以ノ者タルヲ得ザルト同シ理ニ由テ常ニ  
 自體ノ距離ニ變アル物體ハ他ノ物體ノ距離ヲ精密ニ秤量スル所以  
 ノ者タルコトヲ得ズ然ルニ太陽ハ常ニ同シ距離ニ在リ地球ハ時ト  
 レテハ太陽ニ近ヅキ時トシテハ太陽ヲ遠ザカルベシ然レモ太陽ハ  
 常ニ同シ距離ニ在リ而シテ地球ノ太陽ヲ離去スルノ度ハ時ニ依リ  
 テ差異アリト雖モ變シタル者ハ地球ノ距離ニシテ太陽ノ距離ニ非  
 ズ太陽ハ常ニ同一ノ距離ニ在ルヲ以テ一切諸物ノ距離ヲ一切ノ時  
 一切ノ所ニ於テ秤量比較スル所以ノ至極真正ノ本位ナリト

右ハスズク所見ニ就テ價格ナル文字ヲ距離ナル文字ニ改メ以テス  
 ヲ以テ觀念ヲ重學ノ語ニ直譯シタル者ナリ豈ニ驚ク可キノ至リナラ  
 ズヤフクランレンスホルチル曰「余輩ハ富國論ヲ修讀セント欲シタレド中  
 途ニシテ措カザルヲ得ザルニ至リシハ亦怪ムニ足ラザル所ナリ何ト  
 ナレバ第五章ノ論理ハ曖昧模糊トシテ何如ニ精神ヲ費スモ到底了解  
 ス可カラザル者ヲ包含スレバナリト  
 然ルニスミスハ斯ク同量ノ勞力ヲ費シテ生ジタル物件ハ其何ト交易  
 レ得ベキヤヲ問ハズ必ズ同一ノ價格アリト明言シタルノ後既ニ引証  
 シタル所ノ貨幣ヲ論ズル一段ニ至テハ則言テ曰「若シ何如ナル物品ト  
 モ交易シ難キトキハ貨幣ト雖モ價格ヲ缺クコト最モ無用ナル片紙ニ  
 譲ラザルベシト」サレバスミスハ價格ヲ以テ初ハ可交易性ニ歸シ次ニ  
 ハ勞力ノ分量ニ歸シ終ニ至リテ再ヒ可交易性ヲ以テ價格ノ尺量ト做

レナガフ此ノ二者ノ全ク相異ナル概念ニ屬スル事ヲ知ラザルモノナ  
 リ即チ此ノ如キ觀念ノ紛亂ハスミスノ著書ノ全體ニ透達シ其一半ハ  
 價格ノ基礎ヲ勞力ニ歸スルニ起リ餘ノ一半ハ之ヲ可交易性ニ歸スル  
 ニ起レルナリ  
 リカルフニ至リテモ同一ノ混亂全論ニ貫徹セリ曰「貨物ノ價格即チ之  
 ト交易不可キ他ノ貨物ノ分量ハ之ヲ生産スルニ必要ナル勞力ノ分量  
 ノ多寡ニ依テ定ル者ナリト」  
 又曰「社會ノ初ニ當リテ此等ノ貨物ノ交易價格即チ一物ハ若干ヲ以テ  
 他物ノ若干ト交易不可キヤヲ定ムル所以ノ規程ハ云云ト」  
 更ニ進テ論シテ曰「凡ソ貨物ニ賦附シタル勞力ノ分量ハ他物ノ價格ノ  
 變異ヲ正應ニ量知スル所以ノ一定不變ノ本位タル場合多シト」  
 又曰「足錢ノ價格ハ必ズ下落シ之ト交易不可キ他物ノ分量減少スベシ」

何トナレバ前ニ比スレバ少量ノ勞力ヲ以テ之ヲ製産ス可キガ故ニ從  
 テ前ニ比スレバ少量ナル他物ト交易セザルヲ得ザルニ至レバナリト』  
 其後ニ至リリカルフハ「價格ハ不變本位ナル者ノ追求ニ着手セリ即チ  
 自餘ノ貨物ノ決レテ免レザル所ノ變動ヲ悉ク免レテ常ニ一定不動ナ  
 ルベキ者ヲ云フ其論ニ曰斯ル標準ヲ得ルハ到底難キ事ナリ何トナレ  
 バ之ヲ産出センガ爲ニ要スル所ノ勞力ノ多寡常ニ同一ナル貨物ハ一  
 トレテ存セザレバナリト」  
 然レニ後ニ至リテハ則曰「若シ租銀ヲ要セザル鑛山ヨリ同量ノ勞力ト  
 同額ノ資本トヲ以テ常ニ同量ノ金塊ヲ收得ス可シトセバ斯ル場合ニ  
 於テハ金ハ實際上價格ノ不變尺量タルニ最モ近キ者ナルベシ蓋シ其  
 分量ハ需要ニ應シテ増加スルコト有ルベシ然レ其價格ハ不變ナル  
 ベシ故ニ他物ノ價格ハ絶エズ變動スルヲ秤量スルニ最モ善ク適當シ



以テ價格ノ不變本位ナリト爲シタル者ナルコト明白ナルベシ、其實ハ  
 穀物以下ノ他物ヲ以テ此ノ如キ本位ナリト爲スノ論モ出テザリレニ  
 非ズ、然レモ今此ニ此等ヲ審査セン事ヲ用ヒズ、何トナレバ余輩ノ主意  
 ハ唯々事物ノ至理ニ於テ一定不變ノ本位ト云フガ如キ者ノ決シテ有  
 ル可カラザル所以ヲ證明スルニ止マレバナリ  
 不變本位ノ不應有ナル事ヲ主張シタル第一ノ論者ハサモウエル、ペイ  
 レイナリトス、氏ハ感歎ス可キ著書タル「價格ノ性質、尺度及ヒ本源ノ討  
 究」ニ於テ之ヲ論ジタリ、此ノ書ヤ「經濟理學」ヲ建立スルニ於テ大功アリ  
 タリト謂フ可シ  
 一旦英國ノヤルド尺ト或ル外國ノ尺度トヲ目撃シテ其差異ヲ了知シ  
 得タルノ後ハ、外國ノ家屋ノ廣狹ヲ報ズル者アルニ當リテ該國ノ古今  
 遠近ヲ問ハズ甚ダ簡單ナル運算ヲ施シテ之ヲ英尺ノ本位ニ翻譯シ、以

テ内國ノ度量ノ廣狹ト比較スルニトヲ得ベシ、重量ニ於テモ亦然リ、古  
 代ノ人ハ容易ニ一、トシノ重ヲ提携シ得タルコト恰モ現今ノ人ガ一、ホ  
 ンドレヲトウエート重ヲ提携シ得ルガ如シト聞クトキハ、直ニ古代ノ  
 人ト今日ノ人トノ力量ヲ比較スル所以ノ本位ヲ得ベキナリ  
 世俗ノ語ニ於テ或ハ貨幣ヲ稱シテ價格ノ尺度ナリトセリ、蓋シ同シ時  
 同シ所ニ於テ行ハル、交易ニ關シテハ貨幣ハ果シテ尺度ナリ、同シ時  
 同シ所ニ於テ一、クオタルノ穀物ノ價銀六十、志ニシテ一頭ノ羊ノ價銀  
 六七十、志ナルトキハ、兩者ノ價格均一セル事ヲ知ルベシ、即チ兩者トモ  
 ニ同量ノ金銀ヲ以テ交易ス可キ事ヲ知ルベシ  
 然リト雖モ凡ソ斯ノ如キ事ハ單ニ五官ノミヲ以テ知覺ス可キ所ニ非  
 ズ、今若シ金ト銀トヲ他ノ諸物ト並べ置クモ、人間ノ五官ハ其價格ノ對  
 比何如ヲ知覺スルコト能ハザルナリ、價格ノ上ニ異常極端ノ激動アリ

其價ヲ吾人ノ知覺ニ入ルコト無クシテ經過セリトス  
 且其價ナレバ時代異ナレバ邦土ニ於テ得タル金ノ異ナレバ分量ノ異  
 ナレバ價格ヲ確知スルコトヲ得ベシト思惟スルニ至リテハ更ニ膠表  
 ナル者アリ今若シエリヤベスノ時代ニ鑄造シタル若干ノ金貨ト支那  
 ニ於テ鑄造シタル同量ノ金貨ト今上ヅクトトヤノ治世ニ鑄造シタル  
 同量ノ金貨トヲ並べ置クニ人間ニ何知ナル感覺アリテカ能ク其價格  
 ノ差ヲ知覺センヤ夫レ此ノ如キハ即チ價格ノ不變本位ヲ探求スル經  
 濟學士ノ得ント欲スル所ニ外ナラズ而シテ彼輩ハ千四百年ノ金ト千  
 八百年ノ金ト英國ノ金ト支那ノ金ト孰レカ貴キヤヲ他ニ對比スル所  
 無ク一舉ニシテ決定スル所以ノ本位ヲ求ムル者ナリ  
 今ヤ少シク思想ヲ廻ラサバ此ノ如キ者ノ理ニ於テ存シ難キ事ヲ知ル  
 ベレ蓋シ價格ハ獨リ交易ヲ跋テ外ニ表ル者ナリ故ニ交易ヲ行フニ

非ズレバ絶キテ價格ヲ見ルコト無シ吾人如何ニシテ千五百七十二年  
 ノ一ツランスノ金ト千八百七十二年ノ一ツランスノ金トヲ交易スルコト  
 ヲ得シヤベイレイ氏ハ其書ノ第七十二頁ニ詳説シテ曰價格ハ時ヲ同  
 クシテ存スル貨物ノ關係ナリ其故ハ斯ノ如キ者ニシテ始メテ彼此交  
 易スルコトヲ得ベケレバナリ一ノ時代ノ貨物ト他ノ時代ノ貨物トヲ  
 比較スルトキハ唯々前後ノ時代ニ於テ此ノ貨物ノ他ノ諸物ニ對スル  
 比率ヲ比較スルノミニ止マリテ一ノ時代ニ於ケル特立一箇ノ内附ノ  
 實質ト他ノ時代ニ於ケル同ク實質トヲ比較スルニ至ルコト無シ即チ  
 前後ノ時代ニ於ケル此ノ貨物ト他ノ諸物トノ交易ノ割合ヲ比較スル  
 ニ止マルナリ例スバ甲ノ貨物ヲ第百年ニ於テハ乙ノ貨物二箇ト交易  
 レ得バ第千八百年ニ於テハ乙ノ貨物四箇ト交易シ得ベカリレトモ  
 吾人ハ只甲ノ乙ニ對スル價格ノ二倍ニタルヲ知ル可キノミ此ノ

外ニ爲ル得可キノ比較ハ更ニ無シト雖モ此ノ比較ハ以テ第百年ノ「甲」ト第千八百年ノ「甲」トノ相關ノ次第ヲ知ルニ足ラズ、唯々前後二箇ノ年代ニ於ケル「甲」ト「乙」トノ割合ノ差等ヲ比較スルコトヲ得タルニ止マルナリ」

「第百年ノ「甲」ト第千八百年ノ「甲」ト存立セル直接ノ相關ノ得テ究定ス可カラザルハ猶ホ往日ノ大陽ト今日ノ大陽トノ距離ノ相關ノ得テ究定ス可カラザルガ如シト」

故ニ吾人ガ價格ノ本位ニ依テ便利ニ知ル可キ所ノ者ハ唯々同時ニ於ケル諸可量物ノ交易上ノ關係ヲ出デズ、而シテ前後ノ時代ニ於ケル賣價ヲ比較スルトハ則異ナル時代ニ於テ此等ノ可量物ノ交易上ノ割合ノ上ニ起リタル變動ヲ知ルコトヲ得ベキナリ、是レ不變本位ヲ得ンコトヲ欲スル著述家ノ望ニ合ハザルコト速レト雖モ、之ヲ措テ外ニ得ベ

キ廣シ著ハ一モ有ラザルナリ

之ヲ要スルニ價格ノ本位ナル者世ニ存スルコトヲ得ズトスル所以ノ理ハ、價格ハ必ズ常ニ一ノ可量物ノ他ノ可量物ニ對スル比率ヨリ成リ立ラ者ナルガ故ニ單一ノ可量物ハ以テ比率ヲ畜定スルニ足ラズト云フノ一点ニ在リ、然ルニ今尙ホ學者ノ聚會ナドニ於テ才能ノ聞モ高キ人ガ起立シテ度量權衡ノ本位ヲ一定センガ爲ニ盡カレタルト同様ニ今又價格ノ不變本位ヲ一定センガ爲ニ審査委員ヲ置カン事ヲ政府ニ請願スベキ旨ヲ以テ滔滔演舌スルヲ聞クコト數ナリ、凡ソ政府ノ爲レ得ベキ所ハ唯々通貨ノ重量純質ヲ確定シ保持スルニ止マルノミ、價格ノ變動ヲ制督セントスルニ至リテハ議院ノ布告ヲ以テ星辰ノ運動ヲ序理セントスルヲ得ルモ尙ホ難レトス

○第三項「價格の根本、源泉、即ち原因」

五節、價ニ經濟上可量物ニ三種アリテ孰レモ價格ヲ有レ、各種中更ニ  
 數多ノ異類アルコトヲ述ベタリ、且ツ又「可量物」ノ價格トハ之ヲ交易ス  
 可シ他ノ各様ノ「可量物」ヲ指ス者ナル事ヲ論ジタリ、故ニ是レヨリ攷究  
 入第二段ニ進ミテ「價格」ノ「原因」即チ「源泉」ハ何ニ在リヤ、其由テ來ル所ハ  
 何ニ在リヤヲ究定セントス  
 此テ價格ノ原因タリ源泉タル者ヲ探究セントスルニ當リテハ、先ヅ其  
 探求セントスル所ノ者ノ何タルヤヲ善ク理會スルニ如カザルベシ、蓋  
 シ價格ヲ有スル者ハ一ニシテ足ラズ、種種性質ヲ異ニスル者種々多  
 レ、故ニ必ズ此ヲ諸物ニ普通ナル單一原因ヲ究定スルヲ目的トセザル

可成ラズ、且ツ真正ノ歸納論法ニ據リテ此ノ單一ノ原因ノ何タルヤヲ  
 究定セザル可カラズ、ベーコン曰「學術ヲ設立シ徹理スルノ用ニ供ス可  
 キ歸納論法ニ於テハ正當ナル淘汰排除ノ法ヲ施シテ造化自然ノヲ分  
 解シ、凡ソ例外ニ屬スル者ハ悉ク之ヲ除去シ、例外ニ出テザル場合ノミ  
 ニ就テ結論ヲ立テザルヲ得ズト、又曰「今ヤ學術ニ於テ必要ナリトスル  
 所ノ者ハ經驗ヲ分解シテ元素ニ歸シ、之ニ正當ナル淘汰排除ノ法ヲ施  
 シタルノ後ニ至リテ勢ヒ歸セザルヲ得ザル所ノ結論ニ歸スルノ歸納  
 論法コレナリト」

此レハ歸納論法ノ此ノ順序ニ於テ第一步トスル所ハ凡ソ價格アル諸  
 可量物ノ彙類ヲ形質ノ何如ニ關セズシテ悉ク網羅排纂スルニ在リ、ベ  
 ーコン曰「苟モ「本質」ニ通曉スル者ハ其物ノ太々異ナルニ關セズ能ク本  
 性ノ相類レキヲ見テ之ヲ統括スレバナリ、故ニ「理論」ノ眞實ナル事ト「實

此ノ書ニ於テハ「本質」ヲ發見ニ因テ生ズト  
 漸ク「本質」ハ有モ真正ヲ旨トスル一切ノ理學ハ其基礎ヲ一定ノ本  
 性ニ在リ、各般ノ事例ヲ悉ク蒐集スルニ取ルベキ事ヲ反覆セリ、  
 其言ニ曰「本質」ノ討究ハ左ノ次第ニ出ベシ、先ヅ討究ノ目的タル本性ヲ  
 定メテ第一ニ其物ハ太ク、異ナリトモ、此ノ本性ヲ具フルニ於テ一  
 致スル諸例ヲ悉ク蒐集シテ理解ニ供ヘン事ヲ要ス、而シテ此ノ蒐集ハ  
 須ク記事ノ體裁ニ出ツベク、決レテ速了ノ推察ヲ其間ニ挟ムベキニ非  
 ズト、且「本質」ニ關スル討究ノ方法ヲ以テ此ノ手段  
 ノ實例ヲ示セリ、即チ「熱力」ノ「本質」ニ關スル種種ノ場合ヲ表列シ、何如  
 ン場合ニ於テハ欠ケ、何如ナル場合ニ於テハ其度ヲ異ニスルヤヲ叙  
 及ス、  
 又曰「余ハ以上三表ノ功用ヲ「理會」ノ爲ニスル「兼例」ノ表示ト名ヅケン  
 ト

ス、此ノ表示ヲ爲セタル後ハ即チ歸納論法ヲ實施スベキノ時ナリ、何ト  
 ナレバ疑問ノ存スル所ハ兼例ヲ通觀シ其各個及ヒ總數ニ涉リテ某ノ  
 本性ノ常ニ或ル他ノ本性ト共ニ現レ、或ハ之ト共ニ隱レ、且ツ之ト増減  
 ヲ共ニスル者有リヤ否ヤヲ追求スルニ在レバナリ、斯ノ如キ本性ハ必  
 ズ一層遠大ナル本性ノ格段ナル一相タルベキコト前述ノ如シト、又曰  
 「故ニ吾人ハ物ノ本性ヲ十分ニ溶解分離セザルヲ得ズ、此ノ溶解分離ニ  
 於テ火氣ヲ用フルコト無シ、唯タ心力ヲ用フベキノミ、心力ハ神聖ナル  
 火氣ノ一種ナリ、サレバ真正ノ歸納論法ノ第一ノ事業ハ種種ノ本性ヲ  
 排除スルニ在リ、即チ一定ノ本性ノ有ル共ニ現ハレザル者、此ノ本性  
 ノ無キ共ニ却テ現ハル、者、此ノ本性ノ減ズル共ニ却テ増ス者、及ヒ此ノ本  
 性ノ増ス共ニ却テ減ズル者、是レナリ、斯ノ如キ排除ヲ精密ニ爲レ得タル  
 ノ後ニ進リ始メテ淺薄ナル論說ハ霧離烟散レ、極處ニ至リテ正實堅固



本質ヲ當然ニシテ沈没スルヲ見ルベキナリト  
 蓋シ歸納論法ニ特ニ緊要ナル部分ハ膠安ナル「本質」ヲ排除スルニ在リ、  
 然レモ「日」象例ノ示表ヲ以テ「熱力」ノ「本質」ニ屬セザル諸ノ本性ヲ排除  
 せんノ例ヲ示サントス、但シ一表ノ全部ニ涉リテ合格セザル本性ヲ排  
 除スベキノミニ非ズ、表中ノ一例ニ對シテ合格セザル者アリテモ必ス  
 排除セザル可カラザルナリ、何トナレバ屢言フガ如ク僅ニ一箇ノ整合  
 「セザル」場合アリテモ爲ニ本質ニ係ル考察ヲ妨害スベケレバナリ、「真正  
 ナル」歸納論法ノ基ヲ爲ス者ハ排除ノ作用コレナリ、然レモ未ダ是認ニ  
 達セザル前ニ於テハ此ノ論法ヲ結了シタル者ト爲ス可カラザルナリ、  
 且テ排除セシ部分ト雖モ未ダ完全ナル者ト稱ス可カラズ、殊ニ當初ニ  
 於テハ其未ダ完全ナル能ハザルコト明白ナリ、何トナレバ排除スル所  
 ノ者ハ皆單獨ノ本性ナルガ故ニ單獨本性ニ關シテ確實真正ノ知識ア  
 ルニ非ラザルヨリハ排除ノ法ヲ精密ニスルコトヲ得ザレバナリト

六節 「有體」即チ「有形」所有  
 示レタリ、而シテ余輩ノ目下從事スル所ハ「價格」ノ「本質」ヲ討究スルニ在  
 リ  
 余輩モ此ニ鴻鵠ノ例ニ倣ヒテ「價格」ノ諸般ノ場合ヲ悉ク蒐集セザル可  
 カラズ、蓋シ「價格」ヲ有スル可量物ニ三種アリテ、各種中又數多ノ彙類ア  
 ル事ヲ脱キタリ、故ニ茲ニ價格ヲ有スル各種ノ可量物ヲ排纂スルハ  
 則左ノ如シ

第一 「有體」即チ「有形」所有

此ノ一種ニ屬スル者ハ次ノ數類ナリ即チ土地、材木、家畜、各種ノ牧畜、  
 穀物以下ノ土地ヨリ産スル各種ノ成實、家屋、什器、衣服、貨幣、魚類、石炭、

鐵、銅、大理石等ノ礦物、金剛石、紅寶石、翡翠玉等ノ寶石、真珠、及ヒ各種ノ製造品、即チ時計ノ類

第三 「無形所有」

此ノ一種ニ屬スル者ハ諸般ノ「勞力」是レナリ、即チ農業、工業、專門諸業、學術、文辭、等ノ勞力ナリ

第三 「無體所有」

此ノ一種ニ屬スル者ハ左ノ諸類トス、即チ「信約」、「公債」、「各種ノ負債」、「版權」、「事實免許」、「商社ノ株券」、「營業ノ特權」、「專門事務ノ好評」、「通商免狀」、「通船免許」、「地稅」及ヒ各種ノ「年金」

サテ此ノ諸種ノ可量物ノ「價格」ノ「本質」ヲ討究セザル可カラズ、而シテ第一者ニ順序整頓セル排除ノ法ヲ以テ往往「價格」ニ混入スル偶然ノ觀念ヲ悉ク消殺セザル可カラズ、而シテ此ノ排除ノ作用ヲ完了シタルノ後

於テ局見是認ニ結ビテ此ノ諸種ノ可量物ニ普通ナル一箇ノ普關原因ヲ發見セザル可カラズ、蓋シ其存スルハ則「價格」モ存シ、其増スルハ則「價格」モ増シ、其減ズルハ則「價格」モ減シ、其無キハ則「價格」モ無キノ原因コレナリ

七節 近世ニ至リ世人ガ此論題ニ就キ始メテ討究ヲ起セシ時ニ於テ第一ニ出テ、最モ廣ク行レタル教理ハ「勞力」ヲ以テ「價格」ノ「原因」ナリトスル者是レナリキ

サレバロクハ人ガ私ニ土地ノ局部及ヒ產物ヲ領有スル權利ハ其皆テ之ニ勞力ヲ施セシニ始マルコトヲ解説シタルノ後ニ至リテ曰「今若シ一個ノ勞力ニ對スル所有權ハ全社會ノ土地ニ對スル共有權ニ勝ラズ者ナリト吾ハ未ダ勸慮セザル前ニハ何如ニモ奇怪ニ聽ニベレ然

以て凡そ諸物ノ價格ニ影響ヲ生ズル者ハ一ニ勞力ニ在ル事ヲ知ラバ、  
 取テ當量トスルニ足ラザルベキナリ、今若シ烟草若クハ砂糖ヲ種エ  
 ル土地ノ一坪ト小麦若クハ燕麥ヲ蒔キタル土地ノ一坪ト更ニ耕耘ヲ  
 施ササル土地ノ一坪トノ價格ニ差異アル所以ヲ考察セバ勞力ヲ用テ  
 レタル改良ノ價格ノ大部ヲ成セル所以ヲ見ルコトヲ得ベシ、凡ソ人生  
 須要トスル土地ノ產物ノ十分ノ九ハ勞力ノ結果ナリト言フモ決シ  
 テ體ヲ失ハザルニ似タリ、豈ニ只タ然ルノミナランヤ、若シ人ノ爲ニ有  
 用ナルニ至ル物品ノ價格ヲ正密ニ計算シ、之ヲ得ルニ費シタル所ヲ分  
 別シテ純粹ノ造化ニ歸ス可キ所ハ幾何ナリヤ、勞力ニ歸ス可キ所ハ幾  
 何ナリヤヲ究定スルコトヲ得バ、大抵ノ場合ニ於テハ價格ノ百分ノ九  
 十九ニ至ルマデモ勞力ノ功ニ歸着スルヲ發見スベキナリ、  
 「凡ソ事ノ原因ノ影響ナルハ亞米利加ノ種種ノ土民ノ現情ニ依テ此ニ

吾ソ所ノ理ヲ明証スルニ妨グ者ハ無カルベシ、蓋シ造化ハ他ノ人民ト  
 同様ニ亞米利加ノ土民ニモ食物、衣服、豫樂ノ材料ヲ十分ニ生ズルニ適  
 シタル豐饒ノ土地ヲ附與シタリ、然リト雖モ彼等ガ吾人ノ享有スル便  
 利ノ百分ノ一ヲダモ得ザルコト能ハザル所以ノ者ハ之ヲ改良スルノ  
 勞力ニ乏シケレバナリ、是ヲ以テ廣大無邊ノ良地沃土ヲ有スルノ君長  
 トイヘ用衣食住ノ貧シキ英國日備ノ工夫ノ下ニ在リ、  
 「此ノ事ヲシテ一層明瞭ナラシメント欲セバ則日常必要ノ諸品ノ吾人  
 ノ用ニ供ス可キニ至ルマデニ經由スル沿路ヲ周察シ、以テ其價格ノ幾  
 分ハ人ノ勞働ヨリ來タルヤヲ究ムルニ如カズ、麵包、葡萄酒、及ヒ衣服ハ  
 日常必要ノ品ニシテ且ツ最も多量ナル者ナリ、然レモ若シ勞力ヲ以テ  
 此等ヲ製出スルニ非ザレバ吾人ノ衣服、飲食ハ永ク枵粟、天水、及ヒ樹葉、  
 獸皮ヲラザルヲ得ザルベシ、何トナレバ麵包ノ枵粟ニ優レル所以、葡萄

價 格 原 因

酒、天木ニ優レル所以、綿、絹ノ樹葉、獸皮、青苔ニ優レル所以ノ者ハ全ク  
 之ヲ勞力ニ歸ス可ケレバナリ、一ハ純粹自然ノ吾人ニ附與スル所ノ衣  
 食ニシテ、他ハ勞力辛苦ノ吾人ニ附與スル所ノ衣食ナリ、此ノ兩者ノ間  
 ニ存スル價格ノ差異何如ニ廣大ナルヤヲ計算セバ、吾人ガ此ノ世界ニ  
 於テ享有スル物品ノ價格ノ多分ハ勞力ノ賜モノナル事ヲ知ルベシ、而  
 シテ此ノ物品ヲ産出スル土地ハ殆ド全ク其分ヲ爲ササルベク、假令其  
 分ニスル也、實ニ僅少ナルベキナリ、試ニ見ヨ、牧畜、耕作、培殖ノ勞力ヲ施  
 サズレテ全ク自然ニ放任スル所ノ土地ハ、人之ヲ稱シテ廢地ト曰ヘリ、  
 是レ實ニ廢物ナルノミ、更ニ何ノ利益ヲモ發見ス可カラザルナリ、  
 英國ニ於テ甘、ブツセルノ小麥ヲ生ズル土地モ、亞米利加ニ於テ同量ヲ  
 生ズル土地モ、内附價格ニ於テハ必ズ同一ナルベシ、然レ而人ノ一方ヨ  
 リ得ル所ノ利益ハ、年年五磅ナルニ反シテ、他方ヨリ得ル所ハ一「片」ニモ

經 濟 哲 學

至ラザルベシ、即チ印度人ガ其土地ニ因テ得ル所ノ者ヲ英國ニ於テ估  
 價シ之ヲ賣却シタラシムニハ、則得ル所ノ利益、英國ニ於テ得ベキ利益  
 ノ千分ノ一ニ及ハズト言フモ過言ニ非ザルナリ、然レバ即チ土地ヲレ  
 テ價格ヲ生ゼシムル所以ノ者ノ最多分ハ勞力ニ在リテ、勞力ニ依ラザ  
 レバ殆ド全ク價值ヲ有セザルニ等シカルベキナリ、且ツ夫レ土地ノ有  
 用ナル產物ヲ生ズルモ、多分ハ勞力ニ歸セザルヲ得ズ、何トナレバ小麥  
 ヲ植エタル一坪ノ土地ヨリ生ズル蒸、糠、麵包ノ、現ニ地味同等ナルモ尙  
 ホ蒸、糠ニ屬スル土地ノ產物ニ比スレバ價值ノ大ナル所以ノ者ハ一ニ  
 勞力ニ因レバナリ、抑、吾人ノ食スル麵包ノ價格ニ算入スベキ者ハ、獨リ  
 耘、耕、刈、收、打、禾ニ從事セシ者及ヒ麵包師ノ勞苦、流汗ノミニ止マラズ、牛  
 馬ヲ畜養スル者、鐵石ヲ採取鑄造スル者、及ヒ穀種ヲ時ク時ヨリ麵包ヲ  
 製スル時、至ル迄ノ間ニ於テ必要ナリシ米、糠、水車、電爐、及ヒ其他百種

其器具を製スル所以ノ材料ヲ伐取シ、及ヒ此等ノ器具ヲ造作セシ者、其勞力ノ如キモ皆此ノ價格即チ勞力ノ計算ニ編入シテ以テ報酬ヲ要求スル者ナリトス。蓋シ自然ト土地トハ本來ハ其死シテ無價ナル材料ヲ給資スルニ止マレリ、而シテ麵包一塊ノ我ガ口ニ入ルニ至ル前ニ之ガ製造ニ必要ナリシ物品ノ名稱ヲ列舉セバ、極メテ奇異ナル目錄ヲ爲スル。即チ鐵、木、草、木皮、石、瓦、石灰、布疋、染料、藥草、蠶青、楮、紙、帆柱、繩索、及ヒ貨物ヲ一所ニ居住スル職工ヨリ他所ニ居住スル職工ノ許ニ選擇スル所以ノ船舶ニ於テ用フル諸ノ器具等は是レナリ、今之ヲ悉ク記載スルハ殆ド難シ、若シ然ラズトスルモ、冗長ニ堪エザルベシト。

ロウタノ所見ハ此ノ如シ、今斯ク長文ヲ引證シタル所以ノ者ハ、此ノ論ヲ當時ノ經濟論中ニ見エタル物價ノ分解ノ最モ精密ナル者ニレテ、且ツ之ヲ載スル所ノ著書「國政」ハ世人ノ多ク知ラザル所ニ屬スレバナシ。

蓋シ一切ノ富貴ハ土地ト勞力トノ產物ナリトスルノ學說ハ上世ノ經濟學士ノ通論ニシテ、余輩ハ既ニスミスガ此ノ語ヲ反覆セシ事及ヒ其說ノ粗顯セル事ヲ示シタリ。

リカルドハ「價格」ニ係ルスミスノ本然ノ教理ノ整合ヲ缺ク事ヲ看破シ終ニ可交易性ヲ以テ「價格」ノ檢式トスル事ヲ止メ、勞力ヲ以テ價格ノ「原因」即チ「本質」ト爲シタリ、故ニ曰「經濟原理」勞力ハ一切ノ價格ノ本源ナリト説クニ於テハ云云ト、又或ル所ニ於テ、若シ常ニ同一ノ勞力ヲ以テ一定ノ貨物ヲ生産スルコトヲ得バ、其價格ハ不變ナルベシト言ヘリ。

マンク ロンチモ亦一切ノ價格ノ原因ハ勞力ナルコトヲ主張シタリ、其言ニ曰「富國論」天工ハ貧ヲズ吝マズ、其未製產物及ヒ能力ヲ人ニ白施シテ恩惠ノ爲ニ報酬ヲ求メズ、毫モ吾人ノ勞力ヲ須タズシテ吾人ノ用ニ適シ、種々有價ナル物件アル有リト雖モ、是レ天工ノ白施ニ出ツルヲ以テ

其、價、値、の、具、能、ハ、ハ、言、ヲ、候、ズ、ト、又、曰、上、三、四、自、然、ノ、有、様  
 價、値、ヲ、テ、物、質、ニ、直、接、不、間、ノ、利、用、ア、ル、コ、ト、無、シ、故、ニ、必、ズ、價、格、ヲ、使、ケ  
 リ、物、質、ノ、交、易、上、ノ、價、格、ヲ、得、テ、富、資、ヲ、爲、ス、ハ、一、ニ、之、ヲ、領、取、シ、購、理、レ、テ  
 人、ノ、用、ニ、適、セ、シ、ム、ル、所、以、ノ、勞、力、ニ、據、ル、ナ、リ、ト  
 有、名、ナ、ル、米、國、ノ、經、濟、學、士、ケ、ー、リ、ー、氏、モ、亦、勞、力、ハ、一、切、ノ、價、格、ノ、原、因、ナ  
 リ、ト、論、ヲ、徹、頭、徹、尾、是、認、セ、リ、即、チ、勞、力、ハ、必、ズ、シ、モ、價、格、ノ、原、因、ナ、ラ、ズ  
 ナ、リ、ト、者、ア、リ、ト、テ、セ、ニ、オ、ル、ノ、語、ヲ、引、用、セ、リ、其、語、ニ、曰、此、ノ、事、情、即、チ、勞  
 力、ノ、價、格、ニ、必、要、ナ、ラ、ザ、ル、ハ、之、ヲ、備、ヘ、メ、シ、テ、價、格、ヲ、存、ス、ル、場、合、ヲ、想、像  
 ス、ル、ニ、依、テ、證、明、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、ベ、シ、譬、ヘ、バ、人、ア、リ、一、日、海、濱、ヲ、漫、遊、ス、ル  
 際、シ、期、セ、メ、シ、テ、真、珠、ヲ、發、見、ス、ト、セ、ン、カ、此、ノ、真、珠、ハ、價、格、ヲ、具、ヘ、ザ、ル  
 ベ、キ、カ、マ、シ、タ、ロ、ク、チ、氏、ハ、答、ヘ、テ、曰、ハ、ン、此、ノ、真、珠、ノ、價、格、ハ、僕、テ、之、ヲ、領、取、ス  
 ル、ト、勞、力、ニ、由、來、ス、ト、云、云、サ、テ、ケ、ー、リ、ー、氏、之、ヲ、難、シ、テ、曰、真、珠、ノ、之、ヲ、求

求、ザ、リ、シ、人、ノ、發、見、ス、ル、所、ト、爲、リ、磁、石、ノ、之、ヲ、期、セ、ザ、リ、シ、人、ノ、承、納、ス、ル  
 所、ト、爲、リ、或、ハ、之、ヲ、求、メ、之、ヲ、鑿、ル、者、ハ、却、テ、得、ル、所、無、キ、ガ、如、キ、ハ、是、レ、偶  
 然、ノ、事、ニ、シ、テ、毫、モ、一、切、ノ、價、格、ハ、勞、力、ノ、成、績、ナ、リ、ト、ノ、說、ヲ、傷、ク、ル、ニ、至  
 ラ、ズ、年、年、創、造、ス、ル、所、ノ、價、格、ノ、千、分、ノ、九、百、九、十、九、ニ、至、ル、マ、デ、皆、勞、力、ノ  
 成、績、ナ、ラ、ザ、ル、ハ、無、シ、其、餘、一、二、ノ、例、外、ニ、出、ツ、ル、者、有、ル、モ、敢、テ、考、案、ニ、附  
 ス、ル、ニ、足、ラ、ザ、ル、ナ、リ、千、中、九、百、九、十、九、ノ、證、例、ハ、以、テ、此、ノ、大、則、ヲ、證、明、ス  
 ル、ニ、十、分、ナ、リ、ト  
 第、九、章、ニ、於、テ、ケ、ー、リ、ー、氏、ハ、自、家、ノ、討、究、ノ、成、績、ヲ、示、セ、リ、其、第、一、ニ、曰、一  
 切、ノ、價、格、ハ、交、易、シ、得、可、キ、者、ナ、リ、其、第、二、ニ、曰、勞、力、ハ、價、格、ノ、唯、一、ノ、原、因  
 ナ、リ、ト

余、輩、ハ、更、ニ、此、ノ、餘、ノ、著、述、家、ノ、論、說、ヲ、引、證、ス、ル、ヲ、要、セ、ズ、何、ト、ナ、レ、バ、勞

力ハ「價格」ノ唯一ノ原因ニシテ、富貴ニ必要ナル者ナリトスルノ教理ハ、  
「經濟上ノ著述家ノ間ニ廣ク行ハル、者タルコト、世人ノ通知スル所ナ  
リト信スレバナリ

茲ニ「ベートコン」ノ「歸納論法」ノ原理ヲ適用シテ「勞力」ハ「價格」ノ「本質」ナリ、原  
因「ナリ」源泉「ナリトスル教理」ノ是非ヲ糾察セントス

八節 此ノ教理果シテ眞ナレバ、則左ノ題言ヲ設クルヲ得ベシ曰、  
「若シ勞力ニシテ價格ノ唯一原因、タラシニハ、凡ソ勞力ヲ費シタル所  
ハ者、何ナルヲ問ハズ、必ず價格ヲ有セザルヲ得ズト

其故ハ若シ茲ニ二物アリテ、之ヲ生ズルニ費シタル「勞力」ハ同量ナルニ  
一ハ價格有リテ他ハ價格無キ中ハ「勞力」ノ外ニ價格ノ原因ヲ爲セル者  
存ストセザルヲ得ザル勢トナリテ此ノ論ハ破ルレバナリ

サテ「勞力」ハ一切ノ「價格」ノ「原因」ナリトスル教理ヲ以テ推ス所ハ必ず起  
ルベキ系論ノ緊要ナル者ヲ警査セン

「第一」價格ニ於ケル一切ノ變動ハ勞力ニ於ケル變動ニ因ラザルヲ得ズ  
然ルニ此ノ教理ハ全ク實驗ニ反ス何トナレバ、毫モ「勞力」ヲモ施サズシ  
テ「價格」アル者世ニ多ケレバナリ例ヘバ

- 一、都會ノ立ツ所ノ土地ハ決シテ「勞力」ノ成果ニ非ズ、倫敦ノ中央ノ土  
地ハ全ク建家ヲ除キテ「エーグル」百萬磅以上ノ相場ヲ以テ賣買  
セラル、コト有リ、何レノ時之ニ「勞力」ヲ施シタルカ、且ツ中央ヨリ  
四隅ニ進ムニ從ヒ其相場大ニ減少ス、チャーリングクロスニ於テ  
ハ「エーグル」十萬磅ノ相場ナリ、ケンシントンニ至ルニ及テハ  
「エーグル」一萬磅ノ相場ナリ、且ツ同一區内ト雖モ其價格甚ク相

蓋シテリリシト巷アリイブサイド若クハコルント  
如キ大道ノ前巷ニ在テハ背巷ニ在ル同一ノ坪數ニ比スレバ其相  
等ニ高貴ナリ

且ツ流行ノ人口殷富ノ其地方ニ朝宗スルルハ地價俄然騰貴ス之ニ  
反レテ流行殷富ノ遠離スル所ト爲ルルハ地價俄然下落セリ

抑、地所ハ何レノ點ヨリ論ズル勞力ノ成果ニ非ザルニ此ノ如ク價  
格ノ變動ヲ呈スルヲ見レバ何ソ價格ノ變動ハ勞力ノ分量ノ増減  
ニ因ルト言フコトヲ得ンヤ

倫敦巴利伯靈維那ノ中央ノ地價ハ現今異常ニ高貴ナリ、之ニ反シ  
テ往昔ハ大都會ノ所在ナリシモ、現今ハ荒廢ニ屬スル者アリ、百萬

ノ車駕シープスノ百門ヲ出入セシ時ニ當テヤ、此ノ都會ノ地價ノ  
異常ニ高貴ナリシヲ想察センコト難カラズ、メムフレスニニブエハヒ

ロシヤ及モ其他數多ノ舊城ニ於テモ亦然リ、然ルニ現今ニ在テハ其  
地價果シテ何如ゾヤ、而シテ土地ハ皆テ舊時ニ異ナルニ非ザルナ

リ、若レ夫レ萬歲ノ後ニベルゾニラセルドノ如キ畫家アリニウ  
シララントヨリ渡來シテ倫敦橋ノ廢殘ニ登リセント、ポール寺ノ

舊墟ヲ撮寫スルニ當リテハロヤル、エキステエンヂ王室近傍ノ地  
價ハ尙ホ一步七十磅ノ貴價ヲ博スベキカ

互市ヲ村落ニ開クヤ、人競テ小屋ヲ懸ケ、天幕ヲ張リ、爲ニ高貴ノ稅  
銀ヲ拂ヘリ、然レ而之ヲ開カザル時ニ際シテハ、爲ニ一錢ヲ拂フ者

無シ、サレバ同一ノ土地モ或ルルハ價格有リ、或ルルハ價格無シト  
ス、此ノ土地ノ價格ハ之ヲ勞力ニ歸スルコトヲ得ベキカ

二、天然ノ物産ハ勞力ヲ用フルニ非サレバ、價格ヲ得ズトスル學說ハ  
一切ノ實験ニ背ク者ナリ、石炭礦若クハ石坑ノ所有主ハ未ダ曾テ



人手ノ之ニ類レザル前ヨリテ礦中ノ石炭、大理石、若クハ建築用ノ石材ノ爲ニ價銀ヲ要求シ受領セリ、誰レカ能ク世ニ他人ニ許レテ無代價ニテ石炭ヲ取り去ラシムルガ如キ炭石礦ノ所有主アルコトヲ想像センヤ、誰レカ能クカララ大理石山ノ所有主カ他人ニ許レテ無代價ニテ大理石ヲ切り出サシムルコトヲ想像センヤ、人アリ偶、然金剛石若クハ金塊ヲ發見スルトキハ、之ヲ拾ヒ上グルノ前ト雖モ尙モ無代價ニテ之ヲ他人ニ授クルコト有ルベキカ、マシクロッチノ説ノ如ク、金剛石若クハ金塊ヲシテ價格有ラシムル者ハ果シテ價テ之ヲ領取スルノ勞力是レナルカ

材木ノ場合ヲ見ヨ、英國 ミッドランドノ州郡ニ於テハ地上ニ在ル儘ニテ既ニ六十磅若クハ百磅ニ賣買ス可キ杉樹多ク存セリ、思フニ皆自然ニ生レタル者ナルベク、之ニ關レテ杉實ヲ墮地ニ下ダス

ノ勞力ヲダモ費セシ人ハ無カリシナラン、果シテ然ルハ、此ノ杉樹ノ價格ハ之ヲ勞力ニ歸スルコトヲ得ベキカ、或ハ此ノ杉樹ノ近傍ニ他ノ樹木即チ山毛櫸、檜等ノ生長スルアラン、其大小ハ同一ナルモ、其價格ニ至リテハ皆杉樹ト甚マシク差異セリ、此ノ價格ノ差異ハ之ヲ勞力ノ差違ニ歸スコトヲ得ベキカ

次ニ各種ノ家畜群獸ノ類ヲ見ヨ、其蕃殖ハ主トシテ造化自然ノ功カニ據レリ、果シテ然ルハ其價格ハ之ヲ人力ノ成果ナリト言フコトヲ得ベキカ

斯ク迄末ノ勞力ヲモ費スコト無クシテ價格ヲ有スル物品ノ極メテ多キヲ見ルニ於テハ、其價格ハ「勞力」ノ生ズル所ニ非ズト斷言セザルヲ得ザルナリ

セントランド群島ノ極北ニ位スルランスト島ニ鹽酸鐵ノ一磅アリ、二十

年以前千八百二十五年ニ發見スル所ナリ、鑛脈極メ深遠ニシテ其山ヲ組成スル岩石ノ下ニ在リ、且ツ太ク富豐ナルニ似タリ、此ノ鑛業ニ於テ毎更五十人以上ノ人夫ト小童トヲ用役シ、年年數百トシテノ金屬ヲ產出ス、此ノ金屬ハ美麗ナル黃色ヲ帶ブルヲ以テ繪具トシテ用フ可ク、大英國中他ニ之ヲ產出スル所無キガ爲メニ、其所有主ハ非常ハ利得アリ

チヤムハルス氏  
著書ニ見ユ

此ノ鑛鐵ノ價格ニシテ果シテ鐵夫ノ勞力ノミニ止マルモノナリセバ、以テ鐵夫ノ賃銀ヲ償フニ足ランノミ、又所有主ノ爲ニ利得ヲ遺サザルベレ、然レモ該所有主ハ此ノ勞力ニ數倍セル價銀ヲ請求スルコト事實ニ於テ明白ナリ、サレバ此ノ價格ハ勞力ニ因ルトスルコトヲ得ザルナリ

數年前ニ大鯨ワリス、ヲフ、ブルスヘ漂着シ、海濱ニ在リテ既ニ七十磅ノ

價格ヲ博シタリ、是レ全ク造化ノ賜モノニシテ、毫末ノ勞力ヲモ算ナレニ非ズ、サレバ何ゾ其價格ハ勞力ニ因ルト言フコトヲ得ンヤ

余嘗テバツクランドノ愉快ナル著書ニ於テ左ノ一話ヲ讀ミタリ、曰、嘗テ動物園ニ於テ諸虫ノ脱ヲ検査スルトキ箱中ニ白色ノ物アルヲ見タリ、是レ蛇糞ナリ、純白ニシテ「アラストル、ヲフ、パリー」粘ノ一種ニシテ之云フトハ髣髴タリ、殆ド純粹ノ硝酸ヲ以テ成レリ、一醫師(蓋シ化學士ナラシ)之ヲ量一磅ニ付キ九志ノ割ニテ買ヒ取りタリト、此ノ蛇糞ハ是レ人カノ產出セシ所ナルカ

「第一、勞力ニシテ價格ハ唯一ハ原因ナランニハ同量ノ勞力ヲ以テ產出  
イハル諸物ハ同一ハ價格ヲ有セザルヲ得ズ  
サレド此ノ學說ハ一切ノ實驗ニ反對セリ、若シ此ノ言ニシテ正當ナラ

シムハ、金剛岩ハ之ト同一ノ路上ニ於テ發見シムル瓦礫ト同一ノ價格ヲ有セザルヲ得ズ、眞珠モ貝殻ト同一ノ格價ヲ博セザルヲ得ズ、若シ鹽<sup>一</sup>ニシテ燻ヲ得、一發ニシテ鳥ヲ得バ、此二物ハ價格ヲ等シクセザルヲ得ズ、若シ漁夫同量ノ勞力ヲ以テ鮭及ヒドク<sup>名魚</sup>ヲ得バ、是レ亦其價格<sup>一</sup>ニセザルヲ得ズ、其他枚擧ニ違ナシ、斯ク同量ノ勞力ヲ以テ得タル種種ノ産物ニシテ其價格ハ現然差異アルヲ見ルニ於テハ、勞力ハ價格ノ唯一ノ原因ニ非ザルコト明白ナリ

〔第三〕勞力ニシテ價格ノ原因ナランニハ、價格ハ勞力ニ比例セザルヲ得ズ、

サレド此ノ學說モ亦最モ明白ナル實驗ニ違戻セリ、例ヘバ甲ノ鑛山師ハ掌ニシテ金脈ノ地上ニ横<sup>一</sup>タルヲ發見シタルニ反シテ、乙ノ鑛山師

ハ數月勞作シタルノ後ニ同一ノ金脈ヲ發見シタリト假定セシ、前説ニシテ正當ナランニハ、後ノ金脈ハ前ノ金脈ニ比スレバ、太ク高價ナラザルヲ得ズ、又甲ノ金塊ハ市場ノ近傍ニ在ル金礦ヨリ鑿出シ、乙ノ金塊ハ數百里ヲ隔テタル深山ヨリ鑿出シタリト假定セバ、後者ハ前者ニ比スレバ數倍ノ勞力ト費用トヲ以テ産出シタル所ナルヲ以テ、價格モ從テ高貴ナラザルヲ得ズ、然リ而シテ一ノ經驗ノ以テ此ノ事ヲ證ス可キ無ク、却テ同性ノ物件ハ常ニ同一ノ市場ニ在テ正シク同價ヲ博スル事ヲ示ス者比比皆是レナリ

〔第四〕勞力ニシテ價格ノ唯一ノ原因ナランニハ、一タビ勞力ヲ以テ産出シタル所ノ者ハ常ニ價格ヲ有セザルヲ得ズ、且ツ常ニ同一ノ價格ヲ有セザル可カラズ

然レ此ノ語ハ著ルク事實ニ背反セリ、何トナレバ一ノ處ニ於テ價格有ル者モ他ノ處ニ於テハ價格無キコトアリ、一ノ時ニ於テ價格有ル者モ他ノ時ニ於テハ價格無キコト存ルハエリキレヤスノ著者ノ明細ニ證示セシ所ノ如クナレバナリ

一色ノ、ソブレイニヲ携ヘテバビユア人ノ地ニ至ルトセバ、果シテ價格アルベキヤ否ヤ、ゼノブレイハ「ゼ、シユイト」耶蘇宗徒ガボラブラニ在テ土人ヨリ食糧ヲ得タルトノ奇話ヲ記セリ、曰、彼ノ僧徒ハ土人ニ貨幣ヲ與ヘントシタルニ、土人ハ大ニ笑ヒタリ、土人ハ貨幣ヲ重ゼザルノミナラズ、製造シタル物品ヲモ重ゼズ、其最モ賞美シタル所ノ者ハ鐵ナリ、故ニ是レ此地ノ唯一ノ有價物ナリ、蓋シ鐵ハ生活ノ諸用ニ供ス可カリシヲ以テナリト、希臘語學拉甸語學若クハ數學ノ學士ハ大學校ニ在リテコソ其藝術ニ高價ナルヲ見ル可ケレ、ヘブライチー島人ノ間ニ在リテ

ハ何如ナル價格モ無キヲ知ラン、法律ノ大家ハ倫敦ニ於テロシ、其知識才能ニ貴價アルヲ見ル可ケレ、チムボクソトニ在リテハ何如ナル價格モ無キヲ知ラン、加之倫敦ニ於テ類ニ勞力ヲ積テ法律ノ如キ専門ノ業ヲ研究スルモ、人ノ之ニ依頼スルコト無キヲセバ、此ノ勞力ノ價格ハ何處ニカ在ル、人アリテ上古ノヒボクヲテス、カレンヨリ近世ノコソブランニ至ルマデ凡ソ世界ニ良醫ト稱セラル、諸家ノ藝術ヲ兼具シタレバトテ、一人ノ病者モ無カリセバ其藝術ニ亦何ノ價格カ有ラシヤ、其實勞力ヲ以テ價格ノ原因ナリト爲スハ他物ト關係ヲ絶チタル一箇單獨ノ物體ニシテ價格アリト云フニ異ナラズ、然レ世ノ經濟學士ニシテ價格ノ關係ニ成リテ社會ニ於テノミ存スル者ナル事ヲ認承セザルハ無シ、故ニ便令人大ニ勞作スル所アリトモ、一人ノ其產物ヲ要求スル者無ケレバ、倫敦ノ中心ニ在リナガラサハラ沙原ノ中心ニ在ルト異

加シテ勞力ノ果シテ價格ノ唯一ノ原因ナランニハ、一ニハ若干ノ勞力ヲ費シテ產出シタル所ノ者ハ、其價格常ニ一定ナラザル可カラズ是レ購テリカルドノ明言セシ所ノ教理ナリ、然レモ其全ク事實ニ背反スルヲ奈何セン、物一ニハ產出セラレ、更ニ勞力ヲ加ヘン事ヲ要セザルニ至リテモ、尙本時ニ、日ニ、年ニ、價格ノ變動ヲ呈スルコト有リ、例ヘバ古書ナリキ是レナリ、名家ノ遺墨ハ其價格常ニ騰貴スルニ反シテ、拙手ノ繪畫ハ往往下落セリ、而レテ其之ヲ查ヤシ人ハ既ニ世ヲ去レリ、若シ「勞力」ニシテ價格ノ原因トランニハ何ア此ノ如キ變動ヲ呈スルニ至ランヤ。

「勞力」ハ「價格」ノ原因ニ非ザル事ヲ證スルニ適當シタル者ハ、リカルド其學說ヲ駁シ、可キ極端ヲ推シ及ホシテ立テタル一説ニ如ク者無ク、然レドモ是レ蓋シ全體ノ整合セル論理上ノ結果ニ外ナラズ、曰、製造所

於タル一十百萬人ノ勞力ハ常ニ同一ノ價格ヲ生スベシト、蓋シ製造品ト雖モ以テ他物ト交易シ難キ者ハ價格無キヤ明白ナリ、而シテ以テ百磅ニ賣ル可キモ或ハ一萬磅ニ賣ル可キモ製造品ハ常ニ同一ノ價格ヲ有スト言フガ如キハ輿論ノ許ササル所ナリ。

デロールチ第三世ノ時ニ當リテ鐵製ノ靴扣子ヲ着スル事大ニ流行シタルガ故ニ、此製造ニ數多ノ人夫ヲ僱使セシニ扣子ノ流行頃ニ去リ、其需用全ク止ミタルニ及テ、此ノ製造ニ僱使セラレタル人夫ハ非常ノ不幸ヲ被リタリ、然ルニリカルドノ學說ヲシテ果シテ眞正ナラレバ、扣子ヲ作りタル人夫ノ勞力ノ價格ハ其需用甚ダ多キ時ニ於テモ、其需要全ク無キ時ニ於テモ同一ナラザルヲ得ザルナリ、數年以前ニ婦女ガ麥藁ノ帽子ヲ着スル流行ノ頃ニ去リタルハ、ルトン、ダニステール等ノ製造人ハ大ニ困難ヲ被リタリ、然ルニリカルドノ學說ニ據レバ麥藁

權要ニ需要有ルニ時モ、此ノ需要無キノ時モ、其價格ハ同一ナラザル

凡テ古今ノ經驗ニ違ヒ、天下ノ庸論ニ戻レルノ甚シキ、右ニ越ル者ハ無  
ガヤベジト雖モ、果シテ之レ有ラバ、同章ノ終リニ見エタルカドノ  
一説是レナリ、而モ其説タル、論理上氏ノ論旨ヲ以テ推シテ必ズ到達セ  
ザル可カラザル所ノ結果ナリ、曰、セイハ第四章ニ於テアダム、スミスノ  
説ニ反シ太陽、空氣、及ヒ大氣ノ壓力ノ如キ自然ノ効有物ヲ以テ時トシ  
テ人力ヲ代理シ、時トシテ人力ヲ贊助シ生産ヲ益スルニ因テ貨物ノ價  
格ヲ加フル者ナリトシタリ、然レモ此等ノ自然ノ有効物ハ功用上ノ價  
格ヲヨク増加スレ、決シテ貨物ノ交易上ノ價格ヲ増加セザル者ナリ、蓋  
シ自然ノ勢力ハ產物ノ分量ヲ蕃殖シ、吾人ヲシテ更ニ富裕ナラシム、功  
用上ノ價格ヲ増加スルニ於テ有益ナリト雖モ、其用ヲ作スガ爲ニ金ク

報酬ヲ要セザルヲ以テ更ニ交易上ノ價格ヲ増加スルコト無シト  
今斯ク一定ノ前提論ヨリ起シ、論理上ノ推論ヲ爲シ以テ此ノ如ク著ル  
キ謬妄ニシテ且ツ經驗ニ背反セル結論ニ至ルニ於テハ此ノ結論ハ全  
ク謬妄ナルノ外無キヲ十分ニ確知ス可キナリ、夫レ「勞力ハ價格ノ唯一  
ノ原因ナリトスル學說ノ謬誤ヲ証セント欲セバ、其之ガ論理上ノ結果  
トレテリカドノ立テタル所ノ結論ノ奇怪ニシテ無稽ナルコトヲ示  
スノミニテ既ニ十分ナルベキナリ

人アリ稱實ヲ地ニ植エテ宏大ナル枵樹ヲ得タリトセンカ、リカドノ  
學說ニ據レバ稱實ト同價ナラザルヲ得ズ、何トナレバ人ノ勞力ハ植ウ  
ル事ノ止マリテ、其餘ハ造化ノ切力ニ出ツレバナリ  
此ノ學說ニ據レバ、牛豚鶏犬ハ價格ヲ有スルコト無カルベキ理ナリ、何  
トナレバ人ハ鹿ク動物ヲ製セズ、又卵ヲ生セザレバナリ

其ノ學說ニ據レバ、秋收ノ價格ハ春播ノ費用ト土地耕耘ノ勞力  
トヲ總テ考メルベキ理ナリ、何トナレバ人ノ勞力ハ是ニ止マリテ其餘ハ  
自體ノ功カニ出ツレバナリ

其ノ學說ニ據レバ、春雨ノ新苗ヲ養成スルハ收穫ノ價格ニ關係  
スル所無カルベキ理ナリ、又同シ次第ニ因リテ時雨ノ十分ナラザル事、  
又ハ全ク缺乏スル事、即チ大旱モ之ガ價格ヲ減少スルコト無カルベキ  
理ナリ

凡ソ庸智アル人ハ皆七月ノ末、八月ノ始ニ於テ連日ノ晴天アルハ穀  
物ノ價格ニ日ニ數百萬磅ヲ加フル者ナル事ヲ知ルベシ、然レモリカル  
トノ學說ニ從ヘバ、太陽ノ熱ハ鉄鑄モ穀物ノ價格ヲ増加セザルナリ  
此ノ學說ノ結果ノ無稽ナル事ヲ更ニ綿密ニ證明スルハ余輩ノ難シト  
セザル所ナリ、然レモ自然ノ功カハ品物ノ價格ニ鉄鑄ヲ加ヘズトスル

リカルトノ著者然タル論說ヲ一讀スル者ハ、考察ヲ費サズレテ直ニ其甚  
ク之ノ謬妄ナルヲ知り、且ツ「勞力」ヲ以テ「價格」ハ「唯一ノ原因」ナリトスル  
獨斷ノ全ク立ツ能ハザルヲ悟ルベシ

然レモ更ニ一例ヲ加ヘテ最後ノ一舉ヲ試ミザルヲ得ズ、苟モ理非ヲ辨  
スル者ハ誰レカ佛、日、伊ノ葡萄ハ大ニ世ノ需要スル所ト爲リ、從テ高價  
ヲ博スル事ヲ此ノ地方ノ溫和ナル日光ニ歸ス可キ者ナル事ヲ疑ハシ  
ヤ、アダムスミス曰蘇格蘭ニ於テ葡萄ヲ培養セント欲セバ佛蘭西ニ於  
テ之ヲ培養スル入費ノ三十倍ヲ要スベシト、サレバリカルトノ學說ニ  
據レバ蘇國ノ葡萄ハ佛國ノ葡萄ノ價銀ノ三十倍ヲ以テ賣買スルコト  
ヲ得ベキナリ

九節 ロングノ利口且ツ綿密ナル論辨ハ數多ノ著述家ノ繼承スル所ト

爲す。其ニモ拘らず、價値ノ之ニ接連有ルヲ證明セシコト亦甚シ  
 易シ。蓋シ勞力ヲ土地ニ加ヘタルモノ、其ハ全ク其言ノ如シ。且ツ土  
 地ハ巨大ノ價格ヲ有スルモノナル事モ其言ノ如シ。然レモ勞力ハ價格  
 ノ原因ナルニ非ザル事ヲ見ルハ甚タ易シ。何トナレバ若シ英國人民ヲ  
 レテ舊時ノフヲキヤ人若クハタイア人ノ如ク舉國一致シテ移住スル  
 ノ民ナラシメバ、土地ハ忽チ價格ヲ失フベケレバナリ。世界ニ於テ全ク  
 人ノ勞力ノミニ因リテ土地ニ價格ヲ生ジタル一國アリトセンカ、即チ  
 和蘭コレナルベシ。モットレイノ獨乙共和國起源論ニ曰、自然ノ有機ニ  
 テハ獨乙和蘭ハ泥島荒林ノ沙澤ノ間ニ點在セル大沼ナリ。地平ノ一部  
 ハ水面ノ下ニ在リテ、往往河水ノ漲溢ト海水ノ汎濫トノ爲ニ大害ヲ蒙  
 ムレリト。蓋シ國中十方里ノ地面ト雖モ堅剛ナル人民ノ勞力ニ因リテ  
 住居ニ適セシメタル者ニ非ザルハ無シ。而シテ此ノ地ハ嘗テ世界第一

ノ實國ナリキ。時ニルイ十四世ノ兵興テ此ノ國ヲ闢ミ、共和政體ノ命數  
 且暮ニ迫ルニ際シ、舉國ノ海軍ヲ集メテ全國ノ人民ヲ東洋ノ領地ニ移  
 スノ議頻ニ出テタリ。若シ此ノ危急ノ敢爲勇斷ニシテ果シテ實行ニ至  
 リタラシムハ、斯ノ如ク勞力ヲ施シタル所ノ土地モ全ク價格ヲ失ヒレ  
 ニ至ラン  
 勞力ニレテ價格ノ原因ナランニハ、一群ノ人アリテ澳斯太利ノ中央ノ  
 土地ヲ以テ英吉利和蘭ノ土地ト同等ノ耕作ノ狀態ニ進メント欲シ、往  
 テ之ニ勞力ヲ施シタランニハ、此ノ土地ハ英蘭ノ土地ト同等ノ價格ニ  
 上ルベキ理ナレド、其決シテ斯ル成果ヲ見ル可カラザルヤ明白ナリ  
 職夫匠人アリ、倫敦、巴利、伯靈、維那等ニ於テ家屋ヲ建築スルハ、此ノ家  
 屋ハ其所ニ在テ多量ノ富資ヲ爲セリ。然レモ其群ヲ舉テ澳斯太利ノ中  
 央ニ至リ、此ニ於テ家屋ヲ建築スルニ當テハ、決シテ同一ノ價格ヲ有ス



由是觀之有形ノ貨物ニ在テスラモ毫モ勞力ヲ施スコト無クシテ價格ヲ有スル者多キニ居リ又之ニ勞力ヲ施シタル者ニ於テモ此ノ「勞力」ハ「價格」ノ「本實」即チ「原因」ニ非ザルナリ

チテ次ニ「經濟上可量物」ノ第二種即チ無形所有ニ至リテハ是レ既ニ詳述シタルガ如ク各種ノ「勞力」ヲ包含スル者ナレバ茲ニ詳密ニ論辨スルヲ要セス唯々左ノ數語ヲ以テ足レリトス曰若シ「勞力」ニシテ「價格」ノ唯一ハ「原因」ナラシニハ「勞力」ハ「價格」ノ「原因」ハ果シテ何ニ在リトスルヤト

十一節 「經濟上可量物」ノ第三種即チ無體所有ニ關シテハ是レ或ハ第二種ノ所有タル「勞力」ト連合スル者ナリ例ヘバ「版權」「專賣免許」「商業ノ好

評「職業」ノ「勞價」ノ如キ是レナリ然レモ「勞力」ヲ有形物體ニ施シタル場合ニ等シク「勞力」ハ「價格」ノ「原因」タル可カラザルコト明白ナリ例ヘバ人アリ一書ヲ著サンガ爲ニ非常ニ「勞力」ヲ費ストセバ法律ハ固ヨリ之ニ「版權」ヲ附與スベシト雖モ一人ノ此ノ書ヲ買フ者無キハ其「價格」ハ果シテ何處ニカ在ル「專賣特許」ニ於テモ亦之ニ同シ假令何如バカリ「勞力」ヲ費シテ一ノ發明ヲ爲シ得タレバトテ若シ一人ノ此ノ器械ヲ買フ者モ無カリセバ其「價格」ハ果シテ何處ニ在ルヤ

且ツ無體ノ所有ニ於テモ有體ノ所有ニ於ケルガ如ク全ク「勞力」ノ之ト連合スル者無クシテ價格ヲ有スル者極メテ多シ例ヘバ諸種ノ「信約」ノ如キハ客テ「勞力」ニ關係スルコト無シ辨價力完全ナル商人ガ爲替手形ヲ領承シ或ハ辨價力完全ナル銀行ガ債券ヲ發行スルトキハ此ノ商業上ノ證券ハ價格ヲ有シ且ツ世ノ「經濟學士」ノ商業上ノ一事項ト認ムル

廣ト爲スル。然レハ何ノ時ニ之ニ勞力ヲ施シタルコト有リヤ、我カ英國ニ存スル「條約」ノ分量ニ想像ノ能ク違セザル所ノ巨額ヲ爲セザ、公私ノ「條約」ノ分量ニ當ニ他ノ各種ノ所有ヲ超過スルノヨナラズ、諸種ノ所有ニ悉ク合併スルモ尙ホ大ニ讓ル所無カルベキナリ、由是觀之、

一、毫モ「勞力」ヲ施セシ所ニ非ズレテ「價格」ヲ行スル「有體」及ヒ「無體」ノ所有ニ多クナリ

二、「勞力」ニ因テ生産シタル「有體」及ヒ「無體」ノ可量物ニレテ「價格」ヲ有スル無キ者モアリ

三、同量ノ「勞力」ニ因テ生産シタル産物ニレテ「價格」有ル者アリ「價格」無キ者アリ

四、或ハ多ク或ハ少ナキ「勞力」ヲ施シタル所ノ可量物ニレテ「價格」ハ同ク有ル者アリ

五、「勞力」ヲ施シテ生産シタル物件ニレテ、一處ニ在リテハ「價格」ヲ有シ、他處ニ在リテハ「價格」ヲ有セズ、一時ニ際シテハ「價格」ヲ有シ、他時ニ際シテハ「價格」ヲ有セザル者アリ

六、少量ノ「勞力」ヲ以テ生産シタル者ニレテ、多量ノ「勞力」ヲ以テ生産シタル者ニ比スレバ高貴ナル「價格」ヲ有スル者アリ

以上ハ實際ニ基キタル命題ニシテ、亦爭フ可カラザル者ナリ、之ニ依テ推スレバ、「勞力」ハ「價格」ノ「本質」即チ「原因」ニ非ズ、又「價格」ニ必要ナル者ニモ非ズト論ズルニ於テ、誰レカ拒否スルコトヲ得ンヤ、其實商業ヲ主トスル此ノ國ニ在リテ「價格」ヲ有スル「所有」ノ中ニ於テ、全ク「勞力」ノ成果ニ非ザル者其強半ニ居レリ

只マ許多ノ場合ニ於テ「勞力」ト「價格」ト聯合スル有ルノミ、即チ「勞力」ハ「價格」ノ偶性タルコト有ルノミ、其何ニ由テ然ルヤハ之ヲ後ニ讓ラン

十二節「經濟哲學」ノ理法ニ據レハ、若シ價ニ一箇ノ「價格」ニシテ「勞力」ノ  
 結果ニ非ズル者ヲダモ發見スルコトヲ得バ、此ノ一例ハ以テ「勞力」ハ「價  
 格」ノ唯一「原因」ナリトノ學說ヲ轉覆スルニ足レリトス、然ルニ余輩ハ價  
 格ニ一例ノミニ止マラズ、數多ノ例ヲ掲ケテ「價格」ヲ有スル所有ノ多分ハ  
 全ク勞力ノ之ト聯合スル無キ者ナルコトヲ示シタリ  
 之ヲ要スルニ「勞力」ヲ以テ「價格」ノ「原因」ナリトスル學說ノ如ク甚タレキ  
 失敗ヲ致シタル者ハ、學術上他ニ類ヲ見ザル所ナリ、故ニ知ル「富貴」「價格」  
 ノ事ヲ以テ「勞力」ニ基ク者トスルノ主義ニ出テタル「經濟統系」ハ全ク膠  
 妄ニ屬スル事ヲ

十三節 著述家ガ最モ著明ナル事實ノ徵證アルニモ關セズレテ一切

ノ「價格」ハ「勞力」ニ歸ス可キ者ナリト主張スルノ頑固ナルハ、實ニ善クベ  
 ーコンノ千古ノ格言ノ誤ヲザルヲ表證スル者ト謂フ可シ、曰、人類ノ理  
 性ハ一旦論說ヲ採用スルトキハ、其論ノ弘ク行ハル、ニ因テ之ヲ採用  
 シタルト、我が意ニ適スルニ因テ然クシタルトニ論無ク、悉ク他物ヲ牽  
 強附會シテ此ノ先入ノ論說ヲ維持シ、之ニ一致セシメントスル者ナリ、  
 而シテ反對ノ論說ニ於テ更ニ數多ノ重大ナル證例ヲ存ストモ、決シテ  
 之ヲ容レズシテ蔑如シ、或ハ區別ヲ構ヘテ之ヲ拒否排斥シ、以テ此ノ有  
 害ナル決心ニ因テ先入ノ斷論ノ威力ヲ保全セントス、中略蓋シ此ノ蔽害  
 ノ哲學及ヒ理學ニ侵入スルハ、更ニ微妙看破シ難キ者アリ、即チ是ニ關  
 スル初發ノ決心ハ、後ニ出ツル一切ノ事物ヲ染濁シ、前論ニ比スレバ何  
 如ニ正確善良ナリトモ敢テ顧ミズレテ自己ニ順合セシメントセリ、此  
 ニ名狀スル固執自負ノ情ノ外ニ、更ニ人心ノ特異ノ過失ニシテ常ニ之

ヲ離シザル者アリ、即チ拒否ニ奪ハレズシテ却テ是認ニ誘ハル、  
 多ク事コレナリ、サレド其實ハ拒否ニモ是認ニモ同様ニ意ヲ注テ豫メ  
 其一方ニ偏向スルコト無カルベキナリ、殊ニ真正ナル單元ヲ立テント  
 スルニ當テモ是認ノ場合ニ比スレバ寧ロ拒否スルノ場合ヲ重ズベキ  
 コト多シト

十四節 前文ニ枚舉スル有價可量物ヲ考察スルハ、無形可量物ト無  
 價可量物トノ二類ニ屬スル者ハ悉ク皆價格ヲ有スレド、形體ヲ備ヘザ  
 ル事ヲ知ルナリ、由是觀之形體ハ價格ニ必要ナル者ニ非ズシテ、唯々時  
 トシテ之ニ附隨スルコト有ル者ニ過キザルヤ明瞭ナリ

十五節 且ツ夫レ價格ヲ有スル物ノ中ニ就テ或ハ土地、彫像、寶石ノ如

ク永遠ニ繼續スル者アリ、或ハ圖書、家屋ノ如ク稍久シク繼續スル者ア  
 リ、或ハ永久ノ度更ニ減縮シテ諸種ノ食物ノ如ク暫時ニ消耗スル者ア  
 リ、或ハ演劇及ヒ各種ノ勞力ノ如ク生産ノ時直ニ消滅スル者アリベ  
 コシ、ハ所謂特典例件ナル者ノ中ニ於テ極度ノ例件ナル者ヲ説テ曰「最  
 下ノ極度ニ出ヅル者モ、最上ノ極度ニ出ヅル者ト同一ノ注意ヲ施サヤ  
 ル可キラズト、是レ即チ極度ニ至ルマデモ真正ナル者ハ極度ニ於テモ  
 真正ナリトスル、連續律ノ原理ナリ、サレバ繼續ノ最底極端ニ在ル者、即  
 チ生産ノ時直ニ消滅スル者モ之ヲ有價物件ノ中ニ包含セシムベキナ  
 リ、故ニ結論ニ曰、永存者クハ繼續ハ價格ニ必要ナル者ニ非ズシテ唯々  
 價格ハ偶發性ニ過キズト

十六節 且ツ夫レ價格ヲ以テ勞力ヨリ起ルトスル說ノ維持シ難キ

ヲ知ル。價格ニ根本即チ源泉。是以テ功用ニ歸シタリ。然レモ其モ亦多クノ矛盾ニ陥リタルコト下文ニ分解スルガ如シ。

夫レ、功用ヲ以テ價格ノ「根本」即チ「源泉」原因ナリトスル説ハ、勞力ヲ以テ「價格」ノ原因ナリトスル説ニ比スレバ稍善長ナルニ似タリ。何トナレバ土地、材木、家畜等ノ如ク全ク勞力ノ成果ニ非ズシテ有要ナル者世ニ多クアレバナリ。然レモ尙ホ一考ヲ勞スルトキハ、此ノ説モ亦勞力ヲ以テ價格ノ原因ナリトスル説ト同一ノ駁撃ヲ受ケテ必ス斃ル。若ナルコトヲ知ラシ。其故如何ゾヤ。曰。是レ「價格」ヲ以テ品物ニ固着セル無對自定ノ資質ト爲スル出ヅル者ナレバナリ。セイ曰。品物ハ其功用ノ多キニ従ヒテ其内附價格モ亦大ナリ。内附價格ナル者ハ諸物ノ功用ニ基ク者ナリト。故ニ此ノ資質ニレテ同一ナル間ハ價格ニ變動アルヲ得ズトスル。妄ナル結論ヲ立テザルヲ得ザルニ至ルハ論ヲ候メズ。

乃チ實ニ「勞力」ハ「價格」ノ「本質」即チ「原因」ニ非ザル事ヲ證明センガ爲ニ揭シタル數條ノ論辯ハ今又「功用」ヲ以テ「價格」ノ「本質」ナリトスル學說ニモ應用スルベキ者多シ。

蓋シ「功用」ハ「價格」ノ「原因」ナリトノ學說ノ稍、信ニ近キ所以ノ者ハ、凡ソ有要ナル者ハ必ズ之ヲ有要トスル人ノ存スルニ因ラザルヲ得ザルノ一點是レナリ。然レモ其必ズ斃ル、所以ノ者ハ他無シ。物ノ性質ハ同一ナルモ一時ニ在テハ有要ニシテ他時ニ在テハ有要ナラザルコト有リ。一處ニ於テハ有要ニシテ他處ニ於テハ有要ナラザルコト有リ。一人ニ對シテハ有要ニシテ他人ニ對シテハ有要ナラザルコト有レバナリ。例ヘバ一人ハ喫烟シ、他人ハ烟草ニ堪エズ。故ニ喫烟スル人ノ國ニ於テ一般ノ烟草ハ價格ヲ有スベキモ、喫烟セザル人ノ國ニ於テハ更ニ價格ヲ有スベキナリ。葡萄酒ヲ嗜ム者ノ國ニ在テハ佛蘭西、日耳曼、ノ葡萄酒

大價ヲ有スベキモ、國國教徒ノ如ク、醫師ノ飲酒ノ戒ヲ守ル者、若クハ下  
 戸法該テ成レル國ニ在リテハ、此ノ產物ハ甚モ價格ヲ有セザルヤレ、皆  
 今ノ社會ノ狀況ニ於テハ大砲、軍裝及ヒ鐵艦ハ大價ヲ有セリ、然レモ若  
 シ世界ノ諸國ニシテ悉ク「親交會社」ノ主義ヲ執ルニ至ラバ、此ノ軍器ハ  
 鐵鎗ノ價格ヲモ有セザルベシ、一皿ノ「トレイシ」油ハ魚類若クハ北水洋洲  
 人ノ最モ賞美スル所ナルガ故ニ該地ニ在テハ高價ナリト雖モ倫敦府  
 知事公ノ饗宴ニ在テハ恐クハ同價ヲ有セザルベシ、斯ク一方ノ人民ハ  
 嘔吐嫌惡スル所ノ者ヲ他方ノ人民ハ賞美珍重セリ  
 然ニ物件アリ有要ニシテ曾テ形質ヲ改メズ、爲ニ巨大ノ價格ヲ博スル  
 其價更ニ善美ナル類物ノ現出スルニ會ヒ、大ニ此ノ物件ノ價格ヲ減  
 少シ、若クハ破却スルコト極メテ多シ、我ガ國々風帆艦體ハ曾テ之ヲ目  
 シテ最モ完備ナル者ト爲セシガ、蒸汽ノ發明以來風帆ノ船體ハ只々木

材ト鐵釘トノ價格ヲ殘スノミナルニ至レリ、我ガ國ノ螺旋戰艦ハ昔テ  
 之ヲ固シテ發明ノ最上ナル者ト爲シ、一人トシテ之ニ勝ル者出ツベシ  
 トハ夢想セザリシガ、久シカラズシテ甲鐵艦出テ、螺旋機關ヲ排斥シテ  
 其曾テ風帆船體ニ被ラレメタルト同一ノ命運ニ遭遇セシムルニ至リ  
 ス、鐵道ハ馬車會社ノ價格ヲ害シ、一ノ著書ハ他ノ著書ノ價格ヲ減シ、一  
 ノ發明ハ他ノ發明ノ價格ヲ損セリ  
 又同一ノ物件ニシテ一處ニ於テハ功用有レド、他處ニ於テハ功用無キ  
 者アリ、例ヘバ夫ノ八桡ノ解船ヲ見ヨ、テームス河上ニ在テハ無要ノ物  
 タルモ、サハラ沙漠ニ在テハ何ノ功用カ有ル  
 又物件ノ功用ハ何如ニ大ナルモ、其分量過多ナルトキハ、價格ヲ損減ス  
 ルニ至ルコト有リ、例ヘバ水ノ如キ是レナリ、世人ノ常ニ言フガ如ク、水  
 ハ人生ニ必須有要ナルコト比類無キ者ナリト雖モ、其分量ノ極メテ過

多ナルが爲ニ之ヲシテ價格無カラシム。穀物ハ最モ有要ナル者ナリ。然レ他國ト交通スルノ路開ケザル農國ニ於テハ、連年ノ農作ニ際シテ之ヲ食スルノ人無キガ爲ニ、土泥ニ委シテ腐化セシムルニ至リタルコト有リ、牛羊ハ人間生活ニ極メテ必要ナル者ナリ。然レ南米及ヒ澳洲ノ廣原ニ於テ往時ハ其分量遠ク人ノ需用ヲ超過セシガ爲ニ、牛ハ其皮ヲ取り、羊ハ之ヲ煎テ其油ヲ取ルノ外毫モ價格ヲ有セザリキ。又毫モ功用無キ者ニシテ非常ノ價格ヲ有スル者多キ事ハ、夙ニ論者ノ注目セシ所ナリ。且ツ諸書ニ之ヲ枚舉シタレバ今更ニ枚舉スルコトヲ要セズ、其實ハ「價格」ヲ有スル物件ニシテ其功用ノ存スル所ヲ指示センコト難キ者亦多カルベキナリ。

蓋シ少シク思慮スルトキハ功用トハ甚タ空濶ナル言辭ニシテ、以テ價格ノ基礎ト爲スル適セザル者ナルコトヲ覺知スベシ。況ヤ價格ハ有リ

トモ之ヲ功用ノ字ヲ適用スルハ大ニ此ノ字ノ意義ヲ賤辱スルニ等シカルベキ物モ極メテ多キニ於テヲヤ、數多ノ人間ノ陋穢猥褻ナル嗜好ハ最モ有害ナル品物ヲシテ價格アラシム。往時ハ勿論今日トイヘ用、若シ法律ノ嚴禁無クンバ、鄙野猥褻ナル文籍圖画ノ世ニ賣買セラル、者亦多カラシ。此ノ如キ者ト雖モ既ニ賣買セラル、以上ハ最モ秀麗ナル貨物ト同様ニ價格ヲ有シ、且ツ富貴ヲ爲ストセザルヲ得ズ。然レ用之ニ功用ヲ歸スルハ豈ニ此ノ字ヲ賤辱スル者ニ非ルヲ得ンヤ。乃チ此ノ嫌惡ス可キ品物モ巨額ノ賣買アル以上ハ「經濟學士」ノ之ヲ富貴ノ表ヨリ排斥スルヲ得ザル所ナリ。

然レ「價格」ハ「彩色」若クハ「音聲」ノ如ク、全ク人ノ「心意」ニ存スル者ニシテ「自然」ニ於テハ彩色モ無ク音聲モ無ク、又價格モ無キ者ナリ。一物ヲ以テ功用アリトスルハ、全ク心意ノ或ル状態ノ結果ナリ。テュガルト、ステラ

ハ、科學ノ理義ニ關シテ最モ的切ナル論說アリ、曰「斯々彩色ノ感覺ヲ  
 外物ヲ觸ルルニトスルノ勢アル事ニ就テハ吾人ガ支庫ニ入テ書籍ヲ通  
 覽スルノ際ニ於テ經驗スル所ノ感覺ノ如ク善ク之ニ類似セル者他ニ  
 有ルヲ知ラズ、吾人ハ書函ニ累累タル卷帙ヲ呼テ古昔ノ知識ヲ集收シ  
 ザルノ實感ナリト謂ヒ、心意ニ無量ノ知識ト愉快トヲ與フル無源ノ源  
 流ナリトシテ之ヲ珍重尊崇セリ、印本若クハ寫本ノ一丁ヲ通讀スルニ  
 當テモ、吾人ハ之ニ因テ得ル所ノ思想ヲ以テ眼ニ視テ知ル所ナリト爲  
 斯ク言フヲニ於テ決シテ此ノ語ノ比喻タルコトハ注意セザルナリ、  
 然レトモ其實讀書ノ時ニ於テ吾人ノ眼ニ視テ知ル所ハ唯モ白紙ノ上  
 ニ「縦横セル黒點」ノ總會ニ過キザルノミ、此ノ黒點ヲ歸スルニ、小兒愚人  
 ノ無旨ノ落書ヲ異ナラシムル所以ノ意味ヲ以テスルモ、ハ、全ク吾人  
 ノ習成心實ヲ外テラズト雖モ、吾人ハ曾テ目ヲ其然ル所以ヲ覺知スル

コト無キナリ、吾人ガ書籍ニ蓄積スト思惟スル所ノ知識ハ、恰モ蓄積ノ  
 佳善ノ如ク、夕雲ノ金色ノ如ク、全ク「物体」ト知覺スル心意トノ關係ニ於  
 テ存立スル者ナリ、此ノ二例ノ相異ナル所ハ、唯モ文字ノ場合ニ於テハ、  
 此ノ關係ノ時ト處トニ依テ差違スル慣習ニ基キ、佳香金色ノ場合ニ於  
 テハ、造化ノ運周不變ノ作用ニ成ルニ在ノミ、刊行ノ術ハ將來ニ於テ前  
 者ノ關係ヲシテ後者ト同様ニ人種ノ行ラン限リ永ク解散セザルニ至  
 ラシメシコトヲ希望ス、サレド過去ノ事歴ニ就テ之ヲ見レバ、其解散シタ  
 ルコト幾回ナルヲ知ラザルナリ、舊時哲學ノ閩奧ヲ窺フニ熱心セシ學  
 徒ヲ世界ノ開明諸國ヨリ唱集シタル埃及ノ學術ノ進歩ハ、蓋シ偉大ガ  
 ル者ナリシナラン、耐シテ今日ハ全ク其痕跡ヲ止メザルナリ、此ノ文明  
 國ノ文字ヲ不朽ノ遺跡ニ刊銘シタル者ハ尙ホ存スト雖モ、心意ノ之ニ  
 應答シ、是ガ上ニ自體ノ智性ヲ反照セシムル者ハ既ニ無ク、彼ノ文字ハ



令人ニ對シテハ無用ニシテ且ツ無言ナリ、唯々解ス可カラザル性質目  
的ニ出テタル文藝ノ往時ニ存立セシ事ヲ證スルニ過ギス中

有名ナル學士輩出シテ、此ノ秘密ナル文字ノ意味ヲ解シ、其性質目  
的ヲ發見セシ事ハ、世人ノ知ル所ナリ、故ニ當今ハ既ニ此ノ文字ト  
「知覺スル心意」トノ間ニ關係ヲ結ビ、以後ハ之ヲシテ無言無用ノ者

メラレメザルナリ

「書寫シタル文字」ニ關シテ論スル所、又ハ之ヲ口、說スル言語ニモ應用ス  
ルコトヲ得ベシ、吾人ノ演說ヲ聞クヤ、恰モ雄辯快論ハ自然ニ辨士ノ口  
唇ヨリ流出スルモノ、如ク思ヒ、其一言一句ヲシテ精神アラシムル者  
ハ我レニ在リテ彼レニ在ラザルヲ知ラザルナリ、乃チ友人ノ會話ヲ  
聞テ樂々ノ場合モ全ク同一ナリ、吾人ハ之ニ因テ感ズル所ノ興味ヲ以

テ其人ノ音聲ト語勢トノ美ナルニ歸スト雖モ、其實ハ自己ノ心意ニ於  
テ之ニ對應シテ發作スルニ非ザレバ、會話ノ効力ハ直ニ減スベキナリ、  
此ノ如キ場合ニ於テ言語ノ人ノ知識道德ニ影響スル所極メテ僅少ナ  
ル事ハ既ニ試ミテ之ヲ他ノ處ニ於テ開陳シタリト

此ノ言ヤ援引レテ、功用ナル文字ニモ適用スルヲ得ベシ、抑、物ニ功用  
ノ存スルト否トハ職トシテ之ト關係ヲ有スル人ノ平生ノ氣習ト知覺  
スル心意トニ由ルナリ、物件ハ前後ニ涉リテ全ク同一ナルモ之ニ對ス  
ル欲望嗜好ハ變化セリ、物件ノ自體ニ於テハ一ノ變化無キモ、其價格ニ  
騰貴下落ノ變動アルハ是レ公衆ノ心意ニ變動アルニ因リ、價格ノ品物  
ニ起リ、若クハ品物ヲ去ルハ、全ク知覺スル心意ノ情態ニ依ルナリ、ロシク  
ハ土地ノ價格ヲ努力ニ歸スルト同一ノ論文ニ於テ曰、第四十「金銀及ヒ  
金剛石ヲシテ其實用、即チ生計ニ必要ナル者ノ度ニ比スレバ多ク價格

有るモノハ其ノ人ノ意欲若クハ約束一處ニ與テ云給フキ在リト又曰貨物  
 ノ發明及出之ニ價格ヲ歸セントスル一處ノ人ノ黙約ハ云云ト斯ク一  
 ノ處ニ於テハ「勞力」ヲ以テ「價格」ノ原因ト爲シナガラ、他ノ處ニ於テハ意  
 欲黙約ヲ以テ「價格」ノ原因ト爲スハ、全ク真正ノ理學ニ背違シ理學ヲ著  
 關ニ眞實ナル所以ヲ破却スルモノナリ、吾人ハ一切ノ場合ニ普通ナル  
 一箇ノ原因ヲ探求セザル可カラズ

十七節 既ニ「勞力」功用ノ皆「價格」ノ「原因」ナル地位ニ立ツコト能ハザル  
 ヲ知ル上ハ、之ヲ如何シテ可ナランカ、曰、之ヲ古代ノ著述家中ニ在テハ  
 アリストトール、エリキシヤス（註）ノ作者、及ヒ羅馬ノ法律學士ノ注目ス  
 ル所ト爲シ、近世ニ在テハ理物學派スキス、コシヤ、トール、ホウエトール、  
 ハズヤ、ヤ、セ、セ、セ、及ヒ其他ノ數家ノ注目セル所ト爲シ、「可交易性」

歸スベキナリ、サテ此ノ「可交易性」トハ何ニ基ク者ゾト云フニ、吾人ハ  
 物、販賣ニ呈シント欲ル所、之ヲ賣却スルニ必要ナル者ニ基ケリ、即チ他  
 人ノ之ヲ「要求」スル事はレナリ、アリストトールハ古代ニ於テ既ニ社會  
 ヲ連結スル者ハ「要求」ニ在リト説キタリ

是ニ於テ余輩ハ「價格」ノ真正ノ「源泉」ナリ、根本「原因」タル者ヲ得タル  
 ヤ明白ナリ、即チ「需要」コレナリ、夫レ「價格」ハ物品ノ性質ニ非ズレテ、心意  
 ノ情動ナリ、「價格」ノ唯一ノ「根本」源泉「原因」ハ「人類」ノ「欲望」ニ在ルナリ、故ニ  
 物品需要アル所ハ必ズ價格アリ、需要増加スルトキハ「供給」ハ同一ナリ  
 ト假定セバ「價格」増加シ、需要減少スルトキハ「價格」減少ス、而シテ需要全  
 減スルトキハ「價格」亦全減セザルヲ得ズ

今夫レ「金剛石」ト「瓦礫」トヲレテ差違セシメ、眞珠ト貝殼ト價格ヲレテ差  
 違セシムル者ハ「需要」ナリ、或人ハ卷莫ヲ需要スルガ故ニ、其人ノ社會ニ

此ノ中心ニ於テ土地ニ非常ノ價格有ルハ需要ノ切ナルニ因ルナリ、  
 而シテ中心ヲ去テ四隅ニ近ゾクニ從ヒ地價ノ漸ク減少スルハ需要ノ  
 漸ク減少スルニ因ル  
 農家ノ產物ヲシテ價格有ラシムル者ハ衣食ノ料ヲ需用シ之ト交易シ  
 テ貨物ヲ與ヘント欲スル人民アルニ因ル、今若シ人民衣食ヲ要セザル  
 事至リ或ハ人民ノ嗜好變化シテ英國ニ於テ生産セザル所ノ衣食ヲ要  
 求スルニ至ルコト有ラバ舊來ノ物産ヲ輸出シテ他國ノ物産ト交易ス  
 ルノ路ヲ開クニ非ザレバ土地ノ價格ハ直ニ消滅セントス  
 故ニ果シテ多量ノ勞力ヲ土地ニ施シ且ツ其土地ハ貴價ヲ有スル、尙ホ  
 此ノ勞力ハ土地ノ價格ノ原因ニ非ザルニ明白ナリ蓋シ人之ニ貨幣ヲ

勞

沈入シ勞力ヲ施ス所以ノ者ハ衣食ノ需要世ニ絶ヘザルヲ知テ世人ノ  
 需要スル所ノ貨物ヲ生産スルコト欲スレバナリ彼等ガ穀種ヲ蒔キ家畜  
 ヲ養フ所以ノ者モ亦此等ノ產物ヲ永遠ノ需要アラシム事ヲ期スレバナ  
 リ然レモ若シ世人野菜ヲ以テ常食ト爲スニ至ラバ牛羊ノ價格ハ地ヲ  
 拂フテ消滅セン  
 抑人ヲシテ貨幣ト勞力トヲ投シテ諸ノ職業ニ從事セシメ且ツ其成果  
 ヲシテ價格ヲ生ゼシムル所以ノ者ハ衆人ノ需要欲望ヲ期スルニ在リ  
 抑人ヲシテ法律ヲ研究センガ爲ニ勞力ト貨幣トヲ用ヒシムル所以ノ  
 者ハ常ニ世人ノ間ニ法律上ノ紛紜起リテ之ニ關スル用役ヲ要求スル  
 者有ラン事ヲ期スレバナリ然レモ若シ此ノ用役ヲ要求スル者無キハ  
 ハ法律家ノ勞力ハ毫モ價格無カルベキナリ  
 抑人ヲシテ内科及ヒ外科ノ醫術ヲ研究セシガ爲ニ勞力ト貨幣トヲ費

因原一唯ノ格價ハ要需

其者絶ニズ有ラン事ヲ期スレバナナリ然レモ若シ世ニ病患無ク負傷無  
 カラセバ醫師ノ努力ニ何ノ「價格」カ有ランヤ  
 其他一切ノ職業ニ至リテモ同論ヲ以テ推ス可シ、人ノ建築、繪画、彫刻、工  
 藝ニ係ル知識ヲ得ント欲シテ努力ヲ施ス所以ノ者ハ、世ニ其術ヲ需要  
 シテ之ガ爲ニ報酬ヲ拂ハント欲スル者有ルヲ期スレバナナリ、即チ此ノ  
 輩ノ努力ヲレテ價格アラシムル者ハ、一ニ社會ノ需要ニ在リ、豈ニ敢テ  
 他有ランヤ、故ニ若シ公衆ノ需要ニシテ頓ニ止ムコト有ラバ、此等ノ職  
 業ヲ習得センガ爲ニ費シタル努力ハ全ク「價格」ヲ失フベキナリ  
 夫レ土地ノ「價格」ハ既ニ開示センガ如ク全ク其産物ヲ需要スル者有ル  
 因テ起ル者ナリ、而シテ人類自然ノ生理ニ於テ此ノ需要ヲレテ永遠  
 不減ナラシムル所以ノ者アルガ故ニ、土地ハ年年ノ入息ヲ生ズル本源

學 術 經 濟

其爲、從テ土地ニ係ル所有ノ「價格」ハ一定ノ規則ニ準シ、永年生出ノ入  
 息、現價ヲ計算スルニ依テ量定ス可キ所ノ者ト爲レリ  
 即チ此ノ概念ハ之ヲ敷衍シテ一般ノ定説ト爲スコトヲ得ベシ、曰、若シ  
 人恒ニ一種ノ用役ヲ需要シ、絶エズ之ヲ得シガ爲ニ仕拂フ所アラント  
 欲スル場合ニ於テハ、年年ノ入息、即チ此ノ用役ヲ得シガ爲ニ年年仕拂  
 フ所ノ金額ヲ化シテ資本ト爲シ、以テ重大ナル所領ヲ爲スコトヲ得ベ  
 シト  
 例ハバ「法學」、「醫學」、「工學」、「海陸武官」、「技術」、「文藝」及ヒ一切ノ專門職業ニ對  
 スル人ノ欲望需要ハ、此等ヲシテ一巨大ナル所領ヲ爲サシム、而シテ  
 其價格ノ由テ起ル所ノ原理ハ皆一ナリ、即チ人類ノ要求及ヒ此等ノ産  
 物ノ爲ニ仕拂フ所アラントスルノ意志コレナリ、産物ヲシテ世ニ存立  
 且ツ價格ヲ有セシムル者ハ此ノ欲望需要コレアルニ因ル、若シ

欲望消滅ノ產物ヲ爲シ仕拂ヲ廢ラントスルノ意志停止スル時、其價格ヲ以テ消滅セシムルニ至ルベキナリ。若シ人諸般ノ文藝技術ヲ願フコト無キニ至ルトキハ、文藝技術ニ係ル所領ノ全體ハ、時ヲ絶ツベシ。若シ萬國平和ノ時至ル有ラバ、海陸二軍ノ職ヲ廢スル一切ノ所領ハ直ニ存立ヲ亡フベシ。シヨルテ三世ノ治世ニ當リテ、短量及ビ鐵製扣子靴紐ニ用ノ流行突然消滅セリ、是ニ於テ此ノ職業ハ直ニ消滅シテ、之ニ沈入シタル資本ハ俄然消散シ、爲ニ價ノ可キ慘狀ヲ騰シタリ。然レモ是レ特ニ職業ノミニ限レル事ニ非ズ、大體ノ商業製造ニ於テモ同様ノ場合アル可キナリ。其故ハ製造ノ產物ヲ以テ價格アラシメ、以テ之ヲシテ資本ヲ組成セシムル者ハ、需要ニ在リ。故ニ世間ニ新シキ要求新シキ欲望ヲ生ズル毎ニ、新シキ資本ヲ創造シテ世ヲ發生セシメ、風習ニ變化アリ、要求欲望ニ廢絶アル毎ニ、資本又

且ツ夫レ土地、有形產物、法律、醫術、文藝、技術及ヒ理學、商業、製造ニ係ル知識ヨリ成リ立ツ巨大ノ所領ハ何レモ以テ讓與ス可ク、以テ世襲ス可キ者ナリ。蓋シ之ヲ讓與スルニ種種ノ方法アルヤ明白ナリ。然リト雖モ其大體ノ原理ニ至リテハ皆一ナリ、即チ各種ノ無體所領、就中製造ニ關スル專門ノ職業ニ於テハ、知識ノ蓄積セル者有リテ世世増殖シ、以テ遺傳シ、以テ讓與スルコト恰モ有形產物ト異ナル無シ。從テ有形產物ト同様ニ「富資」即チ「經濟上可量物」ヲ爲シテ、世人ノ之ヲ要求シ、之ガ爲ニ仕拂フ所有ランコトヲ肯ズル間ハ、永ク斯ノ如クナルベキナリ。然リ而シテ有要ナル職業ニ係ル知識ヲ得、技術ヲ磨カンガ爲ニ費ス所ノ貨幣ト勢力ハ、是レ即チ何レノ點ヨリ論ズルモ純粹ノ「資本」タル者ニシテ、土地ヲ耕耘シ、若クハ有形貨物ヲ作出センガ爲ニ沈入スル所ノ貨

幣勞方以異所無キナリ是レ既ニ開示セシガ如クスミスノ是認スル所ナリ但シ他ノ學士ハ未ダ一般ニ之ヲ可トスルニ至ラザルノモ余輩ハ既ニ勞力ヲ以テ價格ノ原因ト爲ス論ノ謬妄ナル事ヲ顯示シタル之ニ反シ勞力ノ原因ト爲リ誘因ト爲ル者ハ價格即チ需要是レナルコト十分ニ明白ナリ

羅馬ノ制也トアホーハ既ニ上古ニ在テ真正ノ主義ヲ開發シタリ曰人ノ世ヲ勞力ヲ施シ或ハ危難ヲ冒スハ一ニ多量ノ實與ヲ期スルニ因

ルコトヲ以テ此ノ原理ヲ最モ明瞭ニ洞察シタリ曰消費僞語也シヤ大ニ少シ即チ需要ノ義ハ各般富實ノ原理ナリ君主ト無ク家臣ト無ク世界ニ於テ存スル一切ノ入息即チ一切ノ富實ハ一ニ消費コトソマ

チキリ)ガリ成立ス大地ノ最モ善真ナル果物モ最モ貴重ナル産物モ人ノ之ヲ消費同上スル無クシバ瓦礫ニ過ギザルベシ豐饒ナル境土アリト雖モ人ノ之ニ居住スル者少ナク從テ之ヲ耘耕スル者少キトキハ其君主ニ對シテ全ク無用ノ者タラシムル所以ノ理是ニ在リ且ツ若シ此等ノ諸國ニ於テ自然ノ惠與ニ價格ヲ付スルニ十分ナル人民ノ居住セザルモ之ヲ消費同上セザルトキハ其利アルヲ知ラザルベシ若シ之ヲ消費スルノ地位ニ在ルコト能ハザルトキハ其國ノ人民モ君主モ皆之ヲ領セザリシ時ニ比スルバ富貴ナリト云フヲ得ザル可シト氏更ニ進テ一國ノ歳入ノ増加ハ貨幣ノ總額ノ増加ニ比例セズレテ消費同上ノ増進ニ比例スト明言セリ

ロニエムモ亦曰論 吾人ノ情欲欲望即チ需要ハ勞力ノ唯一ノ原因ナ

價ヲ以テ人ノ需要ヲ満足セシムル所以シ能力ナリ蓋シ人ノ要求  
 五三種あり、曰、純然タル必要ニ屬スル者曰、快樂ニ係ル者、曰、顯著ニ係ル  
 者是レナリ、而シテセノブシハ此等ノ要求、即チ需要ノ根源ヲ究定  
 セ、其論曰、凡ソ物品ハ此等ノ要求ニ關シテ、外ハ價格有ルコト無  
 シ、而シテ其價格ハ吾人ノ要求ヲ満足セシムルノ能力ニ比例スト、次ニ  
 貴價ハ必ズ常ニ供給ト需要トニ依テ定マル所以ヲ示シ、貴賤ス可キ才  
 能ヲ以テ此ノ事ヲ究定シタルノ後、左ノ二言ヲ以テ局ヲ結ベリ、(一)曰、人  
 ノ要求ハ各物ノ價格及ビ一切ノ努力ノ第一源ナリ、(二)曰、穀物、油等ノ如  
 キ一種ノ貨物ノ貴價ハ必ズ常ニ需要ト品質トニ直比例ヲ爲シ、需要ト  
 供給トニ轉比例ヲ爲スト、且ツ曰、價格ハ、需要ノ兒ナリト

價ナル者ハ吾人ノ需要ヲ満足セシムル所以シ能力ナリ蓋シ人ノ要求  
 五三種あり、曰、純然タル必要ニ屬スル者曰、快樂ニ係ル者、曰、顯著ニ係ル  
 者是レナリ、而シテセノブシハ此等ノ要求、即チ需要ノ根源ヲ究定  
 セ、其論曰、凡ソ物品ハ此等ノ要求ニ關シテ、外ハ價格有ルコト無  
 シ、而シテ其價格ハ吾人ノ要求ヲ満足セシムルノ能力ニ比例スト、次ニ  
 貴價ハ必ズ常ニ供給ト需要トニ依テ定マル所以ヲ示シ、貴賤ス可キ才  
 能ヲ以テ此ノ事ヲ究定シタルノ後、左ノ二言ヲ以テ局ヲ結ベリ、(一)曰、人  
 ノ要求ハ各物ノ價格及ビ一切ノ努力ノ第一源ナリ、(二)曰、穀物、油等ノ如  
 キ一種ノ貨物ノ貴價ハ必ズ常ニ需要ト品質トニ直比例ヲ爲シ、需要ト  
 供給トニ轉比例ヲ爲スト、且ツ曰、價格ハ、需要ノ兒ナリト

洋キリトモ亦曰商業ヲレテ世ニ起ラレムル者ハ人ノ要求ナリ、人ノ思  
 想ヲ要求トノ増加スルニ從テ商業モ増加ス、故ニ要求増加スルノ國民  
 増力ヲ幸福ヲモ増加スル者ナリ、欲望需要ハ人ヲ促シテ商業ニ就カレ  
 タル者ナリ、抑商業ハ需要ト饒裕トニ據テ立ツ者ナリ、需要トハ人ノ得  
 レキ欲スル所ノ貨物ニ對スル欲望ヲ謂ヒ、饒裕トハ之ヲ得ンガ爲ニ交  
 易ニ供ス可キ物品ノ多キヲ謂フ、國民ハ野蠻時代ノ些少ニシテ簡單ナ  
 ル需要ヲ進テ各種ノ新レキ需要ヲ生ズルニ至ルニ從ヒ之ニ比例シ  
 テ年年ノ生産ヲ増加シ、以テ年年ノ消費ノ外ニ外國ノ貨物ヲ買フ所以  
 ノ有餘ヲ存セザル可カラズ、是ニ至ルルハ其與フル所ト其受クル所ト  
 ノ均等ヲ確知スル所以ノ者有ランコトヲ要ス、價格トハ人ノ物品ヲ貴  
 重ス情ヲ深シク準度ヲ示スノ辭ナリト、ブルリトハ又實際ノ上ニ生  
 ズル一國ノ變動ハ需要ト供給トノ上ニ起ル變動ハ原因スル所ヲ明貴

夫レ、理物學徒ハ一切ノ「價格」ヲ以テ「需要」ヨリ生ズト爲レ、需要「コト」ハ  
 「コト」無キ者ハ價格ヲ備フルコト無シト論シタル事、既ニ前ニ述バ  
 レルガ如ク……  
 コンヂヤードノ如キモ此ノ事ニ關スル論議ハ甚ダ明瞭ナリ、曰ハノ物  
 品ヲ貴重スルノ度ヲ價格ト稱ス、凡ソ物品ノ價格ハ其要求、即チ需要ニ  
 基テ者アレバ、切ニ感ズル所ノ要求ハ物品ヲレテ多量ノ價格アラシメ、  
 賤ク感ズル所ノ要求ハ物品ヲレテ微少ノ價格アラシムルコト自然ノ  
 勢ナリ、物品ノ價格ハ其少ナキニ會ヘバ増シ、其多キニ會ヘバ減ズ、或ハ  
 斯ク多キヲ爲ニ全ク價格ヲ失フコトナリ、即チ一種ノ物品過多ニ  
 レテ之ヲ用フルノ路無キトキハ全ク價格ヲ失フベキナリト  
 是ヲ以テ價格ハ決シテ物品ニ固有スル無對ノ實質ニ關係セザル者ナ



其ノ以テ其價是ハ其價ニ注目スル所ナリトス。水ハ實ニ人生必要ノ者  
 ナリト雖モ、吾人之ヲ要求スルノ分量ハ限リアリテ、此ノ分量ニ越ユル  
 者ハ之ヲ要求セズ、從テ價格アルコト無シ、農國ニ於テハ收穫ノ非常ニ  
 豐饒ニシテ、人民ノ需要ニ供スルモ尙ホ多キヲ餘スコト有リ、然レモ他  
 邦ト交通ノ便ヲ缺クガ故ニ之ヲ以テ他物ト交易スルコトヲ得ズ、空シ  
 地ニ委レテ腐化セシムルニ至ル場合アリ、此ノ時ニ當テヤ穀物ノ賣  
 價ハ皆テ平常ニ異ナルコト無ク、孰レノ部分モ均シク努力ノ成果ナリ、  
 然レモ之ヲ需要スル者無キガ爲ニ富資ヲ爲サザルナリ、之ト同様ニ歐  
 洲人ガ牛ヲ南米ノ廣野ニ放ツニ當リテヤ、非常ニ増殖シ、些少ノ人口ハ  
 之ヲ消費スルコトヲ得ザリシガ爲ニ、革皮ニ對スル者ノ餘ニ分量ノ價  
 格ヲ有セザルニ至リ、又數年前澳洲ニ於テ羊大ニ蕃殖シテ需要ニ  
 超過スルノ甚シキ、只ク之ヲ放テ以テ取ル所ノ油ニ對スル者ノ外ニ價

格無キニ至リ、然ルニ往年牛羊ノ肉ヲ罐詰ニ製シテ保存シ、以テ英  
 國ニ輸出スルノ法ヲ發明シ、故ニ今ヤ該地ノ羊群ハ非常ノ價格ヲ  
 得テ、澳洲ノ爲ニ無限ノ富源ヲ爲サントス、蓋シ之ヲ英國ニ輸出シ、以  
 テ同洲人民ノ要求スル所ノ諸物ヲ購求スルコトヲ得ベケレバナリ  
 コンチヤーク又論シテ曰、物品ノ價格アルハ世俗ノ説タガ如ク之ヲ生  
 産スル費用ノ多カリシガ故ニ非ズ、却テ此ノ物品ニ價格アリ、即チ之ニ  
 對シテ需要アルガ爲ニ人ハ之ニ費用ヲ盡スモノナリ、然レモ或ハ價格  
 ヲ以テ人ノ意見ニ關係セズレテ物品ニ内附スル無對ノ資質ナリト爲  
 ス者アリ、此ノ混亂セル總念ハ無稽ナル推理ノ本源ナリ、物品ハ吾人ニ  
 有用ナル所以ノ資質ヲ有スレバ、コソ價格アルナレド、若シ吾人ニシテ  
 其斯ル資質ヲ有スルヲ知ラザルハ、更ニ價格ヲ得ザルモノナル事ヲ  
 記憶セザル可カラズ、吾人一物ヲ要求スルヤ、其物ハ直ニ價格ヲ生ズ、此

以テ其ノ運出ニ因テ價格ヲ生ズルコトヲ更ニ進テ從來  
實業ニ非ズル者モ交易ニ因テ富貴ヲ爲ル所以ヲ證明セ且ツ人間ノ  
要求増加ニ因テ國交世ニ技術アルニ至テ技術アルニ因テ更ニ富貴ヲ  
増加スルニ至ル次第ヲ顯示セリ

十八節 前ニ世人ガ富貴ト價格トヲ以テ勞力ニ基クテ爲セレ論者ノ  
一ナリト思料スル所ノスミス其人ノ如キモ產物交易不可カラザルト  
キハ富貴ヲ爲サズト説キタル事ヲ述ベタリ即チスミスモ到底可交易  
性以テ價格ノ真正ノ檢式ト爲ス者ナル事ヲ証スルニ足ル然リ而シ  
テ二勤勞交易ハ是レ榮ク相互ノ需要ニ因テ生ズル者ナルコト明白ナ  
ルニ歸出スル

多腦裏ニ填寫シタリシガ其後ニ至リテ事實ハ全ク此ニ反對スル所以  
ヲ發見シタリ其葡萄酒ニ就テ論ズルノ段ニ第二章言テ曰葡萄酒ハ他ノ果  
樹ニ比スレバ地味ニ因テ影響セラルコト多キ者ナリ或ル地方ニ於テ  
産スル者ハ他ノ地方ニ於テ何如ニ培養補助ヲ盡スル到底及ブ可カラ  
ザル所ナリトスル好味ヲ存セリ是レ或ハ事實タルベク或ハ想像タル  
ベキモ其孰レニ起ルヲ問ハズ必ズ特ニ二ノ園圃ノ産スル所ノミニ  
限リテ間廣大ナル州郡中ノ諸數部分ニ涉レリ是ヲ以テ此ノ如キ葡萄  
ヲ以テ醸造シタル酒ヲ市場ニ提出スル所ノ額ハ以テ之ニ對スル有効  
ノ需要ニ充ツルニ足ラズ委レク言ハバ尋常ノ園圃ノ場合ニ於テ之ヲ  
醸造シ運搬シテ市場ニ致スニ必要ナル一切ノ入費即チ地稅利潤及ビ  
賃銀ニ對スル金額多拂ヒテ該葡萄酒ヲ得ント欲スル諸人ノ需要ヲ充  
テズニ是ラザルナリ故ニ其全量ヲ以テ此ノ金額ニ比スレバ更ニ多キ

買價ヲ揚ヘシコトヲ欲スル者ハ賣期ヲコトヲ得ベキナリ此ノ價格ト  
 尋常品ノ價格トノ差等ハ其葡萄酒ノ流行セルト少量ナルトニ因リ買  
 者ヲシテ他ニ先シテ之ヲ得ント競争セシムルノ緩急ニ由テ相同シカ  
 ラズ爾レテ此ノ差等ノ多少ニ拘ラズ其多分ハ地主ノ手ニ歸スベレ何  
 トナレバ此ノ如キ圍圖ニ在テハ尋常ノ圍圖ノ場合ニ比スレバ深キ注  
 意ヲ施シテ之ヲ耕作スルコト自然ノ理ナリト雖酒ノ賣價ノ高貴ナ  
 ルハ注意シテ耕作シムル成果ニ非ズレテ却テ注意シテ耕作スル念ヲ  
 發セシムルノ原因ナルガ如クナレバナリト

此ノ最後ノ一段ハ全クスキミス及ヒリカルドノ統系ノ自餘ノ部分ニ反  
 對スルコトヲ看ルハ亦易シ而シテ反對ノ教理ハ固ヨリ兩立スルコト  
 ヲ得ズ蓋レニ家ノ大体ノ教理ニ於テハ勞力ヲ以テ價格ノ原因ナリト  
 爲スモノ、知レ然ルニ此ニ至リテハ價格ハ却テ勞力ノ誘因ナルコトヲ

自ラ發見シ且ツ主張スルハ何ゾヤ抑「經濟」ニ於テ一ノ現象ヲ解釋スル  
 ニハ此ヲ兩論ノ一方ヲ以テシナガラ他ノ現象ヲ解釋スルニハ他ノ一  
 方ヲ以テスルノ不可ナルハ恰モ星學ニ於テ一ノ現象ヲ説明スルニハ  
 トリミールノ思考ヲ以テシナガラ他ノ現象ヲ説明スルニハコペルニカ  
 スノ思考ヲ以テスルノ不可ナルガ如ク「光學」ニ於テ一ノ現象ヲ説明ス  
 ルニハ「極微分子」ノ理論ヲ以テシナガラ他ノ現象ヲ説明スルニハ「光線  
 波動」ノ理論ヲ以テスルノ不可ナルガ如ク「真理」ハ兩說ノ一ニ歸シ他ハ必  
 ズ斃レザル可カラズ而シテ最後ノ學說ハ即チ是レ真正ナル者ニシテ  
 統系ノ自餘ノ部分ハ悉ク謬妄ナルコト明白ナリ

ホウエートリーハ曰「此ノ點ニ於テモ政治經濟學ノ他ノ數點ニ於ケル  
 ガ如ク人動モスレバ原因ト結果トヲ誤認セントス蓋シ眞珠ノ高價ナ  
 ルハ人之ヲ得シガ爲ニ潜水シタルニ因ルニ非ズシテ高價ナルガ爲ニ

此之ヲ得ルモノトシテ、蓋水濟水ノナリトシテ、  
 又、價セ、用ハ、用ヲ以テ、價格ノ基本ナリトスル説ヲ主持シタル者ナ  
 レド、價格ヲ言テ曰「資財ノ交易ヲ始メテ、價格ヲ得ル者ナリ、交易ハ、價  
 格ヲ定ルモノノ所以ノ者ナリ」と、資財ハ、物ノ種類ニ關係セズ、又、形而下ノ資  
 財ニ關係セズ、唯、人ノ呼テ、價格ト曰フ所ノ形而上ノ資財ニ關係ス、ト、  
 又曰「價格ハ、純然タル形而上ノ資財ニシテ、全ク人ノ可變不定ナル嗜好  
 ニ基クモノ、如シト、又他ノ處ニ於テ論ジテ曰「需要ハ、一切ノ價格ノ第  
 一ノ基本ナリトシ、セ、其人ノ如キ觀邁ナル論者ニシテ、或ル處ニ於テハ  
 「價格」ヲ以テ物体ノ資質ナリトシ、他ノ處ニ於テハ、心理ニ係ル形而上ノ  
資質ナリトスルハ、豈奇怪ナラズヤ  
 又ハ、價格ヲ「價格」ノ本源ヲ以テ全ク人ノ心ニ在リトセリ、曰「交易ハ、音  
 平、價格ヲ明述シ、秤量スルノキニ止ラズ、又之ヲレテ存在ヲ得ルムル

者、價格ノ觀念ヲ始メ、世界ヲ出テ、人ノ共同體ニ告ケテ、該吾  
 等、此ノ事ヲ爲セ、吾等、汝ガ爲ル、彼ノ事ヲ爲セ、ト言ヒテ、相諾シタル  
 ノ時、在リ、何レナレ、是ノ時、マテ、始メテ、交易シタル、彼我ノ用役ハ、  
相均シク、同等ニシ、同等ニ出ラズ、故ニ、此ノ價格ノ、原因ト、言フヲ得タルヲ以  
 テ、吾人ハ、互ニ、他ノ衣、住、燈、醫、治、保、護、教、育ヲ益センガ爲メ、勞働スル  
 者ナリ、是レ、即チ、互ニ、用役ヲ交易スルモノナリ、吾人ハ、此ノ用役ヲ比較  
 シ、考察シ、以テ、其價格ヲ計算ス、是ニ、於テ、始メテ、價格アリト  
 十九節、是ヲ以テ、余輩ハ、獨ニ、需要ノミ、最ト、價格ノ、源泉ト、モシ、根本ト、シ、  
原因ト、シ、事ヲ知ル、大ニ、蓋、產物ヲ、ヒテ、價格アリ、レ、者ハ、需要、即チ、  
價格ノ、源泉ト、非ズ、之ヲ再説スレバ、勞力ニ、因テ、產物ニ、價格ヲ賦付  
 ス、然レ、モ、非ズ、之、產物ノ、需要ニ、因テ、勞力ニ、價格ヲ賦付ス、レ、モ、非ズ、

ラ、故ニ「努力」不足レ「價格」ノ「原因」タルニ非ズレテ「價格」ハ是レ「努力」ノ「原因」  
 即チ「誘因」タルヲ示ス。然レ「價格」ハ「人心」ノ「情動」ヲ指ス者ニシテ  
 ナ、自然若クハ「努力」ノ「結果」トシテ「物體」ニ備ハレル「實質」ヲ指ス者ニ非ズ、  
 世人ノ常語ニ「我レ某物ヲ「バリウ」ス」（即チ某物ニト曰フハ自ラ心意ト外  
 物トシテ「間」ニ起レル「引力」ニ當レルナリ、然レ「公然」タル「實行」ニ顯ハレズ  
 レテ「必真」ニ「潜在」スル「無効」ノ「需要」ハ「經濟」上ノ「現象」ヲ爲サズ、「經濟」ノ「理學」  
 ノ「範圍」ヲ入ランガ爲ニハ「必ズ」一定ノ「動作」ニ顯ハレザルヲ得ズ、且ツ「單」  
 一「心」ノ「欲望」スル者有ルノ「ミニ」テハ「未ダ」「實効」ヲ奏スルニ至ラズ、必ズ  
 二人以上ノ「欲望」スル者アラレバ「要ス」人アリ「賣却」セント欲スル所ノ  
 貨物ヲ所有スルモノ一人ノ之ヲ「購買」セント欲スル者無カリセバ、此ノ「貨」  
 物「價格」ヲ得ザルニシテ、彼レ他人ノ「賣却」セント欲スル所ノ「貨物」ヲ所有セ

レコトヲ「願」フトセンカ、他人ニ於テ「欲」レノ與ヘント「欲」スル所ノ「貨物」ヲ  
 要求セズ、從テ之ヲ「交易」セシコトヲ「肯」ゼサルニシテ、交易行ハルコト無カ  
 ルニシテ、交易ヲ「遂」ゲルガ爲ムハ二人各、貨物ヲ「生産」シ、互ニ他ノ一人ノ「生」  
 産スル所ヲ「要求」セザル可カラズ、交易ヲレテ「世」ニ「發出」セシムル者ハ、各  
 人ハ他人ノ「產物」ニ對シテ「感」ズル「相互」ノ「欲望」コレナリ、故ニ「交易」即チ「經」  
 濟上ノ「現象」ヲ「生」ゼンガ爲ニハ「二心」ノ「一致」ヲ「必要」トスルナリ、而レテ各  
 人ニ於テ「自己」ノ「產物」ヲ「成」ル可ク少ナク與ヘテ、他人ノ「產物」ヲ「成」ル可ク  
 多ク得ント「欲」セザルハ「無キ」ガ故ニ、交易ヲ「結了」スルニ及テ「授受」シムル  
 所ノ「分量」ハ、是レ「即チ」各人ニ於テ「他人」ノ「產物」ヲ「得」ント「願」ヒレ「欲望」ノ「強」  
 弱ヲ「秤量」スルニ足ル者ナリ、是ヲ以テ各人ノ「授受」ル所ノ「可量物」ハ他人  
 ノ「授受」ル所ノ「價格」ト稱スルナリ

二十節 一切ノ産出ハ投機者ノ計テニ投機者流ノ投機ヲ必ズモ基  
 礎トシテ生産者ハ他流ノ要求スベキ者ヲ推量シテ之ヲ生産スルナリ  
 故ニ物品ニ在リテハ之ガ供給ヲ要求スル者モ無キ所ハ何如ナル  
 人々ノ慾望ヲ誘起セテ需要ヲ喚起セシメテ計レリサレド他人ノ生  
 産ハ所有ルモノ故ヲ以テ必ズ其物ヲ購買セザル可カラズトスルノ理由  
 ハ無キニ因リ若キ一人ノ之ヲ要求シ購買スル者モ無キ所ハ何如ナル  
 發明トシテ之ヲ平價格アリテ無カラスレ故テ一切ノ生産ハ投機者基キ唯  
 其間ニ實業ナルハ安全ナルト危險ナルトノ度ニ差違アリテ其ノ  
 生産者ハ其産物ノ對シテ皆ニ之ヲ要求スルノ買者アリテトスルノ機  
 投メルモノナラズ此ニ要求ノ度ハ其人ヲセテ生産ノ費用及ヒ之ヲ生  
 産スルノ要ルモノノ時間ト煩勞トニ課スルニ十分ナル利潤ヲ以テ其  
 業ヲ相業者ナラズトシテ其ノ上機ヲ設ケルナリサテ情費ノ能力ハ際



限有リテ常例トスルニ反シテ生産ノ能力ニハ際限無ク且ツ大抵市場  
 合ニ於テハ容易ニ擴張スルコトヲ得可キ者ナリ而シテ價格ノ多寡即  
 チ賣價ハ生産即チ供給ト相當ノ買價ヲ拂ハントスル人ノ員數即チ消  
 費トノ比例ニ依テ定マル者ナルガ故ニ必ズ生産ヲ斟酌シテ消費ニ應  
 合セシム可ク反對ノ順序ニ出ツ可キ者ニ非ズ是ヲ以テ余輩ハ更ニ一  
 條ノ眞理アリ曰投機ハ生産ノ母ニシテ需要ハ價格ノ根本ナリト

二十一節 「努力」ハ何如ナル場合ニ於テモ價格ノ原因ナリ基礎タルコ  
 ト無キ「努力」ノ多寡即チ生産ノ費用ハ何如ナル場合ニ於テモ價格ヲ賦  
 附シ難持スル者ナラズ一切ノ場合ニ於テ巨多ノ努力ヲ施シ費用ヲ投  
 シテ貨物ヲ生産スル所以ノ者ハ必ズ此ノ貨物ニ巨多ノ價格ノ存スル  
 故故ナリサレバ價格ヲ有スル者ハ一般ニ成果ニ在リテ決シテ成果ノ

外に出テ、而シテ此ノ成果ヲ得タル所以ノ努力ハ多キ或ハ少キ  
モ敢テ爾スル所無キナリ、蓋シ高價ナル成果ハ往往多量ノ努力即チ費  
用ト聯合セル場合ノ多キノミ、未ダ必ズレモ然ラザルヲ以テ、吾人ハ探  
ク注意シテ價格ヲ生ズル者ハ努力ナリトノ説ニ陷ルヲ避ケザル可カ  
ラズ、鋭敏ニシテ機巧ナル人ハ少シノ努力ヲ以テ高價ナル成果ヲ得ベ  
ク、拙劣ナル者ハ數倍ノ努力ヲ費ストモ同價ノ成果ヲ得ザルベシ、凡ソ  
其施ス所ノ努力ニ依テ物ノ價格ヲ計量セントスルノ偏向ヲ免レ難キ  
コト、夫ノ著述家ノ如キ者ハ蓋シ無カラン、故ニ著述家ハ自家ノ事業ノ  
價格ヲ測定スルコト最モ拙ナル者ナリトハ、是レ世人ノ常ニ言フ所ナ  
リ、大數價ホウエイトリ、ガ論理學ノ歴史ヲ著ハサント企ツル學者ヲ  
戒メテ曰、宜シク其述フル所ノ意見ノ實益ニ因テ古今ノ學者ヲ褒貶ス  
ルハ、研究ニ資シタル努力ノ多少ニ因テ斷斷スベカラズト、此ノ注意ハ

是レ廣ク各般ノ事業ニ適用スベキ者ナリ

二十二節 今ヤ余輩ハ自ラ戒メテセ、ビ、セイノ人ヲシテ迷ハシムルノ  
言辭ヲ認承スルコトヲ避ケザル可カラズ、曰、マルセイユルニ於テハ橄欖  
油一磅ハ三十「スウ」ノ相場ニシテ、巴里ニ於テハ四十「スウ」ノ相場ナルト  
キハ、余ハ査察ヲ候メズレテ言ハントス、之ヲマルセイユルヨリ巴里ニ廻  
送スル者ハ每磅十「スウ」ノ割ヲ以テ價格ヲ增加ス、産物ハ種種ノ産出者  
ノ手ヲ經由スルニ從テ次第ニ價格ヲ增加セリト、サレド余輩ノ見ル所  
ハ之ニ異ナリ、價格ヲ増加スル者ハ生産者即チ是レナルニ非ズレテ消  
費者即チ是レナリ、運送ノ費用ニシテ果シテ價格ヲ増加スル者ナラシ  
ニハ、巴里ヨリマルセイユルニ返送スルトキハ更ニ價格ヲ増加セザルヲ  
得ズ、二十圓往返セシムルトキハ其價格ヲ二十倍増加セザルヲ得ザル

運送ノ其費益並處ニ於ケル價格ノ差異ハ運送ノ費用ヲ價フニ足ルベ  
 シト預購スルヲ以テ人民ハ之ヲ運送セシガ爲ニ費用ヲ投ズルモノナ  
 リ運送ノ費用ハ其ニ價格ヲ増加スル者ナランヤ例ヘバ「文庫」若クハ「博  
 物館」ヲ購テテ地方ヨリ輸送ニ致シテ賣買スルコト有リサレド運送ノ  
 費用ハ其内書籍ノ價格ヲ増加セズ只「輸送」ノ高價ハ之ヲ此ニ運送ス  
 ルノ入費ヲ價フニ足ルベシト預期スルガ故ニ之ヲ運送シタルモノナ  
 リ  
 此ノ原理ノ眞實ナル所以ヲ証示シ且ツ更ニ堅固ナラシメンガ爲ニ此  
 ニ「金剛石」及ビ他ノ寶石ノ場合ヲ引証セントス凡ツ寶石ノ價格ハ全ク  
 其稀有ナルト富人が之ヲ所持センコトヲ欲望スルノ極メテ切ナルト  
 ニ基クモノニシテ之ヲ發見スルノ努力ニ關係セザルナリ蓋シ寶石ハ  
 或ル理由ヲ以テ人ノ非常ニ尊重スル所ト爲リ且ツ稀有ニシテ稀有ノ

佳品ヲ所持スルハ富人ノ慢心ヲ慰スルノ用アルニ至レリサレド金剛  
 石ヲ發見スルハ最モ期シ難キノ業ナレテ之ヲ産スルノ地ハ至テ少ナ  
 リ且ツ一定ノ大小ヲ越スル者ハ稀ナリ若シ二三ノ人全ク僥倖ニ依テ  
 大形ノ金剛石數百箇ヲ得バ世界中ニ存スル金剛石ノ價格ハ大ニ減少  
 セシ而シテ之ヲ得ルニ費シタル努力ト之ガ賣價トヲ比較セバ必ズ非  
 常ノ懸隔ヲ見テ全ク計算ノ及ハザル所タルベキナリ之ニ反レテ數百  
 萬ノ人ノガ搜索ヲ從事シ徒ニ勞シテ一箇ヲ發見スルニ至ラズトスル  
 者爲メ一個ノ金剛石ノ價格タニモ影響ヲ及ボスコト無ケン是レ以テ  
 人ヲレテ之ヲ發見スルニ汲汲タラシムル者ハ全ク其始ヨリ價格ヲ有  
 スルニ因ルトスルノ眞理タル事ヲ証スルニ足ルナリ金剛石ノ價格ノ  
 高貴ナル由之ヲ發見スルニ多量ノ努力ヲ施シタルニ因ルモノニ非ス  
 發見ノ極高ヲ稀有ナルニ拘ラズ萬一發見セバ其價格極メテ高貴ニ



其多難實果ヲ見サシキ勞力ヲ十倍ニ費スニ足ルヲ以テ、人其搜索ニ  
 從事スル者ナリ、之ト同シク眞珠ノ價格ノ高貴ナルハ、數多ノ漁夫ノ搜  
 索セシメ爾ルガ故ニ非ラズ、數多ノ漁夫ノ之ヲ搜索スルハ世ノ人ノ之  
 又尊重スルニ由リ甚ダシク、富人ガ之ヲ所持スルノ愉快ヲ得ンガ爲ニ高  
 價ヲ拂フコトヲ肯ズルニ因ル、故ニ余輩ハ金剛石、眞珠及ヒ其他凡百ノ  
 産物ヲ關シテモ言フコトヲ得ベシ、曰、其能ク高貴ナル賣價ヲ博スルガ爲  
 人ノ之ヲ生産スルニ巨多ノ勞力ヲ費スモノナリ、之ヲ生産スルニ巨多  
 ノ勞力ヲ施シタルガ爲ニ高貴ナル賣價ヲ博スルモノナリトセバ則誤  
 レト、夫ノ所ニ一、スミスハ、早晚世人ガ此ノ煌煌タル無用ノ長物ヲ  
 重ズルナ恩ヲ悟テ之ヲ買フノ迷ヲ解脱セン事ヲ恐レテ其家屋ヲ新築  
 スルニ當リ、急ギ寶石ヲ賣却スルニ役役メリトイフ、凡ソ勞力ト價格  
 トハ全ク關係無キ所以ヲ證明スルニ便ナル者ハ、蓋シ此等ノ數例ニ如

者無カルベキナリ

二十三節 此ノ最後ノ證例ハ最モ緊要ニシテ、政治經濟學ニ於テ適用  
 難キ所無キ者ナリ、金剛石ノ資質ハ之ヲ發見スルニ費シタル勞力ニ  
 因テ變動アルヲ無シ、而シテ第一回ノ搜索ニ依テ發見シタル金剛石ノ  
 爲ニ費セシ勞力ハ數分時間ノ外ニ出テザルニ、數日、數月、乃至數年ニ涉  
 レル搜索ヲ以テ得タル所ノ者ハ、却テ甚タ下等ノ品質ニ屬スルヲ有リ、  
 即チ些少ノ勞力ノ成果ハ之ヲ多量ノ勞力ノ成果ニ比スレバ却テ其價  
 格遙ニ高貴ナリ、此ノ如キハ是レ「經濟」ニ於テ治ク行ハルハ、ノ眞理ナリ、  
 一切ノ場合ニ於テ注目スベキ所ノ者ハ、成果ナリ、成果ノ一ニ止マルナ  
 リ、而シテ之ヲ得ル所以ノ勞力ハ毫モ斟酌スベキ限ニ非ザルナリ

二十四節 「價格唯一ノ原因」及ビ「富貴」ノ基礎ハ「需要」ニシテ「勞力」ニ非ズ  
ルヲ以テ人理ヲ明瞭ニ會得スヤトモハ、久シク世界ヲ迷惑セシメタル  
問題ヲ簡短ニ且々真正ニ答釋スルコトヲ得ベシ、シモ及ビルサルハ  
交易ニ於テ一人ガ他人ノ所有ヲ掠奪スルコト無クシテ利益ヲ得ベキ  
所以ヲ全ク解スルコト能ハザリキ、一方ニ利有ルトキハ必ズ他方ニ損  
有リトハ、是レ「經濟學士」ノ第一學派ノ出ヅル前ニ世上一般ニ行ハレタ  
ルノ論ナリ、時ニ「理物學派」ナル者起リ、交易ニ於テハ双方トモニ利益有  
ルコト無ク、交易ハ平等ノ價格ヲ交易スル者ナリト説キタリ、彼レ曰、双  
方ノ貨物ノ價格ハ、貨幣ヲ以テ之ヲ計ルルハ、則同一ナリ、故ニ孰レハ一  
方ニ於テモ利得有ルヲ得ズト、然リ而シテ列國ノ通商ヲ以テ富貴ヲ致  
セル事ハ少シク事實ヲ察セバ則明瞭ナリシニモ拘ラズ、容易ニ此ノ論  
ヲ誤謬タルヲ知ルニ至ラズ、次テ「經濟學士」ノ第二學派ニ於テ一切ノ價

格モノ物ニ施シル勞力ノ分量ニ依テ定ルトノ學說ヲ採ルニ會ヒテ  
ハ、前論ノ誤謬ヲ看破スルコトヲシテ更ニ難キ者アラシキナリ、何トナ  
ルバ「價格」ニシテ果シテ偏ニ勞力ノ分量ニ依テ定マル者タル上ハ、是レ  
ハ全ク平等ノ價格ヲ交易スルニ止マレバナリ  
然レモ一旦「需要」ハ「價格」ノ唯一ノ原因ニシテ、需要無キノ產物ハ其資質  
ノ何如ニ係ラズ、之ニ勞力ヲ施スモ爲ニ價格ヲ生ズルコト無シトノ原  
理ヲ十分ニ了解スルトキハ、此ノ疑問ノ解釋ヲシテ簡明平易ナラシム  
ルコトヲ得ベキナリ  
靴工アリ、五十足ノ靴ヲ作ルトセンニ、彼レ百足虫ニ非ザレハ五十足ノ  
靴ヲ要スルコト無クナリ、故ニ自用ノ爲ニ作ル所ノ餘ハ悉ク皆勞力ヲ無  
益ニ費シタルモノナリ、此ノ餘分ノ靴ノ富貴ヲ爲ササルハ恰モ前ニ引  
証セタル穀物ノ消費者無クシテ地上ニ腐化セル者ト同一ナリ、

手套師アリ、五十對ノ手套ヲ作ルトモ、彼レノ其ヤリウスニ非ザレバ、自以五十對ノ手套ヲ要スルコト無カラシ、サレバ前ノ場合ニ於テノ勤勞費用ヲ爲ニ作ル所ノ餘ハ、悉ク皆勞力ト材料トノ報酬ヲ得ルコト無クシテ、抛棄シタルモノナリ。

裁縫師アリ、五十襪ノ衣ヲ作ルトモ、彼レ自ラ斯ク多クヲ用フル所無カラシ、故ニ之ヲ作ルニ用ヒタル一切ノ勞力ト材料トハ、全ク無益ニ屬セリ。

農夫アリ、五百「エーカー」ノ土地ニ於テ禾穀ヲ生産シ、且ツ百頭ノ羊ヲ所有ストモ、シカ、故レノ眷屬ハ五百「エーカー」ノ土地ニ生ズル禾穀及ヒ百頭ノ家畜ヲ食スルコト能ハザラン、故ニ自身ト眷屬トノ需要ニ充ツルノ餘ハ、産スル所ノ穀物及ヒ蓄フ所ノ家畜ハ、全ク其勞力ト費用トヲ抛棄シタルモノニ外ナラズ。

學士アリ、著書ヲ出版ス、然レモ自ラ要スル所ハ數部ニ過キザルナリ、何如キ自費ノ念深キ學士トイヘ、我ガ著書ヲ千部ヨリ多ク要スルコト無カラシ、故ニ自家ノ需要ニ充タスニ十分ナル部數ノ餘ニ出版シタル所ハ、即チ其分ノ勞力ト貨幣トヲ抛棄シタルニ等レカルベシ。

此ノ論ハ以テ生産者及ビ生産物ノ全體ヲ推スコトヲ得ベシ、凡ソ人其自ラ要スル所ノ外ニ出ヅル者ヲ生産スルニ勞力ヲ施スコト有ラバ、必ズ全ク報酬ヲ得ズレテ、此ノ勞力ヲ抛棄スルニ等レカルベキナリ。

然リト雖、靴工、手套師、農夫、學士、及ビ其他ノ生産者ハ、全ク自己ノ生産物ノミヲ以テ生活スルコトヲ得ズ、靴工ハ手套、食物、衣服、書籍等ヲ要求シ、手套師ハ靴、食物、衣服、書籍等ヲ要求シ、農夫ハ靴、手袋、衣服、書籍等ヲ要求シ、裁縫師ハ靴、手袋、食物、衣服、書籍等ヲ要求スベシ、學士モ自家ノ思念ノ醜氣ノミヲ以テ生活スルコトヲ得ズ、亦必ズ靴、手袋、衣服、食物等ヲ要求

大體は是ニ農夫が各生産人ニ於テ自己ノ餘利ヲ以テ他人ノ餘利ト交  
 易スルニ起ル。譬へば靴工ノ靴ノ一足ヲ以テ手套ト交易シ、一足ヲ以  
 テ衣服ト交易シ、一足ヲ以テ食物ト交易シ、其餘ヲ以テ其欲スル所ノ他  
 ノ生産物ト交易ス、其他ノ生産者モ皆亦各自ノ生産物ノ餘利ヲ以テ其  
 欲スル所ノ他ノ諸物ト交易ス、乃チ元來需要無ク、價格無カリシ生産物  
 ニ對シテ「需要」ヲ生ズ、手套師ノ手套ハ彼レニ於テ全ク無用ナレバ、之ニ  
 價格ヲ生ズル者ハ即チ靴工ノ需要コレナリ、サレバ交易ハ各生産者ヲ  
 レテ其要求シ、從テ價格ヲ降スル所ノ貨物ヲ其要求セザル所ハ換ハチ  
 取得セシムルノ介助ヲ爲ス者ナリ、各種ノ生産物ヲレテ相續テ價格ヲ  
 得シムル者ハ此ノ相互ノ「需要」即チ「消費」コレナリ、此ノ需要アルニ及テ  
 靴工ノ勢力ハ彼レノ爲ニ手套、衣服、食物、書籍、及ヒ其他ノ要求スル所ノ  
 各生産物ヲ生ズ、從テ「價格」ヲ生ズ、是ニ於テ各生産者ハ其要求セザル所

ニ換ヘテ其要求スル所ヲ得ベシ、是レ雙方トモニ利益ヲ占メテ努力ノ  
 報酬ヲ得ルモノニ非ズレテ何ゾヤ、

二十五節 人或ハ以爲ク「價格」ハ「需要」ニ起ルト、説クノミニテハ未ダ足  
 ラザル所アリ、「經濟學士」ハ須ラク一歩ヲ進メテ「需要」ノ原因ヲ究定セザ  
 ル可カラズト、是レ大ナル誤謬ナリ、此ノ言ニ從ハント欲セバ、心理學ノ  
 全部ヲ「經濟」ニ加ヘザルヲ得ザルベシ、此ノ如キ事ヲ「經濟」ノ「核心部」即チ  
 主觀部ニ於テ研定セントスルノ謬妄ナルハ猶ホ此ノ學ノ「因物部」即チ  
 客觀部ニ於テ農商ノ事ニ關スル全体ノ作用ヲ討究セントスルノ謬妄  
 ナルガ如シ、「經濟學士」ノ「經濟學士」トシテ、心意ノ上ニ發動シテ「需要」若ク  
 ハ「價格」ヲ生ズルニ至レルノ原因ヲ探求スルノ義務無キハ恰モ「星學士」  
 ガ「星學士」トシテ、重力ノ形而上ノ原因ヲ討算スルノ義務無キガ如シ、星

學士等年々不景氣學術ノ現象ニ係る理論法ヲ意見スルニ在リ其學論是レ  
止ラズ其レ引カ律ノ原因ヲ尋究スル事ハ如キハ其レ高尚ナル學科ニ  
屬スルニ經濟學於テ亦然リ心志ヲシテ欲望即チ需要ヲ生ゼシムル所  
以テ經濟治及ヒ其條條ハ其學ノ措テ講明セザル所ナリ又生産物ノ調治及  
其條條即チ製造ヲ至リテモ敢テ此ノ學ニ於テ講明スルノ限ニ非ズハ  
ナレバ需要又ハ價格ヲ生ズルノ原因ヲ講明スルハ形而上學者ノ任ニ在  
リ其條條製造ノ作用ヲ講明スルハ農夫ト製造家トノ任ニ在リ經濟學士  
ハ唯々價格ノ原因タル需要ト價格ノ係ル所タル生産物トニ就テ論究  
スバキニモ

二十六節 價格及セ富資ノ原義ヲ爲ス者ハ「需要」即チ「消費」ニシテ「努力」  
ニ非ズトスルノ概念ヲ明瞭ニ認得スル事ハ夫ノ勞動社會ニ臨ヒテ彼

レ獨リ天下に富資ヲ生産スル者ナリト説キ以テ賤民ノ驥尾ニ附テ社  
會ニ勢力ヲ得ントスル煽動者流ノ議論ノ謬妄ナル事ヲ看破スルニ足  
ルベシ品物ヲシテ富資ヲラシムル者ハ「生産者」ニ非ズシテ「消費者」ナリ  
飯令何如ナル生産物有リトモ一人ノ之ヲ需要シ之ヲ消費スル者無キ  
ルハ勞動社會ノ努力ハ全ク無益ニ屬セントスルロト上述ノ如シ社會  
ノ各級ハ互ニ他級ヲ須テ存立スル者ナリ故ニ若シ彼等ニシテ努力ノ  
外以テ販賣ニ供ス可キ者ヲ有セザランニハ固ヨリ富人ニ抗抵シテ之  
ヲ敵視ス可キニ非ズ却テ成ル可ク多數ノ富人アリテ其努力ノ成果ヲ  
需要セザル事ヲ欲望スベキナリ

二十七節 國ノ價格ノ差等ハ努力ノ不同ニ因ルト説キテ  
數多ク經濟學士ノ權説スル所ト爲シテ「バスターコン」ノ名香果レテ誤ラザ

此等事情ニ鑑みテ、開ク可ク、何人モ一物ニ就テ其物ノ性質ヲ正當ニ且ツ有効ニ究定スルコトヲ得可キニ非ズ、蓋シ其見ル所ヲ廣クシテ須ク百種ノ經驗ニ質スベシトノ義ナリ、ロック及ビ陸積トシテ同氏ヲ編述セシ輩ガ米穀、葡萄ノ富豐收穫ヲ指シテ土地ノ價格ニ差等ヲ生ズル者ハ勞力ニ在リト論定スルニ當テヤ、彼等ノ斯ク推シテ以テ田園ノ價格ノ差等ノ原因ナリト爲ス所ノ者ハ、從テ自餘各物ノ價格ノ差等ノ原因ヲモ爲ス可キ者ナル事ニ注意セザル可カラズ、是ニ於テ余輩ハ倫敦ノ諸區ニ於テ地面ノ價格ニ差等アル事ヲ指示シ、以テ同ハントス、此ノ價格ノ差等ハ果シテ「勞力」ニ原因スルヤト、或ハ又此ノ誤ノ「經濟學士」ニ於テ諸種ノ製造品、即チ時計、家具、衣服等ヲ舉ゲテ其價格ハ勞力ニ由來スト言フトセンカ、余輩ハ左ニ舊式簿記法ニ係ル千八百七十二年十月四日ノ「英倫銀行」ノ計算表ヲ揭示セントス

○負債

發行債券

二七、五八九、三六〇磅

政府預金

八、八四二、三三八二磅

人民預金

一九、〇〇四、〇三六磅

合計

五五、四三五、七七八磅

○資産

公債證書

三八、〇九一、四二四磅

貨幣並ニ元貨

二一、一五六、四五二磅

合計

五九、二四七、八七六磅

コレハ合計五千五百四十三万五千七百七十八磅ヲ爲セル一方ハ全ク負債、即チ「信約」ヲ以テ成リ、他方ノ内譯ケ二千百十五萬六千四百五十二磅ハ貨幣ヲ以テ成リ、三千八百〇九萬一千四百二十四磅ハ負債、即チ「信

獨一原因ノ格價ハ要諦

約「及」以「成」成「見」見「可」可「見」見「大」大「債」債「即」即「債」債「之」之「歸」歸「格」格「恰」恰「同」同「類」類「貨」貨「幣」幣「同」同「樣」樣「ノ」ノ「假」假「格」格「ヲ」ヲ「以」以「テ」テ「セ」セ「リ」リ「サ」サ「テ」テ「余」余「單」單「ハ」ハ「此」此「ノ」ノ「債」債「約」約「ノ」ノ「假」假「格」格「ハ」ハ「何」何「ニ」ニ「原」原「因」因「ス」ス「ル」ル「者」者「ナ」ナ「リ」リ「ヤ」ヤ「果」果「シ」シ「テ」テ「勞」勞「力」力「ニ」ニ「原」原「因」因「ス」ス「ル」ル「者」者「ナ」ナ「リ」リ「ヤ」ヤ「ト」ト「問」問「ハ」ハ「ザ」ザ「ル」ル「ヲ」ヲ「得」得「ザ」ザ「ル」ル「ナ」ナ「リ」リ「或」或「ハ」ハ「經」經「濟」濟「學」學「士」士「ア」ア「リ」リ「有」有「形」形「貨」貨「物」物「ノ」ノ「大」大「額」額「ヲ」ヲ「指」指「示」示「シ」シ「是」是「レ」レ「全」全「ク」ク「勞」勞「力」力「ノ」ノ「成」成「果」果「ヲ」ヲ「且」且「ツ」ツ「大」大「價」價「ヲ」ヲ「有」有「ス」ス「ト」ト「言」言「フ」フ「ト」ト「セ」セ「ン」ン「カ」カ「余」余「輩」輩「ハ」ハ「ミ」ミ「ル」ル「氏」氏「ガ」ガ「大」大「英」英「國」國「ニ」ニ「於」於「テ」テ「創」創「造」造「ス」ス「ル」ル「爲」爲「替」替「手」手「形」形「ノ」ノ「總」總「計」計「ヲ」ヲ「引」引「証」証「セ」セ「ン」ン「左」左「ノ」ノ「如」如「キ」キ「ニ」ニ

千八百三十七年ノ分	四五五、〇八四、四四五磅
千八百三十八年ノ分	四六五、五〇四、〇四一磅
千八百三十九年ノ分	五二八、四九三、八四二磅

サテ問ハントス、此ノ巨額ノ「信約」ノ價格ノ原因ハ何ニ在リヤト、是レ然シテガ實現時ニ於テ創造スル所ニ比スレバ僅少ナルノ「勞力」ノ果シテ之カ價格原因ナルカト

經 濟 苦 難

二十八節 吾人「フ」フ「ア」ア「ー」ー「サ」サ「ー」ー「デ」デ「ー」ー「ム」ム「ス」ス「河」河「ヲ」ヲ「瀾」瀾「リ」リ「フ」フ「ト」ト「チ」チ「ー」ー「バ」バ「ム」ム「ス」ス「ミ」ミ「ス」ス、キウ、リ、チ、モ、ソ、ド、キ、ン、グ、ス、ト、ン、イ、ー、ト、ン、ラ、ク、ス、フ、ア、ル、ド、等、ヲ、通、過、ス、ル、ト、キ、ハ、河、ノ、兩、岸、ニ、種、種、精、巧、ヲ、盡、シ、タル、小、舟、ヲ、見、ル、ベ、シ、抑、々、此、等、ノ、小、舟、ハ、何、ノ、爲、ニ、此、處、ニ、在、リ、ト、ス、ル、ヤ、何、ニ、因、リ、テ、價、格、ヲ、有、ス、ト、ス、ル、ヤ、全、ク、英、國、ノ、少、年、ガ、舟、遊、ヲ、好、ム、ニ、因、ル、ニ、非、ズ、ヤ、造、舟、ノ、業、ニ、於、テ、英、國、ノ、少、年、ヲ、シ、テ、舟、遊、ヲ、好、ム、シ、メ、タル、ニ、非、ズ、舟、遊、ヲ、好、ム、者、ノ、多、キ、ガ、爲、ニ、匠、工、ヲ、シ、テ、小、舟、ヲ、造、ラ、シ、メ、タル、ナ、リ、サ、レ、ド、安、逸、無、爲、ヲ、以、テ、無、上、ノ、快、樂、ト、シ、タル、人、民、ノ、間、ニ、在、テ、ハ、小、舟、モ、何、ノ、價、格、カ、有、ラ、ン、ヤ

二十九節 吾人「ロ」ロ「レ」レ「ト」ト「ノ」ノ「サ」サ「ン」ン「タ」タ「カ」カ「サ」サ「ニ」ニ「詣」詣「ル」ル「ト」ト「キ」キ「ハ、寺、院、ノ、前、面、ノ、廣、地、ニ、於、テ、蠟、ヲ、以、テ、作、リ、タル、心、臟、四、肢、兩、臂、兩、耳、以、下、ノ、人、體、ノ、局、部、ヲ、販、賣、ス、ル、ノ、事、ヲ、見、ル、ベ、シ、抑、々、此、等、ノ、小、舟、ハ、何、ノ、爲、ニ、此、處、ニ、在、リ、ト、ス、ル、ヤ、何、ニ、因、リ、テ、價、格、ヲ、有、ス、ト、ス、ル、ヤ、全、ク、英、國、ノ、少、年、ガ、舟、遊、ヲ、好、ム、ニ、因、ル、ニ、非、ズ、ヤ、造、舟、ノ、業、ニ、於、テ、英、國、ノ、少、年、ヲ、シ、テ、舟、遊、ヲ、好、ム、シ、メ、タル、ニ、非、ズ、舟、遊、ヲ、好、ム、者、ノ、多、キ、ガ、爲、ニ、匠、工、ヲ、シ、テ、小、舟、ヲ、造、ラ、シ、メ、タル、ナ、リ、サ、レ、ド、安、逸、無、爲、ヲ、以、テ、無、上、ノ、快、樂、ト、シ、タル、人、民、ノ、間、ニ、在、テ、ハ、小、舟、モ、何、ノ、價、格、カ、有、ラ、ン、ヤ

スル數多ク小儲蓄見ル可シ此等ノ貨物ヲテ價格大クシムル者何  
 ソヤ是レ靈處女ノ母ニ奉納シ以テ其功德ヲ受ケテ奉納者ノ身體ノ局  
 部ノ病痾ヲ醫セン事ヲ願フノ料ニ供センガ爲ニ造レル者ナリ彼ノホ  
 レトスラテテ濡衣ヲ海神ニ奉納セシメテ習慣ハ今尙ホ伊太利人ノ  
 間ニ衰ヤザルナリサレド此等ノ貨物ハ「新教」ヲ奉ズル英吉利人ノ間ニ  
 於テハ果レテ何如ナル價格カ有ル

千八百四十六年ニ於テ佛國ラサレツトノ近傍ニ二兒アリ群羊ヲ管司  
 スルノ際忽焉トシテ「靈處女」ノ降來レ下ダスニ法王ノ外ハ何人ニモ告  
 ケ可カラザル神託ヲ以テスルニ會フ是ニ於テ之ヲ羅馬ニ遣シ以テ法  
 王バイヤス九世ニ拜謁セシメタリ千八百七十二年九月二十四日「ス  
 ンダル」新聞ニ曰「羅馬舊教會」ハ此ノ怪異ヲ容レテ其保庇ノ下ニ屬  
 セレメ賞牌ヲ鑄十字架ヲ造テ之ガ紀念ト爲レ之ヲ記錄スルノ經文ヲ

草シ「靈處女」出現ノ所ニ宏壯ナル寺院ヲ建テ會「清泉」ノ存スルヲ見テ  
 聖母出現ノ靈跡ト爲セリ此ハ清泉ハ爾後佛國最上ハ「葡萄牙」ニ比スル  
 モ尙ホ高貴ナル地稅ヲ博スルニ至レリ而レテラサレツトノ拜堂ハ未  
 ダ二十五年前ヲ出テザルニ既ニ往昔ヨリ有名ナル伊太利ノ靈場「ロレト」  
 ニ匹敵スル有名ノ地ト爲レリトサテ此ノ清泉ノ存スル所ノ地稅ハ之  
 ヲ勞力ニ歸ス可キカ是レ全ク人民ガ前述ノ如キ不可思議ヲ信仰スル  
 ニ基クホト明白ナリ若シ此ノ信仰ニシテ消滅スルトキハ此ノ土地ノ  
 價格ハ直ニ消滅スベシサレバ此ノ後又千八百五十九年ニ於テ「ポー」  
 距離殆ド二十四里ノ「ロール」デト云フ地ノ近傍ニ於テ「聖母」ノ出現アリ  
 テ今「ロール」デノ寺院ト清泉トハラサレテニ對峙スルニ至リタリト  
 聞クモ亦驚クニ足ラザルナリ獨リ怪シム佛國ノ郡縣悉ク皆斯ク利益  
 ノ多キヲ見テ「聖母」ノ出現ヲ致スコト無キヲ



五十餘ノ論ヲ此ニ至レバ「價格」ノ人心ニ發スル事ヲ証明セシガ爲ニ  
 更ニ紙數ヲ消費セシコトヲ要セザルナリ、フロイラス曰、人ノ之ニ歸ス  
 所ハ外ハ物ニ何ノ價格カ有ルト、ロウタガ無職ノ印度人ニ對シテ其陋  
 狀ノ職業ノ缺乏ヨリ起ルヲ説クヤ、其實缺乏セシ者ハ勞力ニ非ズシテ  
 寧ロ開明人民ノ幸福及ビ便益ニ對スル「需要」コレナリシコト明白ナリ、  
 蓋シ此ノ人民モ時トシテ殆ド信ズ可カラザルノ勞働ヲ爲シタルハ事實  
 ナレバナリ、夫ノ愛蘭ノ卑野、蘇格蘭ノ高臺、伊太利ノ南方ニ住ム人民及  
 ビ其他許多ノ地邦ニ住ム人民ヲシテ憫ム可キ貧困ノ狀ニ陥ラシメタ  
 ル者ハ何ゾヤ、曰他無シ、善長ナル貨物ノ要求、即チ需要ノ缺乏是レナリ、  
 之ヲ聞ク商估ノ貨物ヲ未開ノ國土へ輸出スルニ當テ第一ニ務ムル所  
 ハ其地ノ人民ヲ勸誘シテ此ノ貨物ニ對スル需要ヲ起サシムルニ在リ

ト、蓋シ衣服ヲ着用セザル人民ヲシテ木綿ノ貨物ヲ購買セシメント欲  
 ストモ何ゾ得ベケンヤ、自餘各物ニ關シテモ同一ノ原理ヲ以テ推ス、可  
 ク、敢テ開化ト未開トヲ問ハザルナリ、凡ソ物ヲシテ「價格」ヲ有セシメン  
 ガ爲ニハ必ズ之ニ對スルノ需要ヲ存セザル可カラズ、而シテ最モ有益  
 ニシテ最モ善長ナル物ノミ常ニ需要アリトスルヤト問ハヤ、必ズ「否」ト  
 對フ可キハ各人ノ經驗ニ照シテ昭昭タル所ナルベシ、最モ善長ニシテ  
 最モ有益ナル貨物ト雖モ世人ノ無智、偏僻及ビ利害ノ軋轢ニ因テ掩蔽  
 セラレテ需要ニ會ハズ、價格ヲ得ザルコト夫レ幾度ゾヤ  
 以上ノ理由アルヲ以テ余輩ハ決論ヲ下シテ曰、貨物ヲシテ富資メラシ  
 ムル者ハ「勞力」ニ非ズシテ消費、交易、即チ「需要」コレナリト、而シテ國民ノ  
 富資ノ増進ヲ以テ全ク此ノ人民ノ所須、需要ノ増進セシニ歸セントス、  
 第一ニ身軀ノ所須ヲ資給スルノ要求ハ食物、衣服、住居、薪炭ノ如キ有形

貨物ヲ以テ價格アラセメ、第二ニ一般ノ嗜好改進スルニ從ヒ、文辭、理學  
及ビ技術ニ對スル需要ヲ生ジ、國學、彫刻、建築、歌舞、戲曲ノ類ヲシテ價格  
アラシメ、即チ此等ノ事物ヲシテ富貴ヲラシムル者ハ一ニ公衆ノ需要  
アルノ事、故ニ國ヲシテ富裕ナラシメンガ爲ニハ人民ノ間ニ勢烈ニシ  
テ且テ種々ナル需要ヲ喚起セシメザル可カラズ、是レ即チ「經濟」ノ點ヨ  
リ見テ國民ノ教育ヲ緊要トスル所以ナリ、能ク重稅ノ負擔ニ堪ユル者  
ハ唯々勉勵ヲ富貴ナル人民アルノミ、是ヲ以テ要求ノ増加ハ勉勵ヲ  
増加シ、資本ヲ増加シ、輸入ヲ増加シ、租稅ヲ負擔ス可キ人員ヲ増加シ、國  
民ヲシテ偉業ヲ起シ大功ヲ期ス可カラシメ、世界ノ交際ニ於テ高貴ナ  
ル地位ヲ得セシムル所以ノ者アリ

○第三項 「價格」ノ普關理法即チ「經濟」ノ普關理係ノ討究

三十一節 前項ニ於テ既ニ「價格」ノ釋義ヲ定メ、其本質即チ「原因」ハ偏ニ  
「人心」ニ存スルコトヲ發見シタルヲ以テ、余輩ハ是レヨリ最後ノ研究ニ  
移ラントス、曰、「價格」ノ普關理法、即チ「經濟」ノ普關理係ノ講明コレナリ、即  
チ性質ノ何如ニ拘ラズ一切ノ「可量物」ノ交易上ノ關係ニ發スル變動ヲ  
主宰スル單一ノ普關理法ヲ發見セントスルナリ、  
「歸納理學」ノ確定原理ニ於テハ「價格」ノ普關理法ハ必ズ單一一條ノミニ  
止マランコトヲ要ス、前章ニ於テハ「經濟」上可量物ニ三種アルコトヲ示  
シ、又此ノ學ノ本然ノ「概念」ヲ概括シテ此ノ三種ノ「可量物」ヲ悉ク包含セ  
シメ、且チ、サテ此ノ三種ヲ交易スルノ法ニ六種ノ差別アリ、是ヲ以テ今

將ニ研究セントスル所ノ者ハ此ノ六種ノ交易ノ孰レニモ同様ニ適用  
ス可キ普關ノ關係コレナリ、有形產物ノ交易上ノ關係ヲ主宰スル「理法」  
ハ均シク負債<sup>即チ</sup>物<sup>無</sup>ノ交易上ノ關係ヲモ主宰セザル可カラザルナリ、  
今ヤ「圖」ヲ以テ「經濟上可量物」即チ凡ソ秤<sup>量</sup>權<sup>量</sup>ス可キノ價格ヲ備ヘタル諸  
物ノ符號ナリトシ、之ヲ以テ治ク此等ノ種々ノ「可量物」ヲ表示スルトキ  
ハ何レノ國ニ於テモ左ノ如キ可量物有リト言フコトヲ得ベシ

- 五四六圓                      四九七圓                      二〇八圓
- 三四九圓                      七八四圓                      六二七圓
- 八〇四圓                      九三二圓                      七一二圓
- 二四圓                          九八七圓                      四五九圓

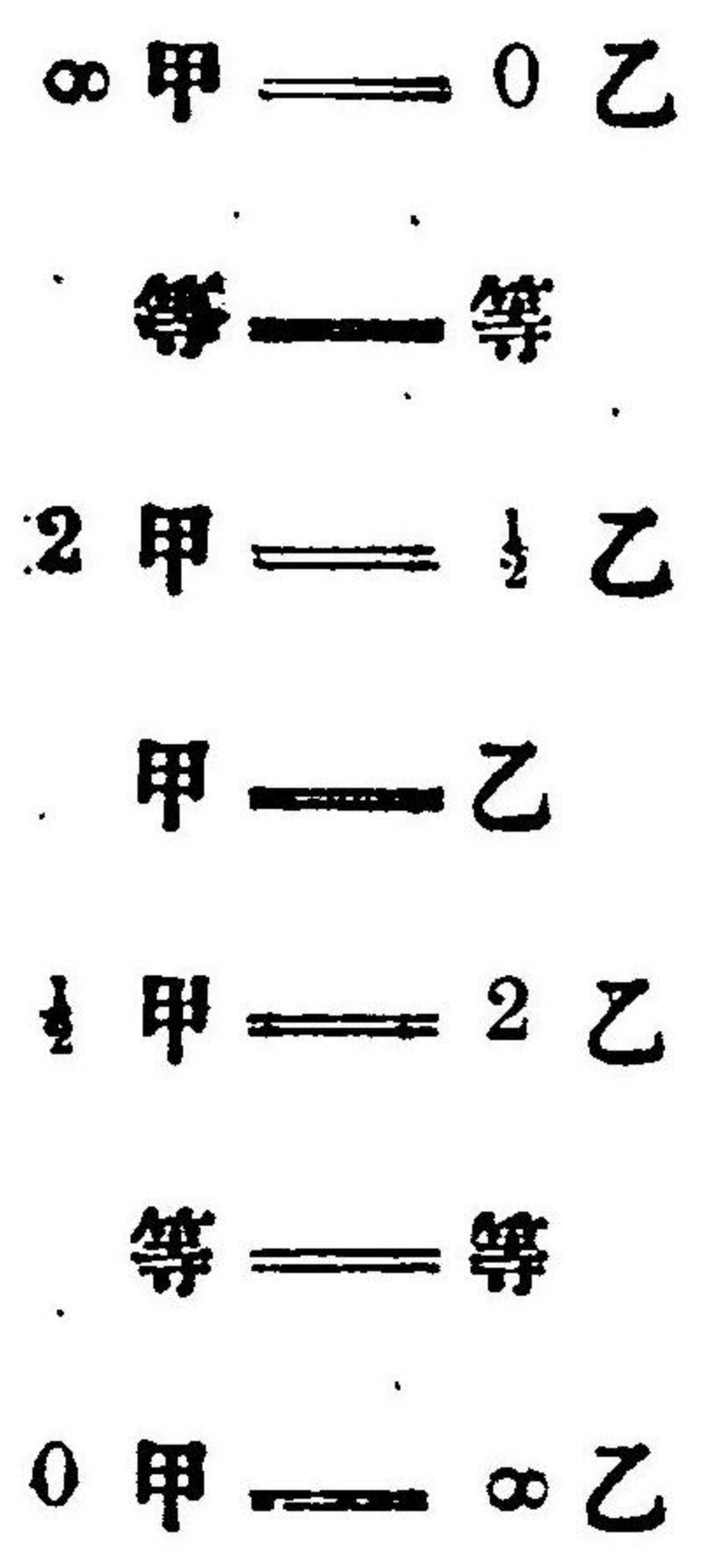
然ルルハ「理學連續」ノ律ト、代數ニ於テ唱フル所ノ均一、形體不變ノ理ト

ニ準據シテ右ノ如キ連列「可量物」ノ一ニ關シテ真正ナル者ハ又其全列  
ニ關シテモ真正ナラザル可カラズト斷言スルコトヲ得ベシ、右ニ列記  
スル所ノ如キ「經濟上可量物」ヲ一見スルニ於テ誰レカ能ク其何レノ種  
類ニ屬スル者ヲ代表スルヤヲ知ラン、一ハ土地ナルベク、一ハ穀物ナル  
ベク、一ハ鑛物ナルベク、一ハ船舶ナルベク、一ハ貨幣ナルベク、一ハ信約  
ナルベク、一ハ勞力ナルベク、一ハ版權ナルベク、一ハ商社ノ株權ナルベ  
シ、然ルモ猶ホ此等一切ノ可量物ノ「價格」ノ「原因」タル者ハ必ズ唯一ナラ  
ザル可カラズ、即チ余輩ハ既ニ「需要」コソ以テ一切ノ「經濟上可量物」ノ「普  
關原因」トスベキ者ナル事ヲ証明シタリ、此ノ論ヲ取ルトキハ、直ニ「經濟  
學士」ガ品物ノ種類ヲ異ニスルニ從テ之ガ價格ノ原因ヲ區別シタルノ  
謬妄ヲ證シテ其論ヲ滅却スルニ至ルベキナリ

右ニ列記スルガ如キ諸箇特立ノ「經濟上可量物」ヲ得タル上ハ則此ノ理

學ノ務ム可キ所ハ此等ノ可量物ノ交易上ノ關係ノ變化ヲ主宰スル「普  
關理法」ヲ發見スルニ在リ、而シテ此ノ理法ハ必ズ「可變可量物」ノ「全體」ニ  
關スル一般ノ理論ニ類合セル方法ヲ以テ研究スベキ所タルコト「理學」  
連續ノ律ニ徴シテ明白ナリ、果シテ然ラザルハ「數理學」及ヒ「形而下理  
學」ノ諸科ハ忽チ其據テ立ツ所ヲ失ハントス

三十二節 今若シ「甲」ト「乙」トヲ以テ二箇ノ可量物ヲ全ク普通ニ表示ス  
ル者ト看做スルハ其交易上ノ關係ハ左ノ際限ヲ出テザル事明ナリ



初者曰ハ「無窮」ト記セルハ、漸次增加シテ平均減少シテ、而シテ  
ルマデナ「甲」ノ「乙」ノ「均」ト「零」ト「漸次增加シテ平均減少シテ、而シテ  
「甲」ト「乙」ト「均」ト「零」ト「漸次增加シテ平均減少シテ、而シテ  
示シタルノ「均」ト「零」ト「漸次增加シテ平均減少シテ、而シテ

其意他無シ、先「甲」ト「乙」トノ交易上ノ關係ヲシテ「甲」ノ最大數ヲ以テ「乙」  
ノ最小數ト交易ス可キノ點ヨリ起リ、漸次變動シテ「甲」ノ最小數ヲ以テ  
「乙」ノ最大數ト交易ス可キノ點ニ至ルマデノ間ニ於テ立ツ者タラシム  
ベシトナリ

前ニ記載セシ「百本」上「第」連續律ニ曰「凡ソ可量物ノ甲ノ量ヨリ乙ノ量  
ニ變轉スルハ、縱ヒ何如ナル情狀ノ變化アルニ際シテモ、其新陳兩量ノ  
中間ニ介スル一切ノ程度ヲ經過スルニ非ザレバ能ハザル事ナリト  
故ニ余輩ハ「連續律」ノ効力ニ據テ左ノ條件ヲ確言セントス

(第一) 若シ或ル格段ナル理法アリテ物價列次ノ或ル一點ニ於テ正經ナルヲ確証シ得キトキハ此ノ理法ハ必ズ物價列次ノ全局ニ涉リテ其各一點ニ於テモ正經ナラザルヲ得ザルナリ

(第二) 「甲」ト「乙」トノ符號ヲ以テ全ク普通ニシテ廣ク各様ノ可量物ヲ標示スル者ト爲スガ故ニ各様ノ二個可量物ノ交易上ノ關係ノ變動ヲ主宰スルノ理法トシテ正經ナルヲ確証ス可キ所ノ者ハ又必ズ自餘各種ノ可量物ノ交易上ノ關係ニ涉リテモ正經ナラザルヲ得ズ

故ニ連續律ニ基テ余輩ハ左ノ如ク斷言スルコトヲ得タリ

若シ或ル理法ニシテ各様ノ二個可量物ノ間ニ發スル物價列次ノ或ル一點ニ於テ眞實ナルヲ証明スルコトヲ得タルハ此ノ理法ハ又此ノ物價列次ノ一切ノ諸點ニ於テ且ツ一切可量物ノ間ニ於テ正經ナラザルヲ得ズ

又之ガ系論トシテ更ニ左ノ一項ヲ決定スルコトヲ得タリ

若シ或ル理法ニシテ各様ノ二個可量物ノ關係ニ對シテ眞正ナラザルヲ確証スルコトヲ得ヘキトキハ此ノ理法ハ經濟ノ普關理法タルコトヲ得ザルナリ

三十三節 凡ソ自餘諸科ノ理學ニ施シテ果シテ確實ナルコトヲ認メザルハ無キ所ノ者タル哲學上ノ推論ノ原則ヲ了解シ且ツベ—コンノ斯クマデ熱心主張シタリシ諸學連續ノ理ヲ保全セント欲スル者ハ必ズ上述ノ態度ノ正當ナルヲ認承セザルヲ得サルベシ哲學上ニ於テ普關ノ規律ヲ得ンコト果シテ難カラズトセバ此ノ規律ハ必ズ一切ノ場合ニ適用ス可キ者ナラザルヲ得ズ格段ナル場合ヲ分解シテ普通ノ規律ヲ推究シ此ノ規律ノ以テ治々各般ノ場合ニ適用シ得ベキコトヲ明

示スルは是レ實ニ歸納哲學ノ元精ナリ神髓タル所ナリ、又相對頭スル  
 二箇ノ理論アルニ際シテモ信條ヲ分別スル所以ノ檢式ハ之ヲ特殊個  
 個ノ場合ニ徵スル事ノ外ニ一モ有ラザルナリ、故ニ古來真正ナルガ如  
 ク見ユル理論二箇以上アリタル毎ニ、其中ニ就テ特殊ノ場合ニ適用シ  
 テ現象ヲ解釋スルニ足ラザル者ハ必ズ常ニ排斥セラレタリ、苟モ真正  
 ナラントスル理論ハ以テ一科ノ理學ニ屬スル一切ノ現象ヲ分解スル  
 ニ足ル者ナラザル可カラズ、即チ各般ノ場合ニ於テ各様ノ程度ニ及ボ  
 スモ尙ホ真正ナル者ナランコトヲ要ス、若シ一箇ノ實事ノ到底此ノ理  
 論ト媾和シ難キ者ノ存スル有ルヲ見テモ直ニ以テ此ノ理論ヲ斃スニ  
 足ルベキナリ

他ノ理學ニ於テモ一ノ理論アリテ、以テ數多ノ現象ヲ解釋スルニ足リ、  
 久シキ真正ナリト認メラレタルモ、歲月ヲ經ルニ從ヒ、全ク之レト兩立

シ難キ類ノ現象ヲ發見スルニ至リ、爲ニ此ノ新出ノ事實ヲモ包容スル  
 ニ足ル他ノ理論ヲ工夫スルコト必要ト爲セシ例少ナカラズ、蓋シ此ノ  
 改新理論ハ以テ舊說ノ能ク解釋シタル一切ノ事實ヲモ悉ク包容シ、且  
 ツ舊說ト同様ニ善ク之ヲ解釋スルニ足ル者ナラザル可カラザルヤ言  
 フ疾クズ、果シテ斯ル事有リテ、此ノ新說ノ能ク一切ノ觀察ス可キ事實  
 ヲ解釋スルニ足ルコトヲ發見スルニ至ル上ハ、茲ニ舊說ヲ全廢シテ新  
 說ヲ採用スルニ至ラザルハ無キナリ

今ヤ「經濟」ニ至テモ正レク同一ノ論法ヲ以テ之ヲ推サンノミ、以テ一切  
 ノ場合ヲ解釋スルニ足ルノ理論ノミ獨リ真正ナリトス可キハ、是レ實  
 驗理學ニ於テ洽ク認承スル所ノ原理ナリ、故ニ余輩ハ「經濟」ニ於テモ左  
 ノ一說ヲ掲ゲテ動ス可カラザルノ眞理ナリト斷定セントス、曰  
 若シ物價又ハ物價ハ變動ニ關スル現象ヲ解釋説明スル所以ハ、定説

二箇以上アルトキハ其中ニ就テ此ノ種學ニ屬スル一切ノ現象ヲ解釋スルニ足ルノ定説ノミ眞正ニシテ唯々一部ノ場合ニ限り適用ス可キ者ハ眞正ニ非ザルナリ

斯ク諸學連續ノ律ニ據リ又他ノ形而下理學ノ例ヨリ推シテ論ズルトキハ凡ソ價格ニ係ル種々ノ現象ハ之ヲシテ何如ニ參伍錯綜セルノ趣アラレトモ價格ノ普關理論ト爲ス可キ所ノ者ハ必ズ一箇ニ過ギサルヲ知ルナリ此ノ學ノ現象ヲ以テ各種ノ相容レザル理論ニ根基スト爲スガ如キハ經濟理學ノ普關ナル所以ヲ破却スルモノト謂フ可シ

三十四節 リカルドノ引用スル所ノ著書ニ於テロルドローデルデ

ル説アリ該書中此ニ引証スル一説ノ外ニ取ル可キ者殆ド無し曰各變動スルコト有ルベキ二箇ノ可量物ノ中ニ就テ先ゾ其一ニ變動ヲ生ジ

他ノ一ニハ之ヲ生セズト假定スルトキハ其價格ハ四種ノ原因ノ管理スル所タルベシト左ノ如シ

其價格ノ増加スルニ二種ノ原因アリ

一 分量ノ減少ニ原因スル者

二 需要ノ増加ニ原因スル者

其價格ノ減少スルニ二種ノ原因アリ

一 分量ノ増加ニ原因スル者

二 需要ノ減少ニ原因スル者

サレバ他ノ一方ノ可量物ニ係ル動搖モ亦右四種ノ原因ノ管理スル所タルベキヲ以テ双方ノ可量物ノ變動ハ八箇ノ原因ノ影響スル所タル可キナリ而シテ今若シ代數上ノ方程式ノ体裁ヲ以テ此等ヲ連合スルトキハ則經濟ノ眞正ナル普關關係ヲ得可キコト明白ナリ

此ノ「普通關係」ハ必ズ「經濟」ノ全體ヲ包括スベキ者ニレテ、此ノ學ハ八個  
 ヲ下ダラザル「獨立可變物」ヲ含有スルコトヲ思ヘバ、此ノ「經濟」ノ性質ノ  
 本來異常ニ錯雜セル所以ヲ知ルニ足ルナリ  
 リカルドハ此ノ「理法」ヲ以テ一切ノ專賣貨物ニ適用ス可ク、且ツ有限ノ  
 時期ノ間ハ他ノ貨物ニモ適用ス可キコトヲ認承シタリ、然レモ既ニ一  
 箇ノ場合ニ於テ正當ナル者ハ、必ズ一切ノ場合ニ於テ正當ナラザル可  
 カラズ、リカルドノ此ノ「理法」ヲ知ラザルハ職トシテ「歸納理學」ノ薰陶ヲ缺  
 キタルニ由ル  
 前ニ引証スルローデールノ語ニ於テ十分ニ盡シタル「供給需要」ノ  
 「理法」ハ是レ其實「物價」ノ極メテ廉ナル時ト、其極メテ貴キ時トニ關シテ  
 ハ一切ノ「經濟學士」ノ是認スル所ナリ、斯ク物價ノ最高及ビ最低ノ二極  
 ニ在リテ運轉スル者ハ、「供給需要」ノ「理法」ノ外ニ一モ有ラズ、果シテ然ル

此ハ此ノ二種ノ中間ノ物價モ亦皆「供給需要」ノ「理法」ノ主宰スル所ナル  
 可キ事夫ノ「連續律」ニ據テ知ル可キ所ナリ  
 上ニ述ブル所ハ「經濟」ノ真正ナル「普通關係」タルコト明白ナリ、故ニ此ノ  
 「理法」ヲ基礎トシテ此ノ「經濟」ノ全體ヲ構成セザル可カラズ  
 斯ク「普通關係」ノ修述ヲ定ムルニ於テ余輩ハ只タ一切ノ形而下「理學」ニ普通  
 ナル方法ヲ執リタルモノニ外ナラズ、余輩ノ得タル所ノ者ハ即チ「獨立  
 可變物」ナリ、而シテ「普通關係」法即チ「定式」アリテ之ヲ連結スルナリ、是ニ於  
 テ既ニ此ノ「理學」ヲシテ確實ナラシムルノ功ヲ奏シタリ、然レモ更ニ進  
 テ最後ノ一段ヲ修メントスルニ當リ、始メテ茲ニ困難ノ生ズルヲ見ル、  
 曰他無シ、係數ヲ量詰シ、之ヲシテ精細ナラシムル事是レナリ、  
 係數ニ於テ獨立シテ變化シ以テ一箇ノ成果ヲ生ズル者ヲ謂フ、即チ此ノ  
 場合ニ於テ係數ト指ス所ノ者ハ「需要」ト供給トナリ、量詰トハ數量ヲ究  
 詰シテ表示スルヲ謂フ、供給ト需要トノ上ニ生ズル云云ノ變動ハ、物價ノ



上ニ云云ノ變動ヲ來スストノ次第ヲ數字ヲ以テ精細ニ示スハ甚々難  
 澁ナル事ニシテ、恐クハ全ク爲ス可カラザル所ナルベシ、或ハ禾穀ノ如  
 キ物ノ場合ニ於テハ之ヲ爲サント企テシ者モ無キニ非ズ、然レモ到底  
 正密ナル數目ヲ得ルコト能ハザリシハ言ヲ蒞タズ  
 斯ク「係數」ニ精細ナル數目ヲ付スルノ難キハ、是レ數多ノ學士ヲシテ「經  
 濟」ヲ正確理學ト爲スノ難キヲ思ハシメタル所以ノ者ナリ、或ハ說ヲ爲  
 ス者アリ、曰、凡ソ理學ヲシテ正確ナラシメント欲セバ、必ズ其理法ニ下  
 ダスニ精細ナル數量的ノ定說ヲ以テスルコトヲ得ザル可カラズト、然  
 レモ是ノ如キハ謬見ナル事夙ニコムトノ明示セシ所ナリ、コムトハ理  
學ノ確實ト精細トヲ區別シ以テ其謬見タル所以ヲ述ベタリ、蓋シ「正確」  
 ナル理學ヲ立テシニハ精細數量ヲ以テ其理法ヲ究定センコト必要ナ  
 ラズ、唯ク其推論ノ正密、即チ確實ナラシメント要スルノミ、氏曰、種種理

學ノ科ヲ異ニスルニ依テ精細ノ度甚々不同ナルガ故ニ、其正確ノ度亦  
 亦斯ク不同ナリトセントスル甚々有害ナル辭說世ニ出デタリ、是レ人  
 ヲシテ至難ナル學問ヲ研究セントスルノ氣力ヲ沮喪セシムル者ナリ、  
 精細ト正確トハ全ク別物ナリ、譬ヘバ三角形ノ角度ハ三直角ニ均シト  
 云フガ如キ妄說モ、精細ハ即チ精細ナリ、之ニ反シテ人ハ死アリト云フ  
 ガ如キ正確ナル論說トイヘモ、未ダ精細ナルコトヲ得ズ、故ニ種種ノ理  
 學ノ精細ノ度ハ相異ナルベシト雖モ、皆テ其正確ノ度ニ影響スル所無  
 キナリト、此ノ論ノ善ク「經濟」ニ該當スル、實ニ的切ナル者アリ、人或ハ以  
 爲ク「經濟」ハ數學ノ如ク精細ナル數量ヲ以テ研究ノ成績ヲ裝飾スルコ  
 ト能ハザルガ故ニ、固ヨリ取ルニ足ラザル者ナリト、是レ實ニ慨歎以可  
 キノ誤謬ナリ、「經濟」ニ於テハ現象ノ原因ヲ正確ニ定知スルコトヲ得ベ  
 シ、加之若シ一定ノ結果ヲ生シ來ラント欲スルトキハ、之ヲ生ズルニ用

「可キ方法ノ如キモ其能ク十分正確ニ指示スル所ナリ、既ニ此ノ二事アラバ、以テ「經濟」ヲレテ正確ノ科學ヲシムルニ於テ十分ナリトス、何トナレハ結果ヲ得ルノ方法ニレテ正確ニ指示スルコトヲ得ベキ以上ハ、其望ム所ノ結果ノ果レテ生ズルニ至ルマデ之ヲ施用スルコトヲ得ベケレバナリ」

三十五節 「經濟」ノ此ノ「普通原理」ヲ考究スルニ於テ余輩ハ「ベーン」ノ格言ノ之ニ適當セルコトヲ知レリ、曰、「理論」ニ於テ原因ト爲ス所ハ實際ニ於テ規則ト爲ス所ナリト、蓋シ「需要」ト「供給」ノ外ニ此ノ「理係」ノ表ニ顯ハル、者無シ、故ニ「需要」ノ緩急ト「供給」ノ際限トノ外ニ「價格」又ハ「價格」ノ變化ヲ管理スルノ原因ハ一モ存ズル無キヲ確知スルナリ、「努力」「生産費」期「其他」等ノ物トイフ用「價格」ニ直接ノ感動ヲ及ボスコト無キ、若シ間

接ス感動ヲ及ボスコト有ラバ、是レ必ズ「需要」若クハ「供給」ニ變動ヲ生ズルニ因ルナリ、則知ル「努力」若クハ「生産費用」ノ變化ハ「需要」ト「供給」トニ於ケル變化ノ之ニ伴テ發スルアルニ非ザレバ「價格」ニ影響ヲ及ボスコト無キヲ此等ノ態度ノ實際ニ於テ太ク緊要ナル所以ノ者歟、後ニ至リテ明瞭ナルベシ。

三十六節 但シ一切ノ場合ヲ管理スル「普通理論」ハ唯一無他ナリト雖モ、尙ホ餘他ノ原因ニ依テ此ノ「普通理論」ヲ變改シ、抑制シ、或ハ反轉スルニ出ヅル現象、及ヒ現象ノ彙類ハ多ク存スルヲ有ルベシ、例ヘバ物體ノ地ニ落下スルハ一般ノ理法ナレド、空氣ヨリモ輕キ瓦斯ヲ以テ膨脹セシメタル輕氣球ハ地ヨリ登上スルガ如シ、人誰レカ「重力」ノ理法「輕氣

球ト上ニモ發露シテ之ヲ地ニ引ク者ナルヲ疑ハズ然レモ此ノ邊  
別ノ場合ニ於テハ輕氣ノ勢力ニ於テ重力ニ勝ツカ故ニ球ヲレガ重厚  
ナル空氣ヲ經テ登、上、セシムルモノタルナリ

○リカルド、ミル兩氏ノ經濟統系ノ根本ノ難點

三十七節 余輩ハ今リカルド、ミル兩氏ノ政治經濟學即チ「經濟統系」ノ  
根本ノ攻撃ヲ試ミ、前ニ普關單元ヲ構成スルノ法ニ就テ述ベタル所ニ  
ハ十九節及ヒ「經濟學士」ノ第三學派第三節、五ヲ是譯スルノ議論ノ大  
綱トシテ掲ゲタル所ヲ適用セントス

伊國ノ「經濟學士」「物理學派」及ヒ「コンヂャー」クノ學テ「需要」「供給」ノ「理法」ヲ  
以テ沿ク「經濟」ノ全局ヲ統括スル者ト爲スヤ、則以爲ク此ノ理法ニ更ニ  
畫定セル解釋ヲ下ダシ、以テ之ヲシテ一層精細ナル數量上ノ畫述ヲ得

シムルニ非サレバ未ダ足レリトス可カラズ

是ニ於テ更ニ賣價ヲ分析セントシタル著述家モ自ラ多キ中ニ就テハ、  
トローンハ「價格」ノ依テ定ル所ノ原因ノ中ニ於テ一切產物ノ必ズ缺ク  
可カラザル一項アリ、即チ之ヲ生産スルニ必要ナル入費コレナリト説  
キ、自ラ之ヲ稱シテ產物ノ「本然」ノ賣價ト曰ヒタリ、「物理學派」ノ統系ハ唯  
タ有形產物ノ限リヲ包含シタルヲ以テ、其分析ハ之ヲ普關ナル「價格」ノ  
理論トシテハ極メテ著シキ缺失アルコト辨ヲ俟タズ

スミスハ「物理學派」ノ轍ヲ踏ミ、讀者ヲ誘テ富資ハ「土地」及ヒ「勞力」ノ年産  
ナリト思料セシメタリ、而シテ「物理學派」ノ稱シテ產物ノ「本然」ノ賣價ト  
曰ヒシ所ノ者ヲスミスハ呼テ「自然」ノ賣價ト曰ヒタリ、氏曰「何レノ地方、  
何レノ社會ニ於テモ租銀、貨銀、及ヒ利息ノ「自然」ノ割合ナル者アリト、又  
曰、若シ以テ土地ノ租銀、勞力ノ貨銀、及ヒ生産レ、調製レ、市場ニ運搬スル

爲ニ費ス所ニ資本ノ利息ニ自然ノ割合ニ準シテ拂フハ是ルノ金額ヲ以テ貨物ヲ買賣スルコトヲ得テ、其レヨリ多キコト無ク、又少ナキコト無キトキハ、則此ノ貨物ハ所謂自然ナル者ヲ以テ賣買セラレタリト謂フ可シト

此ノ一段及ヒ其他ノ數段ニ於テスミスハ租銀ヲ以テ農産ノ賣價ノ必ズ缺ク可カラザル一部分ナリトセリ、此ノ學說ヲ以テ推スルハ、若シ地主ニシテ租銀ヲ納メザランコトヲ承諾セバ、禾穀ハ其賣價ノ中ヨリ此ノ租銀ニ均シキ部分ヲ減スベシト言ハザルヲ得、然ルニ他ノ一段ニ於テスミスハ賣價ヲ以テ租銀ノ原因ナリトセリ、此ノ事項ノ重大ナルト、スミスノ論旨ノ矛盾セルトニ因テ、大ニ討論駁議ヲ生シタル事ハ、之ヲ「租銀」ノ章下ニ詳悉シタレバ此ニ細述セズ

次テリカルド出テ、貨物ヲ二種ニ區別シヌリ、左ノ如シ

(第一) 供給ニ純全ノ制限アリテ、人カヲ以テ之ヲ増殖ス可カラズ、從テ供給ノ増加ニ因テ價格ヲ下落セシムルニ至リ難キ者ヲ第一種トス、氏曰、希代ノ彫像、繪画、珍書、古錢、格段ナル土地ニ生ズル葡萄ヲ以テ製スル所ニシテ特別ノ良品トスル葡萄酒ノ分量ニ際限アル者、等ハ皆此ノ種類ニ屬セリ、此等ノ物ノ價格ハ元來之ヲ生産スルニ必要ナリシ努力ノ分量ト全ク關係ヲ絶チ、只々之ヲ嗜ム者ノ富貴ト意向トノ變動スルニ從テ變動スル者ナリト

リカルド曰、此ノ類ノ貨物ノ價格ハ全ク「需要供給ノ理法」ノ主宰スル所ナリト、而シテ氏トミルトハ「努力」ヲ貨物ノ此ノ種類ニ屬セシメタリ

(第二) 一定ノ制限無ク、人類ノ努力ヲ以テ隨意ニ増加スルコトヲ得ベキ所ノ者ヲ第二種トス、而シテリカルドノ著述ノ目的ハ主トシテ此ノ類ノ貨物ノ價格ヲ討究スルニ在リ、但シリカルドノ斯ク討究ヲ此ノ一